

THE HORROR
WORLD
OF JUNJI
Collection

伊藤潤二 恐怖マンガ

[1] 富江



目次

富江	3
----	---

(「月刊ハロウィン」1987年2月号掲載)

富江・写真	33
-------	----

(「月刊ハロウィン」1989年11月号～12月号掲載)

富江・接吻	97
-------	----

(「月刊ハロウィン」1990年2月号掲載)

富江・屋敷	159
-------	-----

(「月刊ハロウィン」1990年4月号掲載)

富江・復讐	193
-------	-----

(「月刊ハロウィン」1993年6月号掲載)

富江・淹壺	225
-------	-----

(「ネムキ」1995年VOL. 28 掲載)

富

(とみぞ)

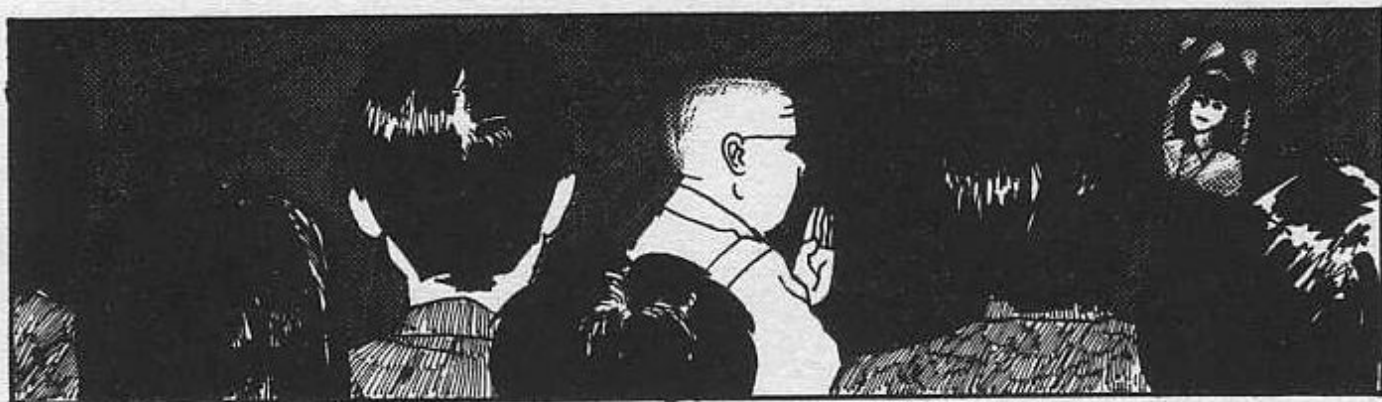
江



友人の富江^{とみえ}が
死んでしまった



あちこちで
バラバラ死体で
見つかったのです



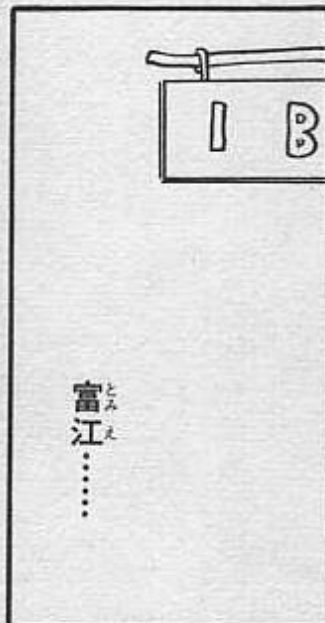
まだ全部は
見つかって
ないそうよ
なにしろ細かく
バラして
あるんだって



犯人も
まだ捕まって
ないんですよ？
怖いわねえ

担任として
責任を感じ
ます
課外授業の
後だった
だけに……





でも一番
かわいそう
なのは
山本くん……
富江のこと
あんなに
思ってた
のに



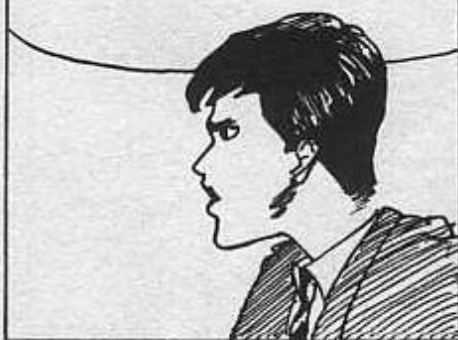
犯人の
手がかりは
今のところ
つかめて
いない
そうだが
おそらく
変質者の
仕業だ



山本くんの
ような
男の子を
引きつけて
おきながら
富江ったら



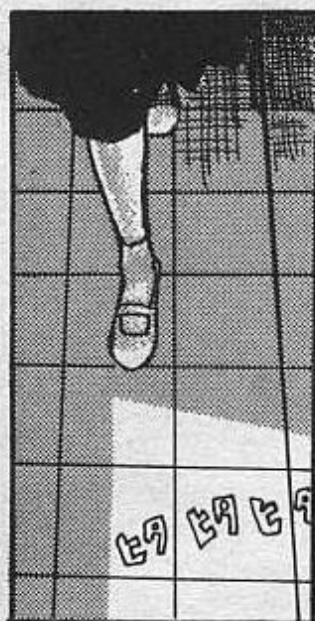
まだこの町に
潜伏している
可能性が
高いらしい……
特に女子は
一人歩きせず
必ず数人で
行動するように



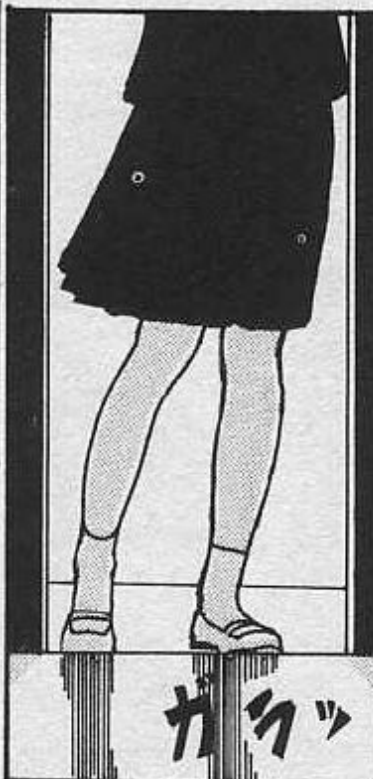
富江の死は
教訓だ
悲しいが
現実なんだ
現実
現実
現実
として
受け入れな
ければなら
ない



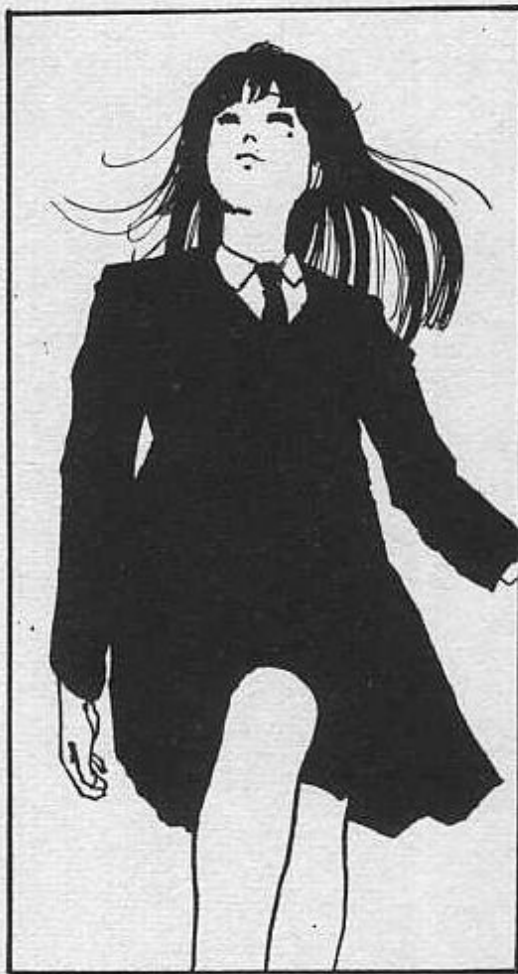
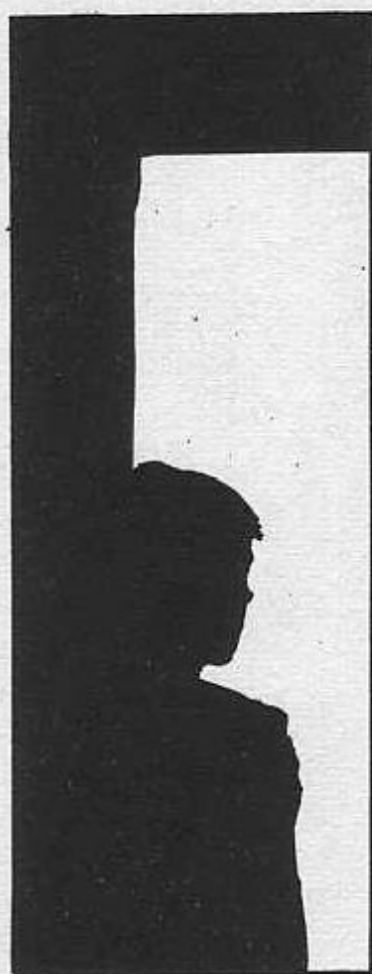
いくら
嘆いても
……

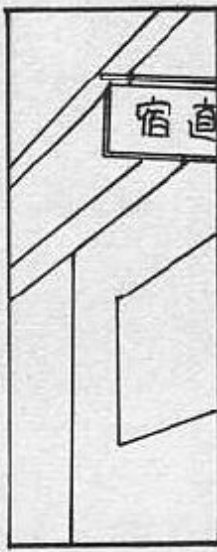


富江は
帰っては
こない



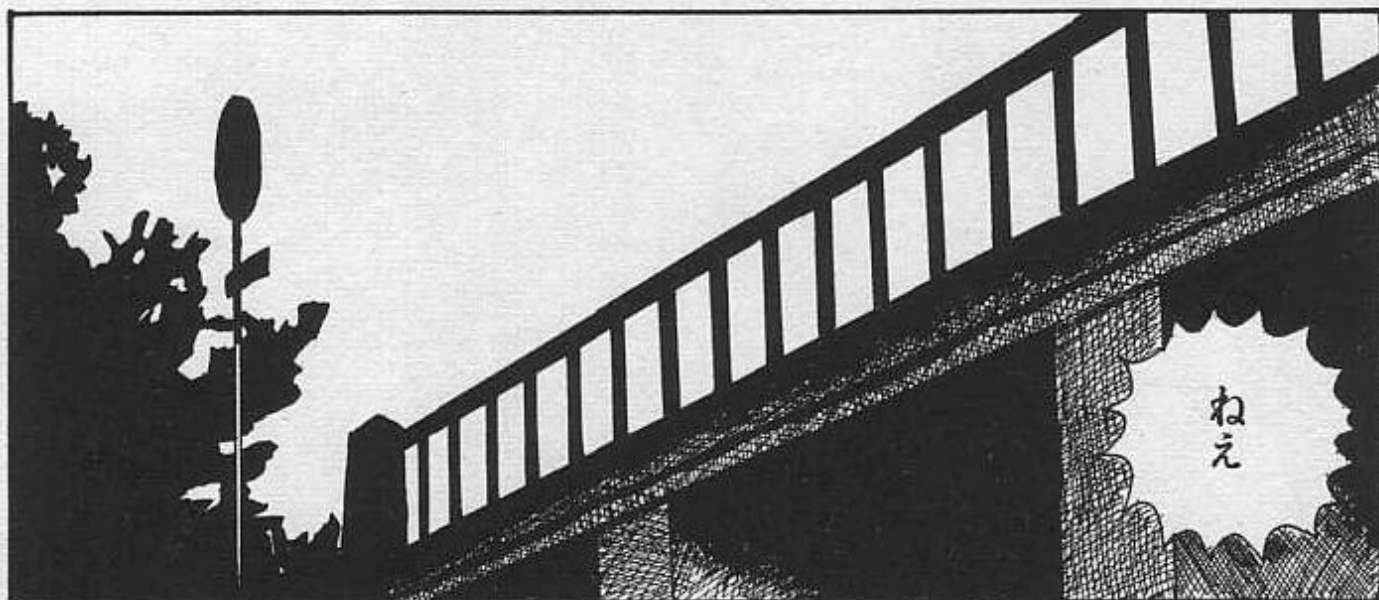
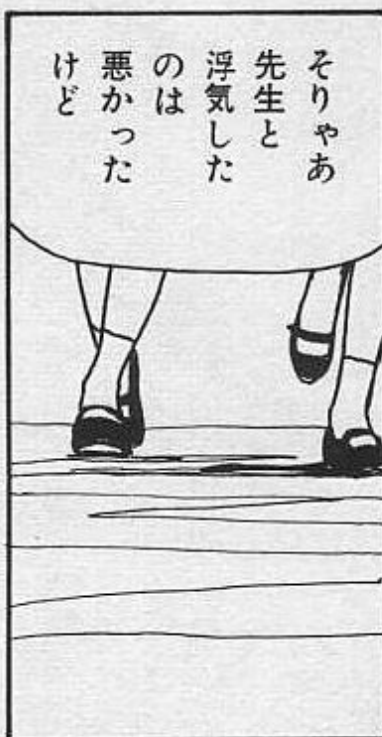


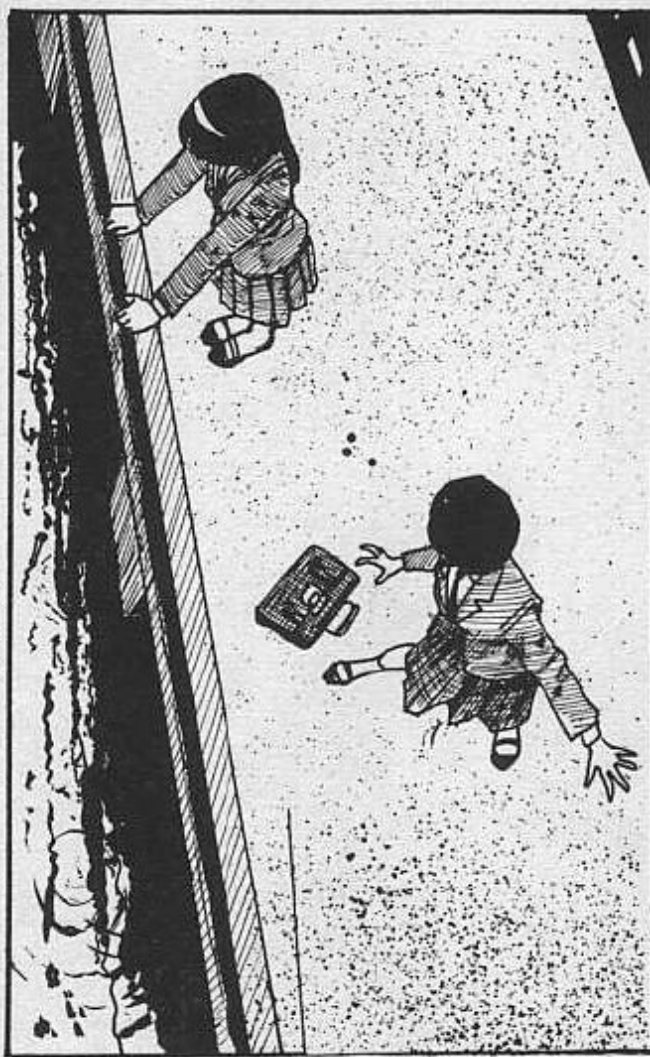
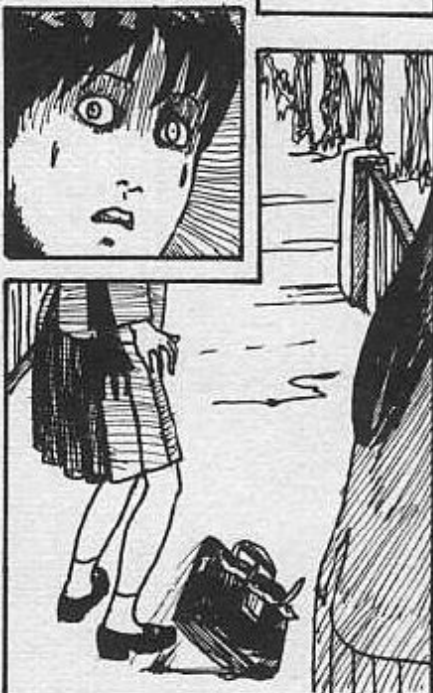




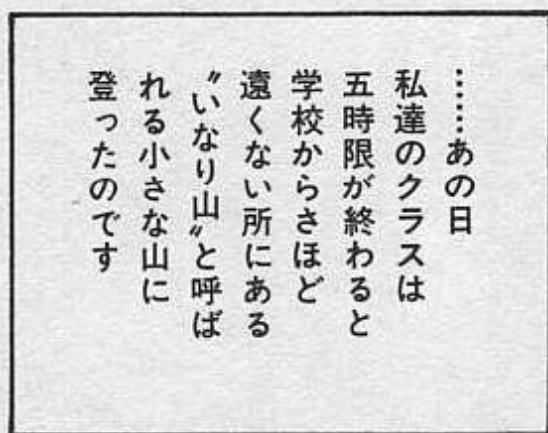
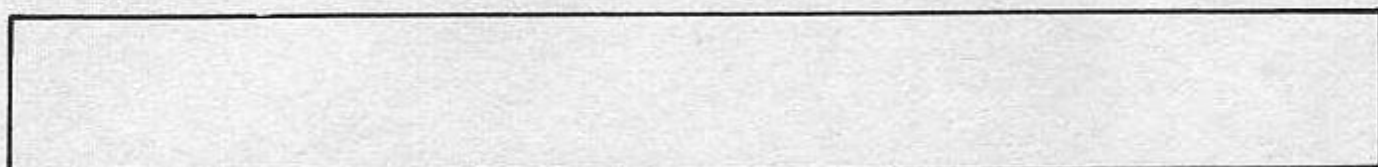
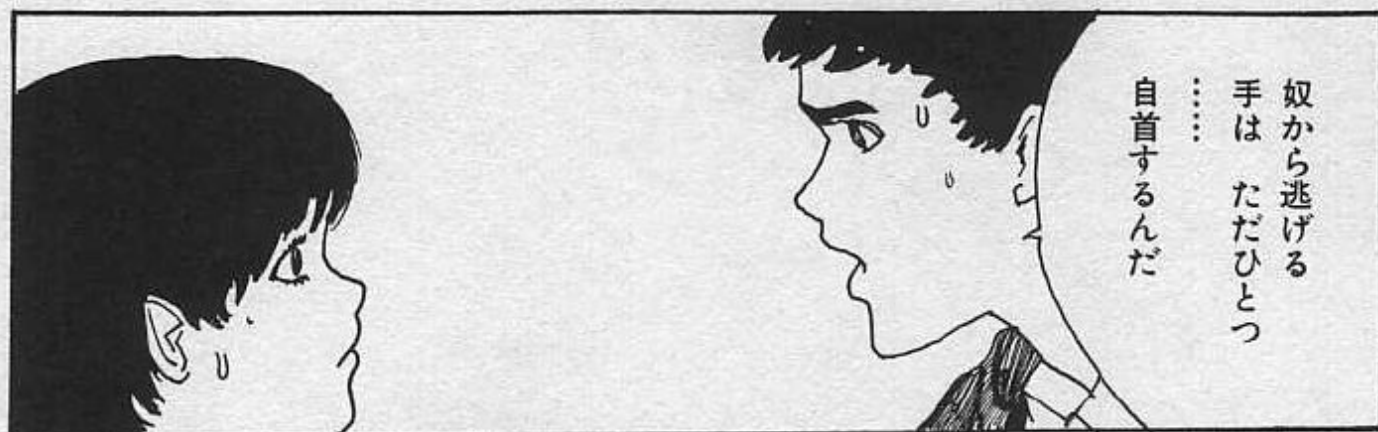


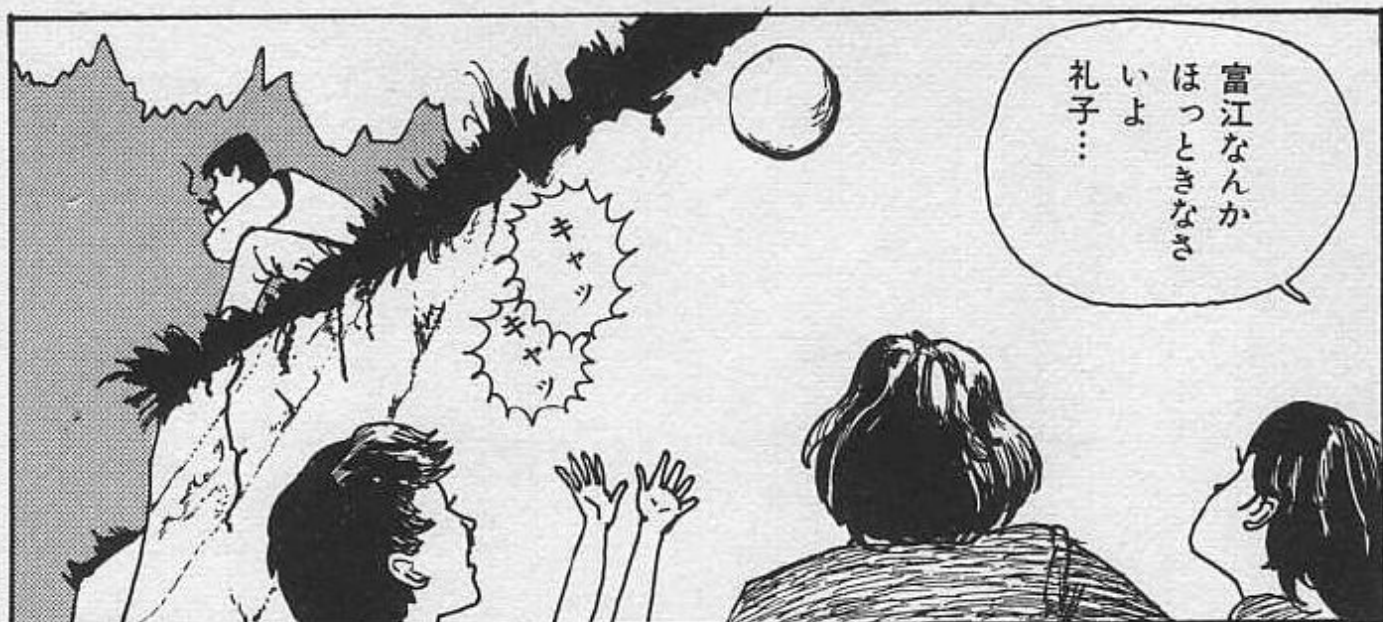






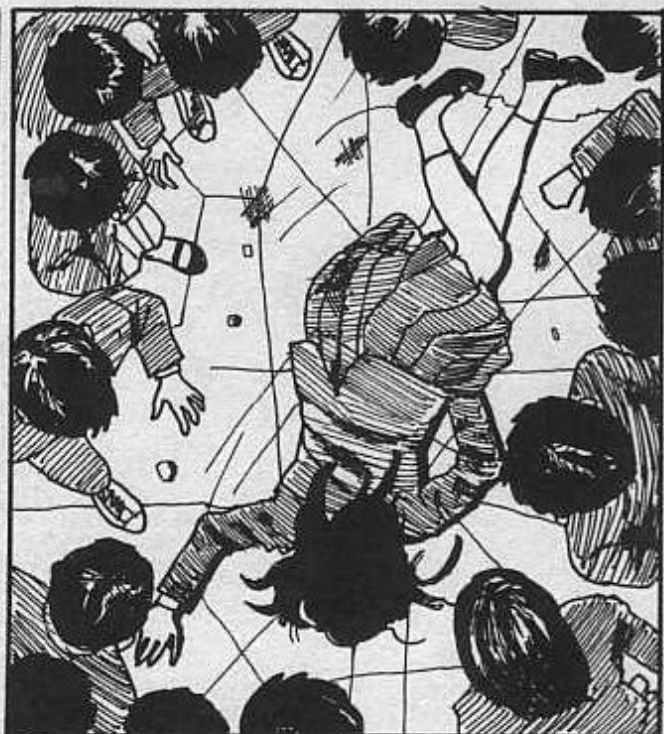




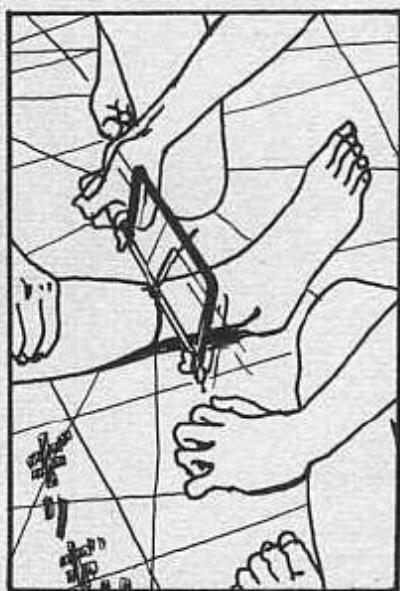
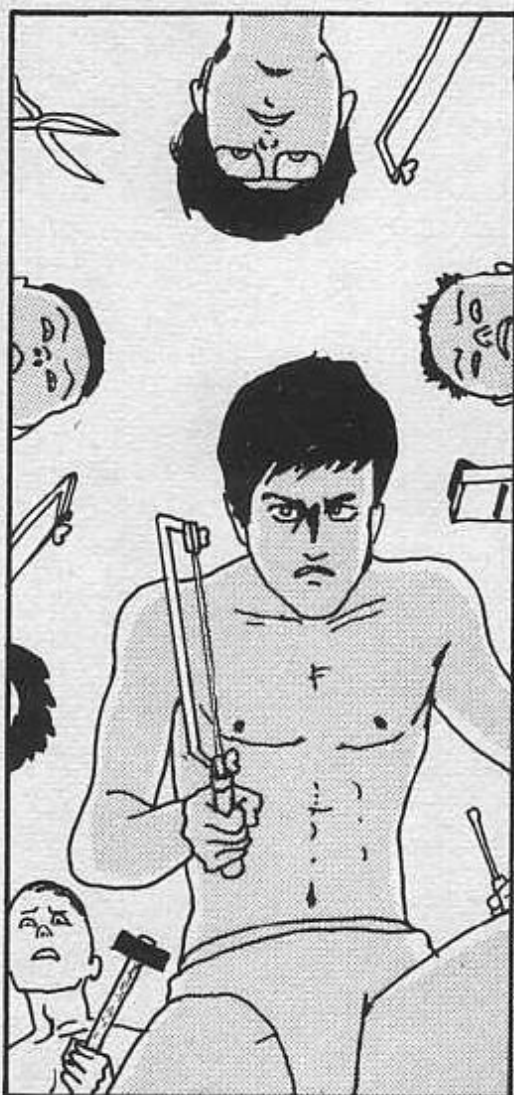
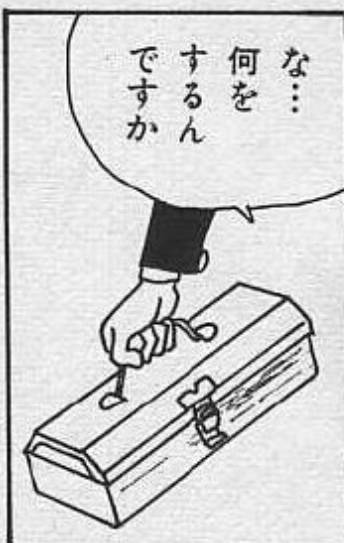




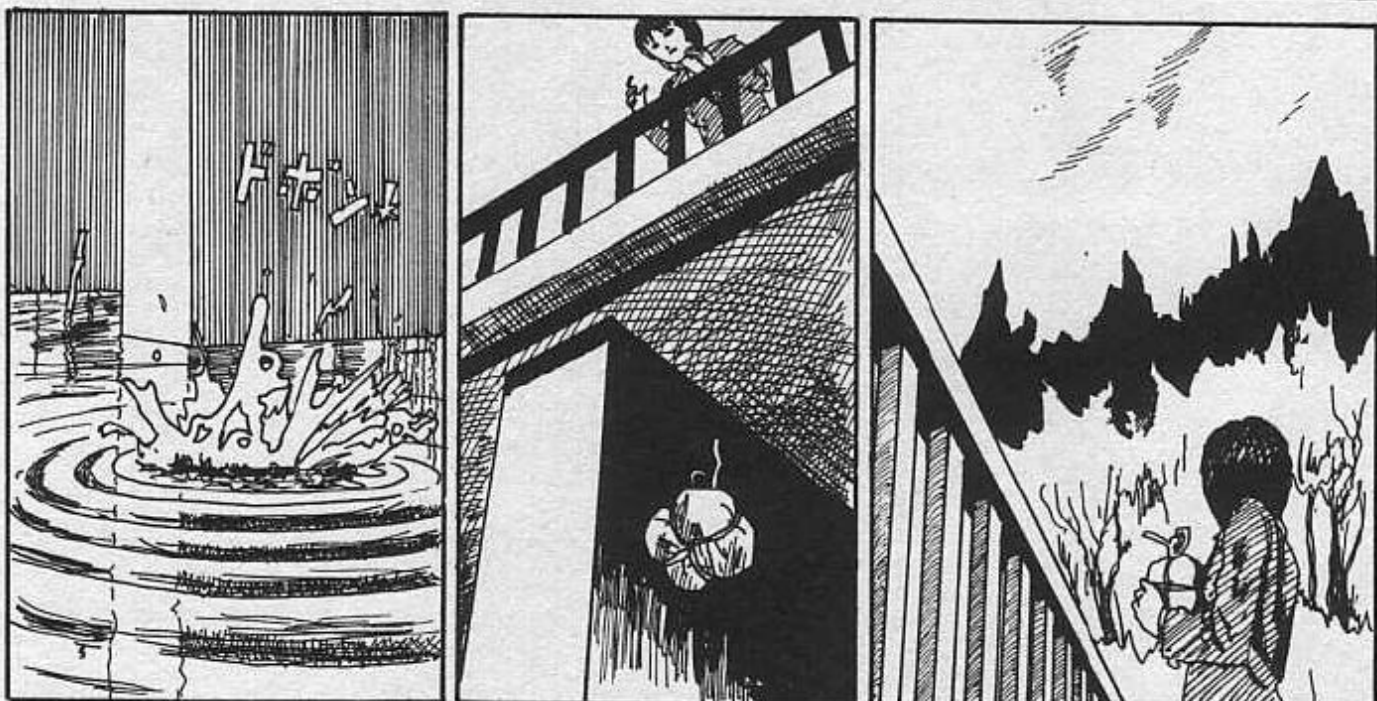


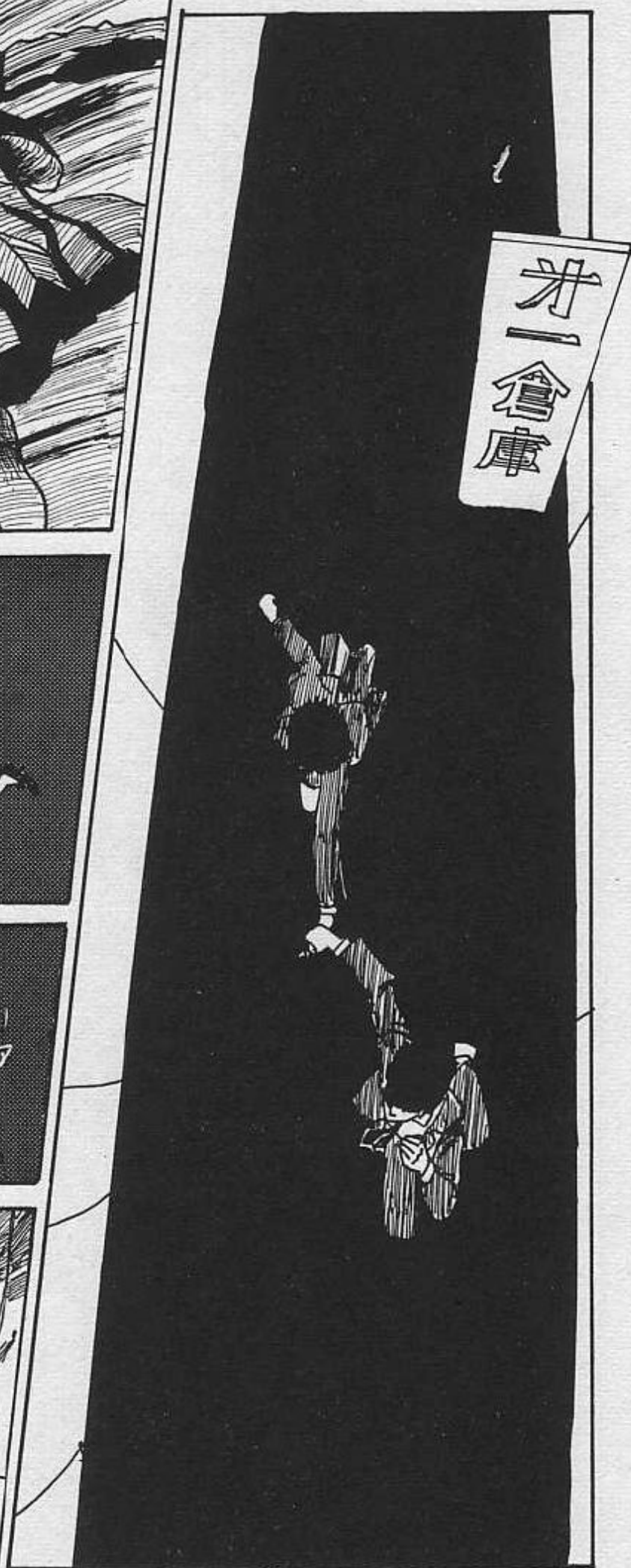
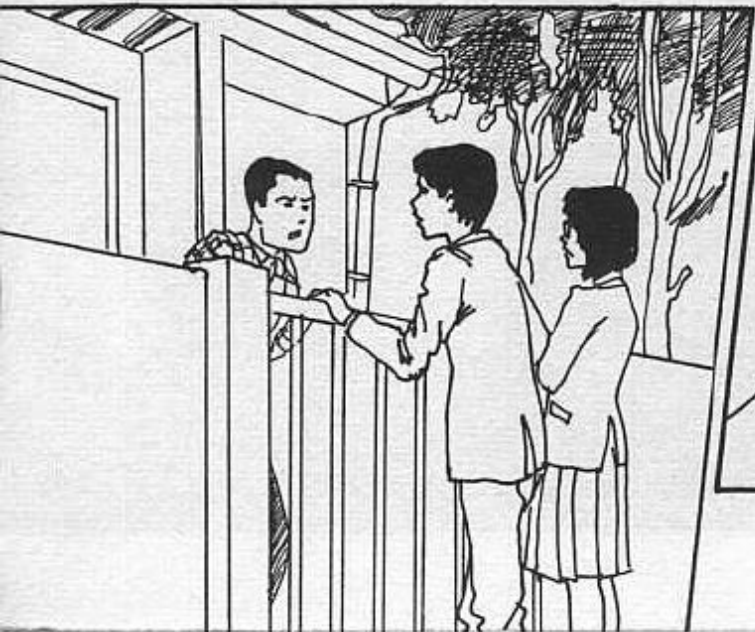


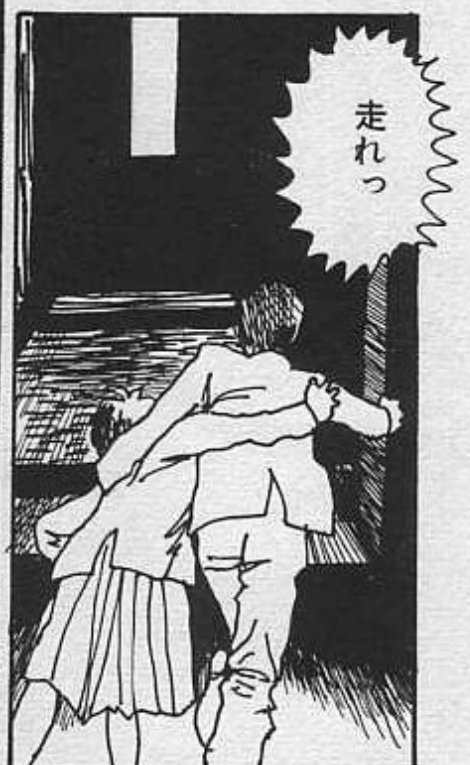


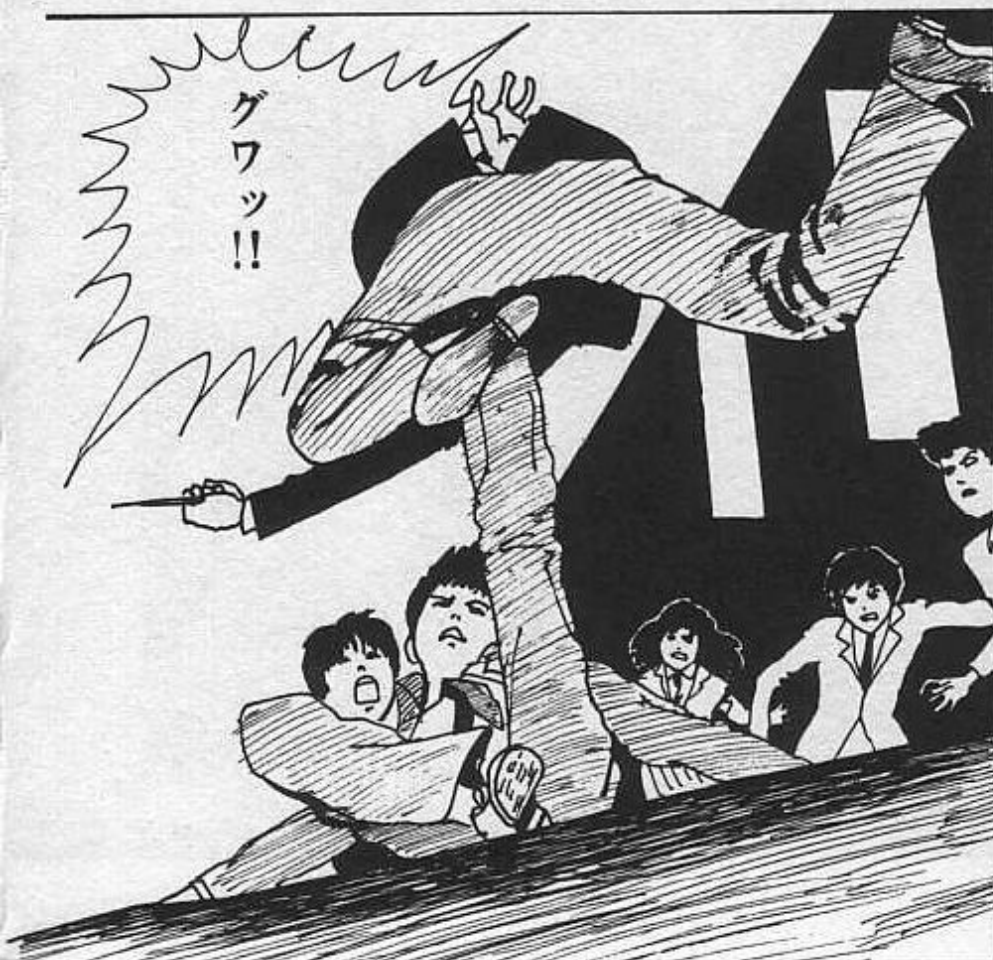


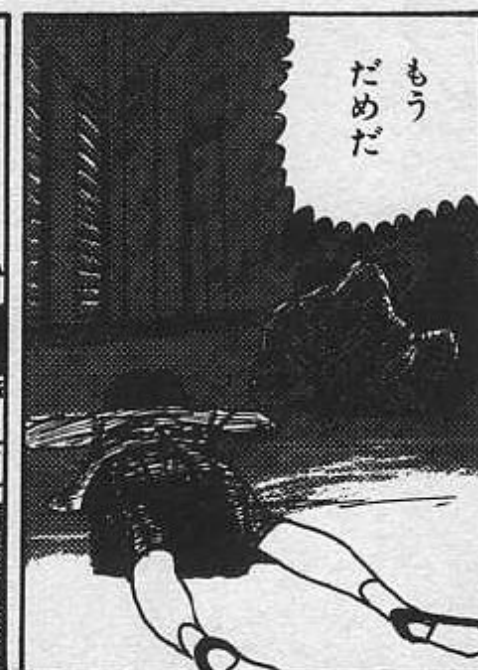
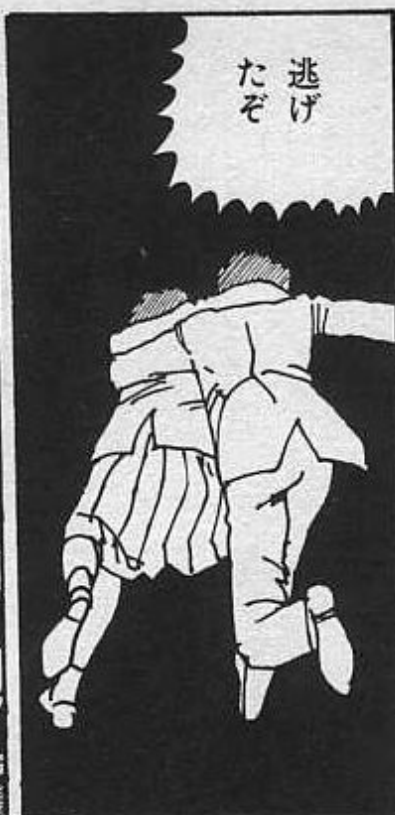


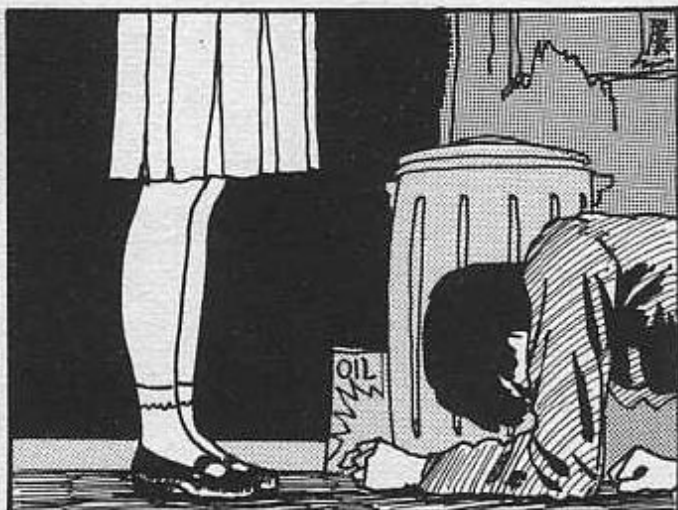


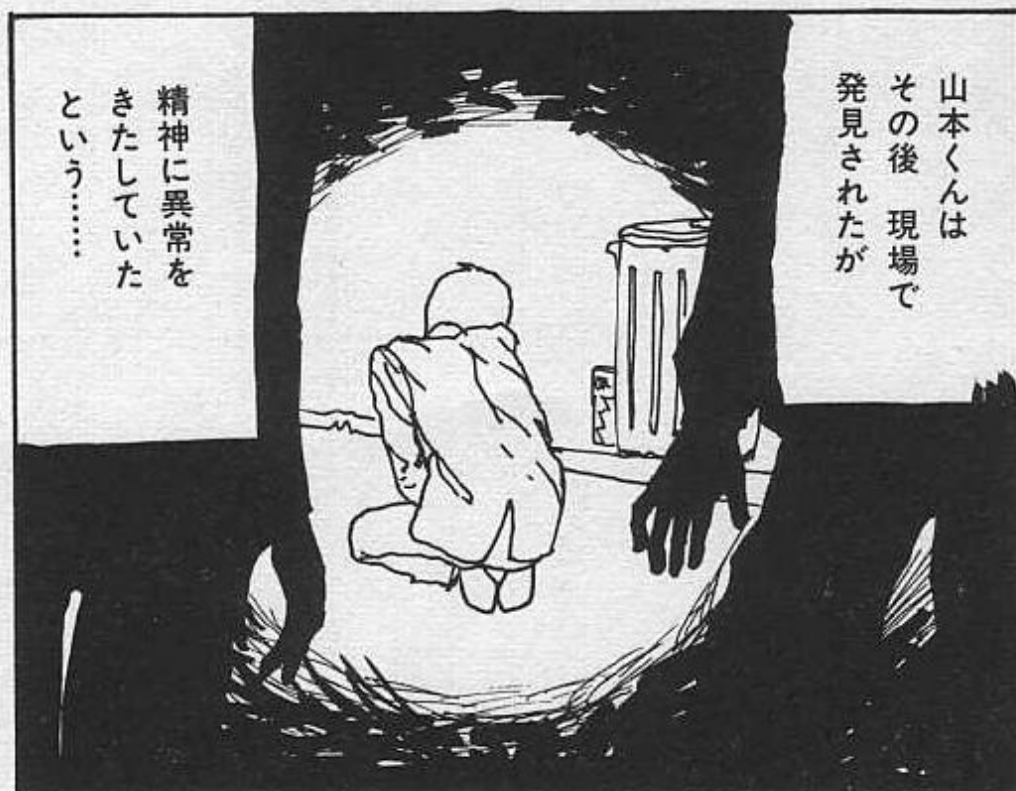
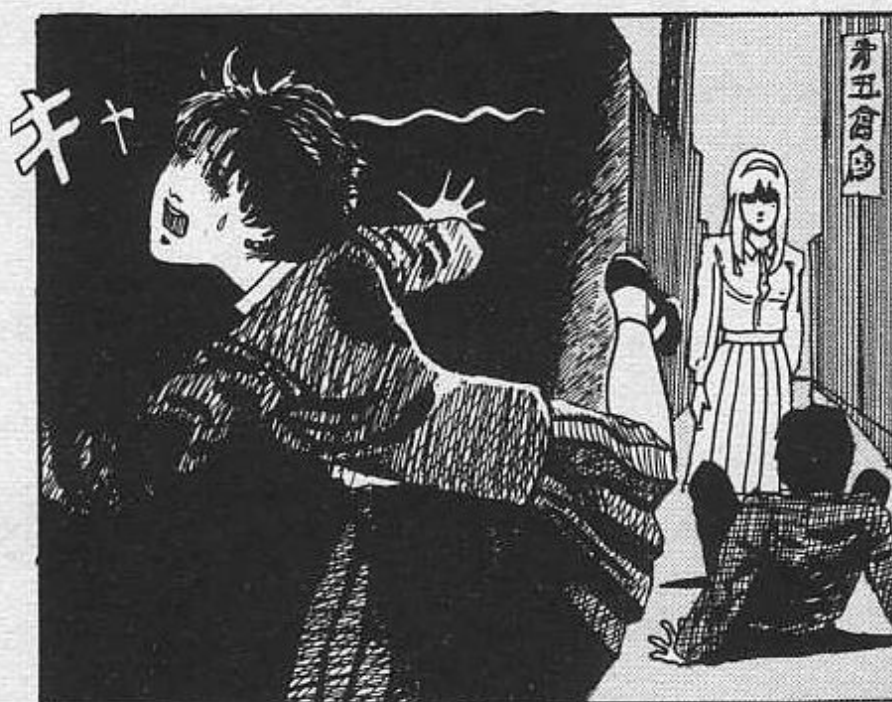




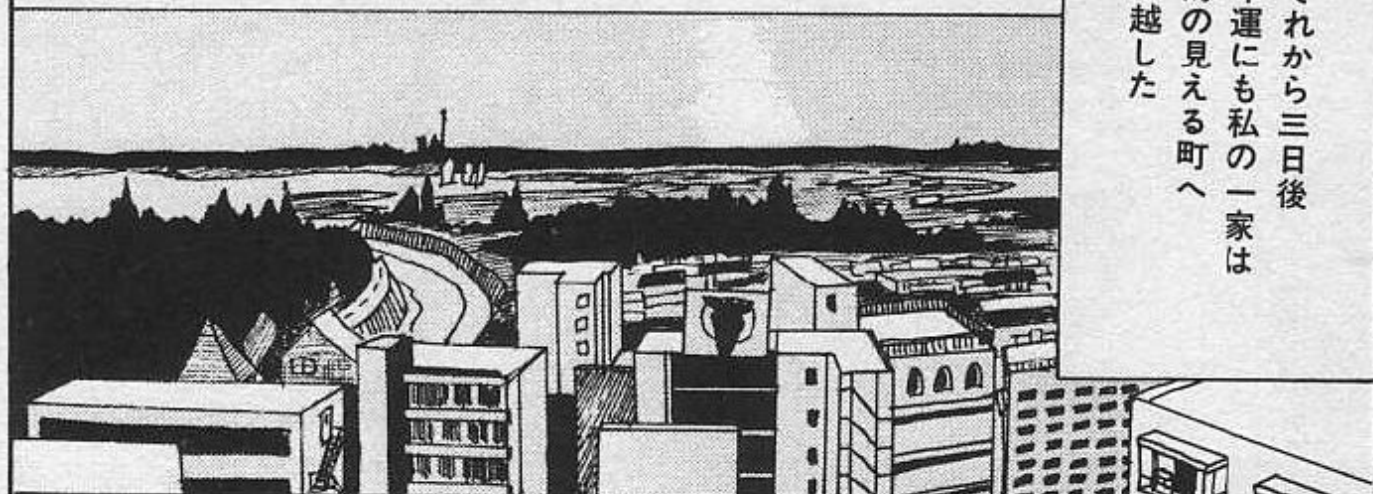




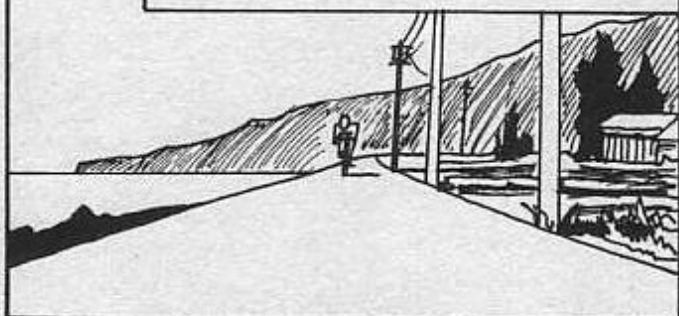




それから三日後
幸運にも私の一家は
海の見える町へ
引越した



聞くとところに
よると現在
一年B組は
退学者が
続出 2人が
自殺
なかば
崩壊状態に
あるという

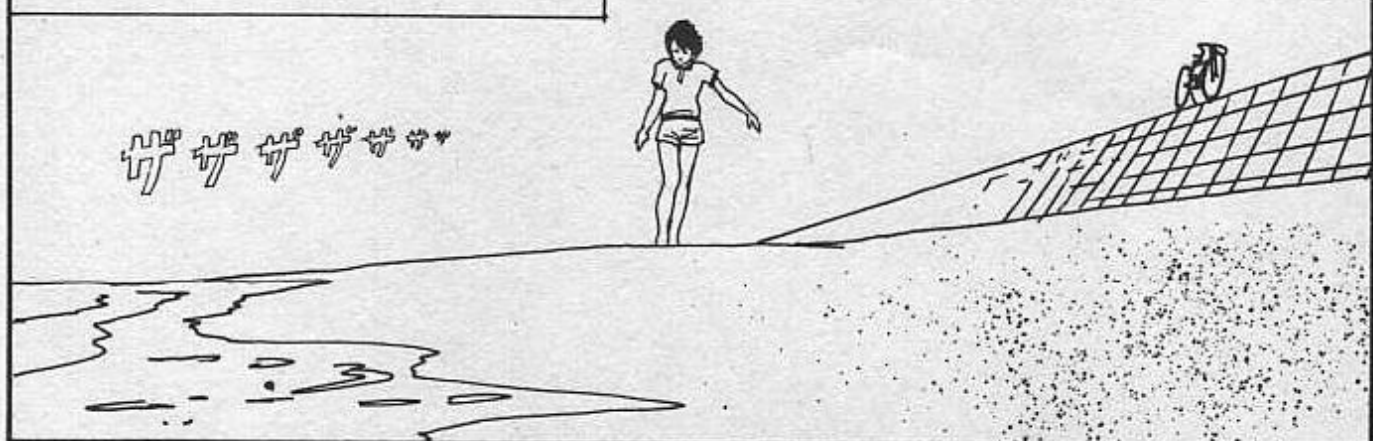


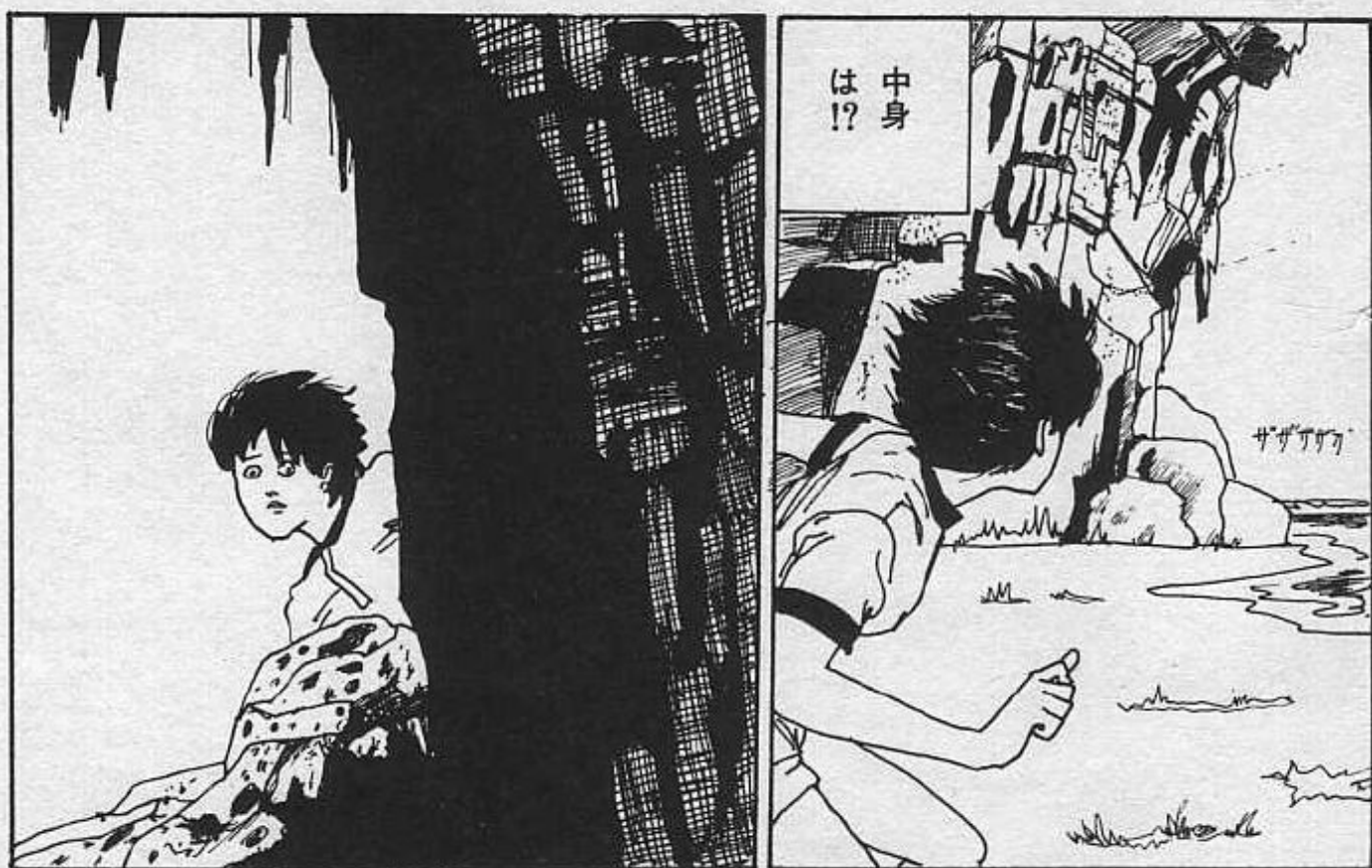
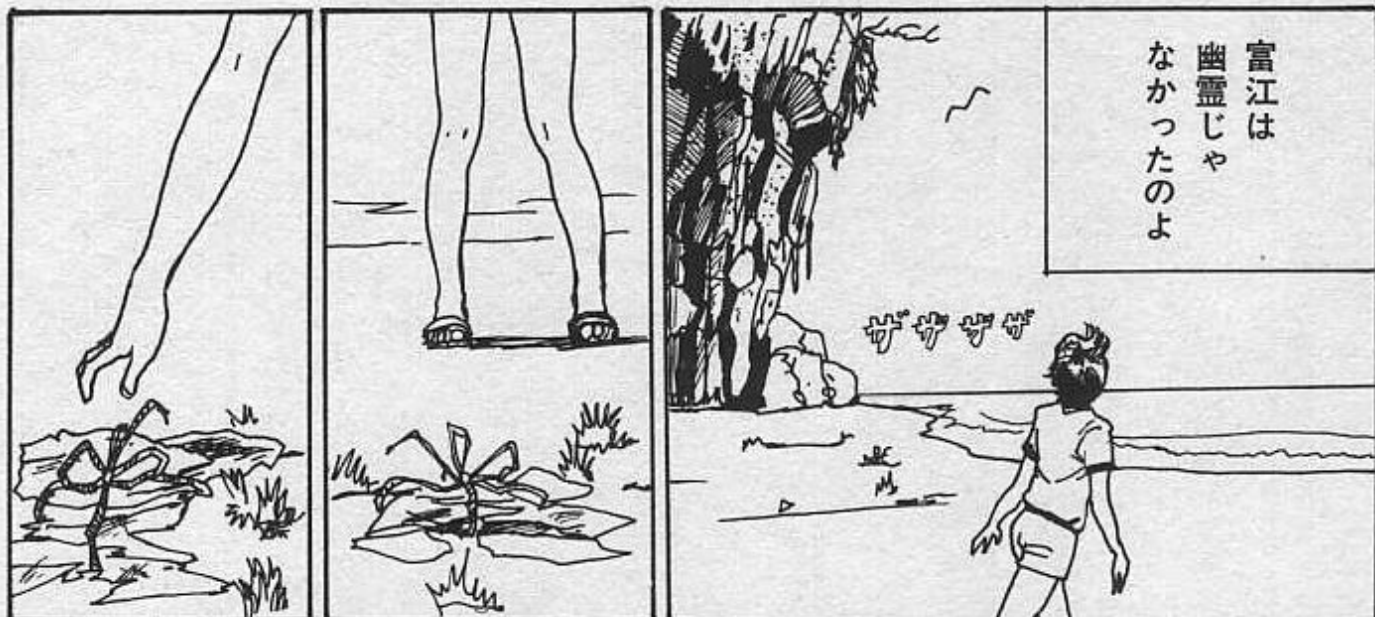
富江が
どうなったかは
わからない



……でも
今になって
落ちついて
考えるのだ
けれど……
やっぱり富江は
生きていた
のだわ

あの課外授業
……
あれが夢だった
のよ
みんなが悪夢を
同時に見た
としか考えられ
ない
だって あんな
授業って
あり得る？





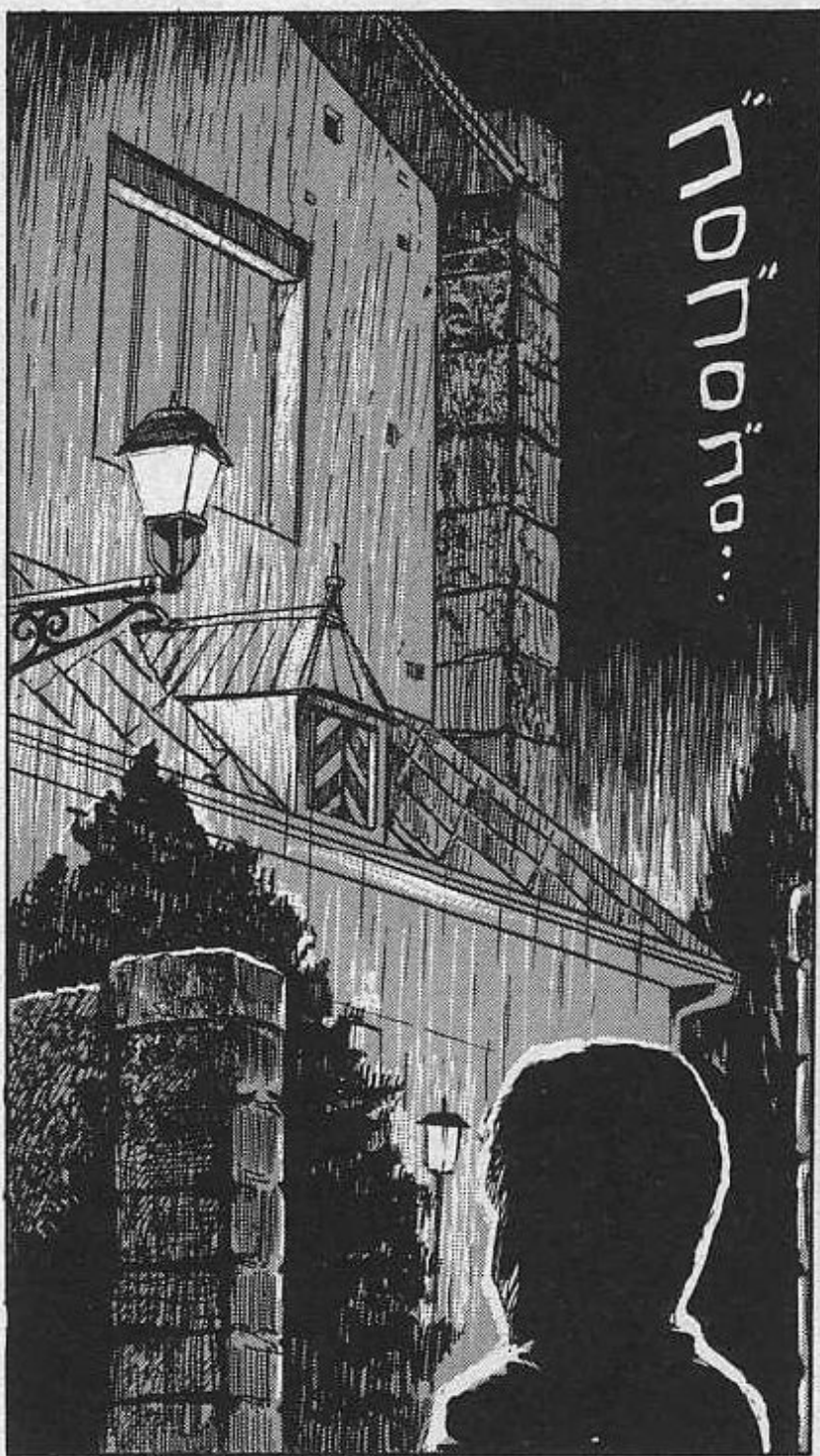
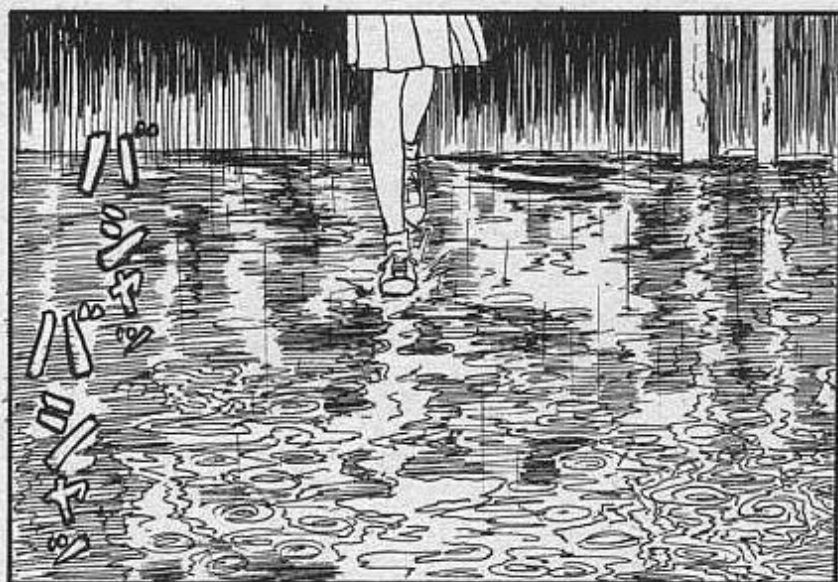


また新しい
富江が
やってくるっ!!



写真

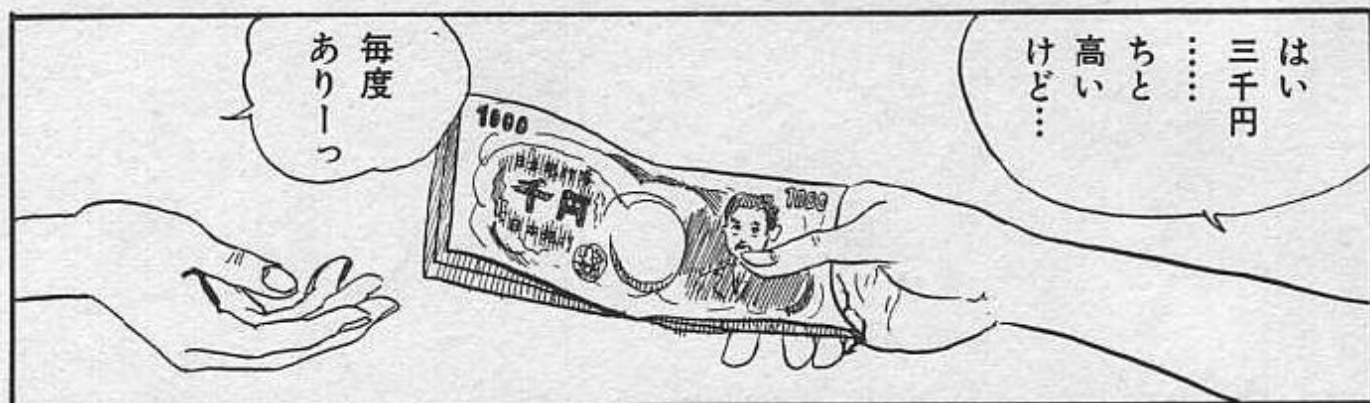
ноћно...



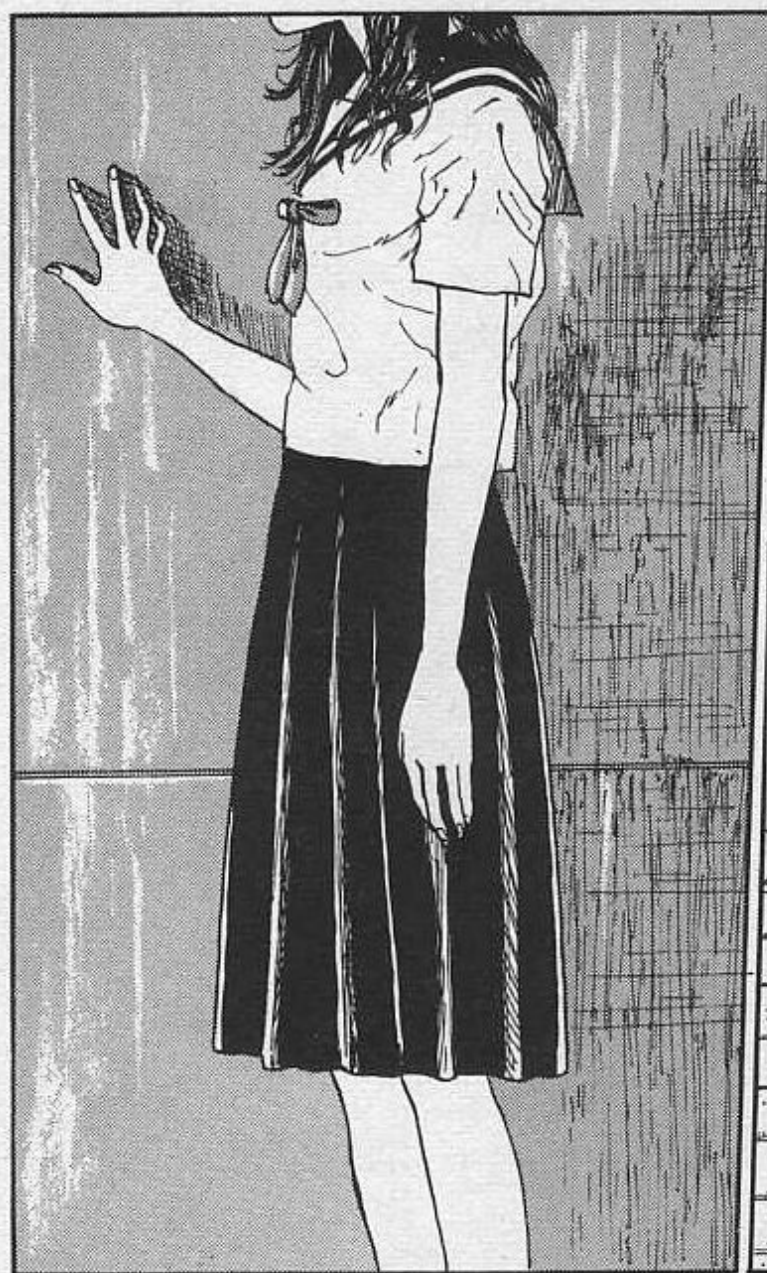




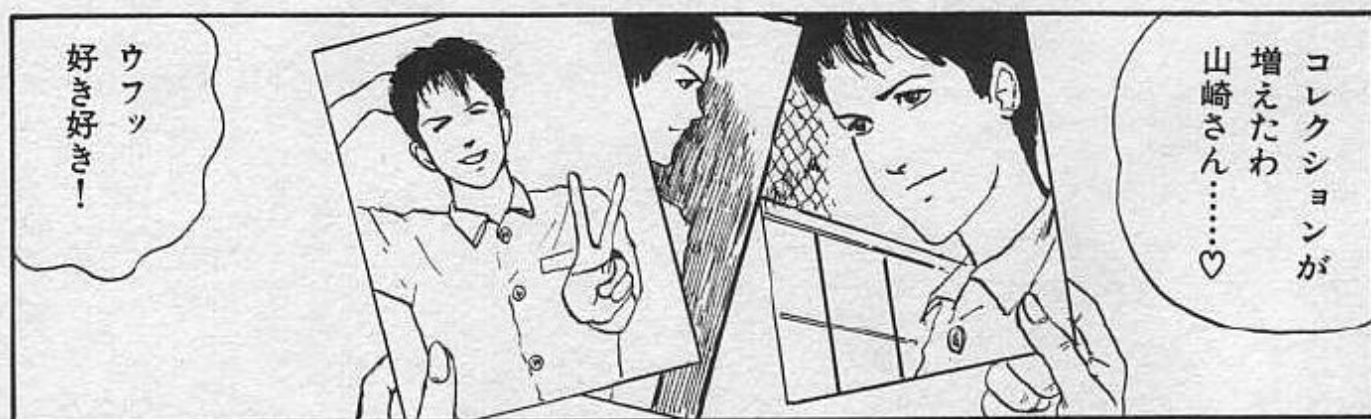
















あなた……
ご自分の
なさってること
どう思う？

風紀上
好ましくない
と思わない
の？



川上さん
……



くだらない
男の子の写真を
校内で売るなんて
……
それも法外な
お値段で

先生に知れたら
大変ね



そ…そうよ
私は売ったり
しないワ

ふん



……ちがうのよ
川上さん
月子さんは
売ってるんじゃないのよ
私は見せて
もらってるだけ

ね
月ちゃん

ごまかしたって
だめよ
一万円で売るんで
しょ？
聞こえたわよ

太地君 泉沢君の
カバンの中を調べて
まだ商品が
はいってるかも
しれないわ

はい

かせっ

あっ

やめてよ

何するのよ！
何の権限が
あって……

……
ありましたよ
富江さん

こんなに
たくさん
あるじゃないの





そうなの
ネガも
はいってんの
よね

写真で
山崎
さんの
？



でもさあ月ちゃん
ちよつと相手が
悪いかもよ

どうして？
そんなこと
ないわ……
いまは片思い
だけど



いやなやつ！
気どっちゃってさ
男をひきつれて
女王様気分？
なにが風紀委員よ
写真返せつつうの

校内パトロール
のつもりかしら
「ねらわれた学園」
じゃあるまいし



ちがうちがう
なにいつてんのよ
川上富江のこと……
さつき先生には
報告しないなんて
いつてたけど……

どうだか
わからないわよ
うわさだと
相当やってる
みたいだから



やだ
マーちゃん
おどかさ
ないでよ

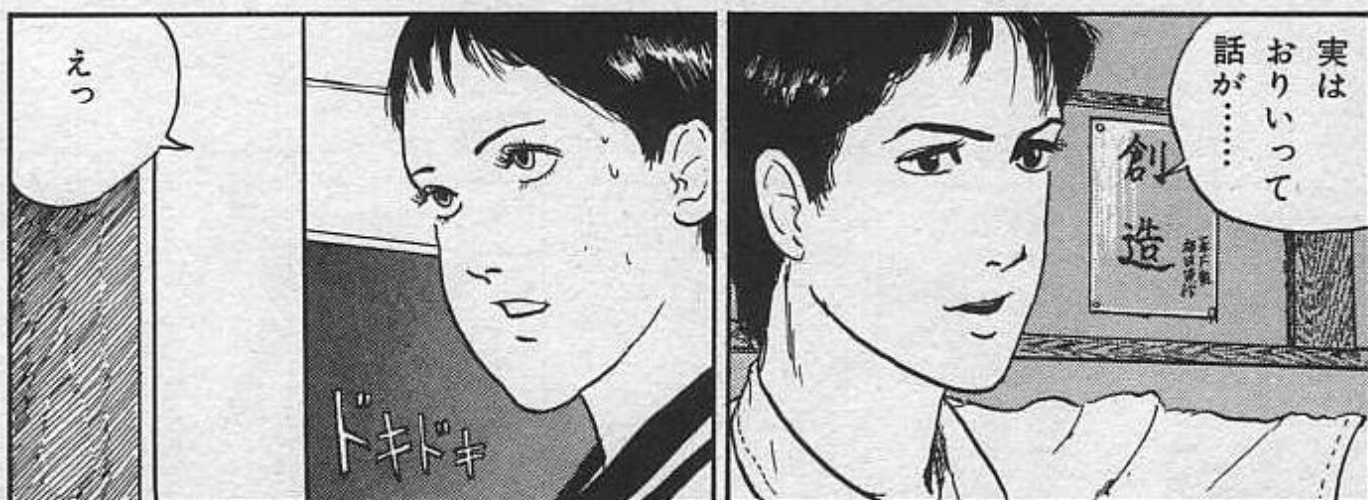
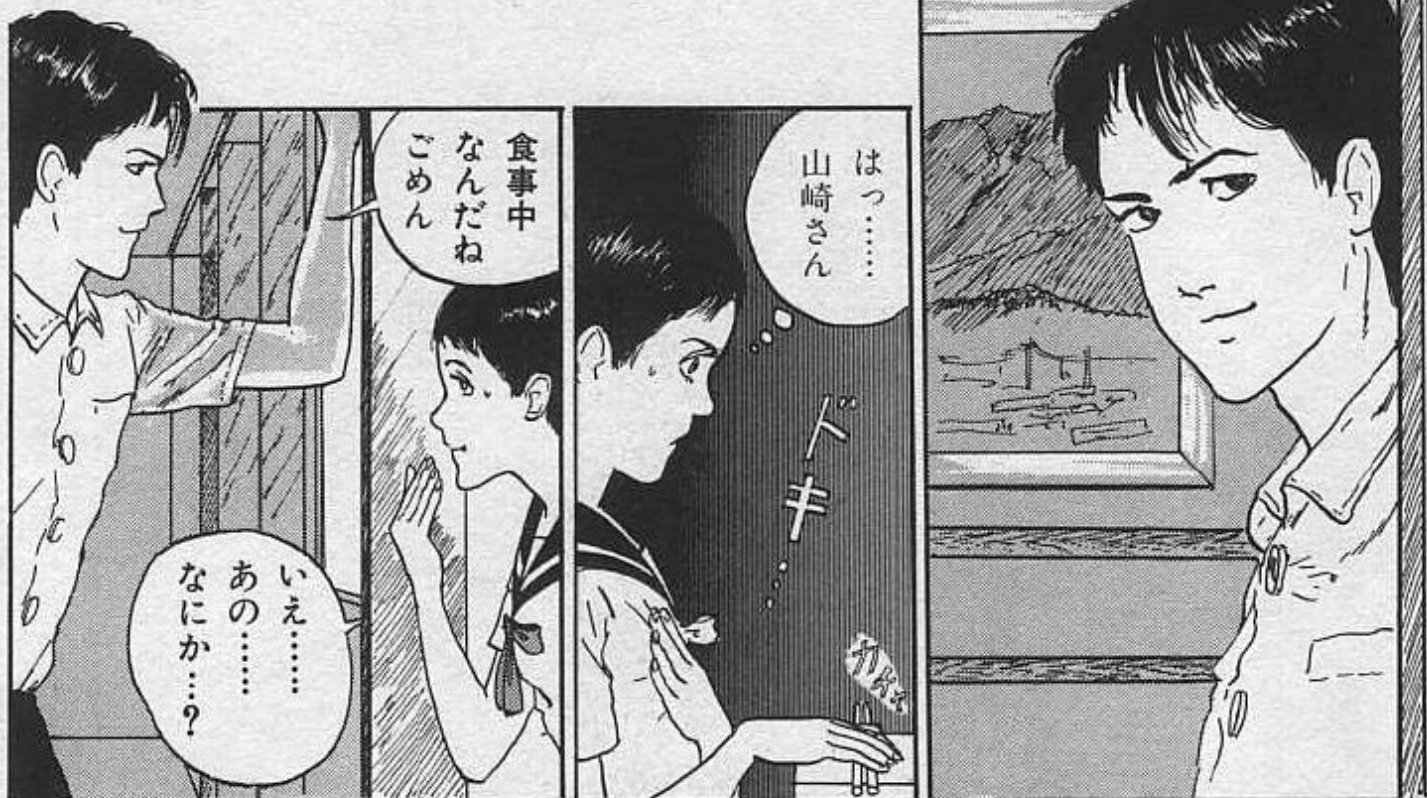
……
いいわよ……
しらばつくれれば
すむことよ
証拠もないわ

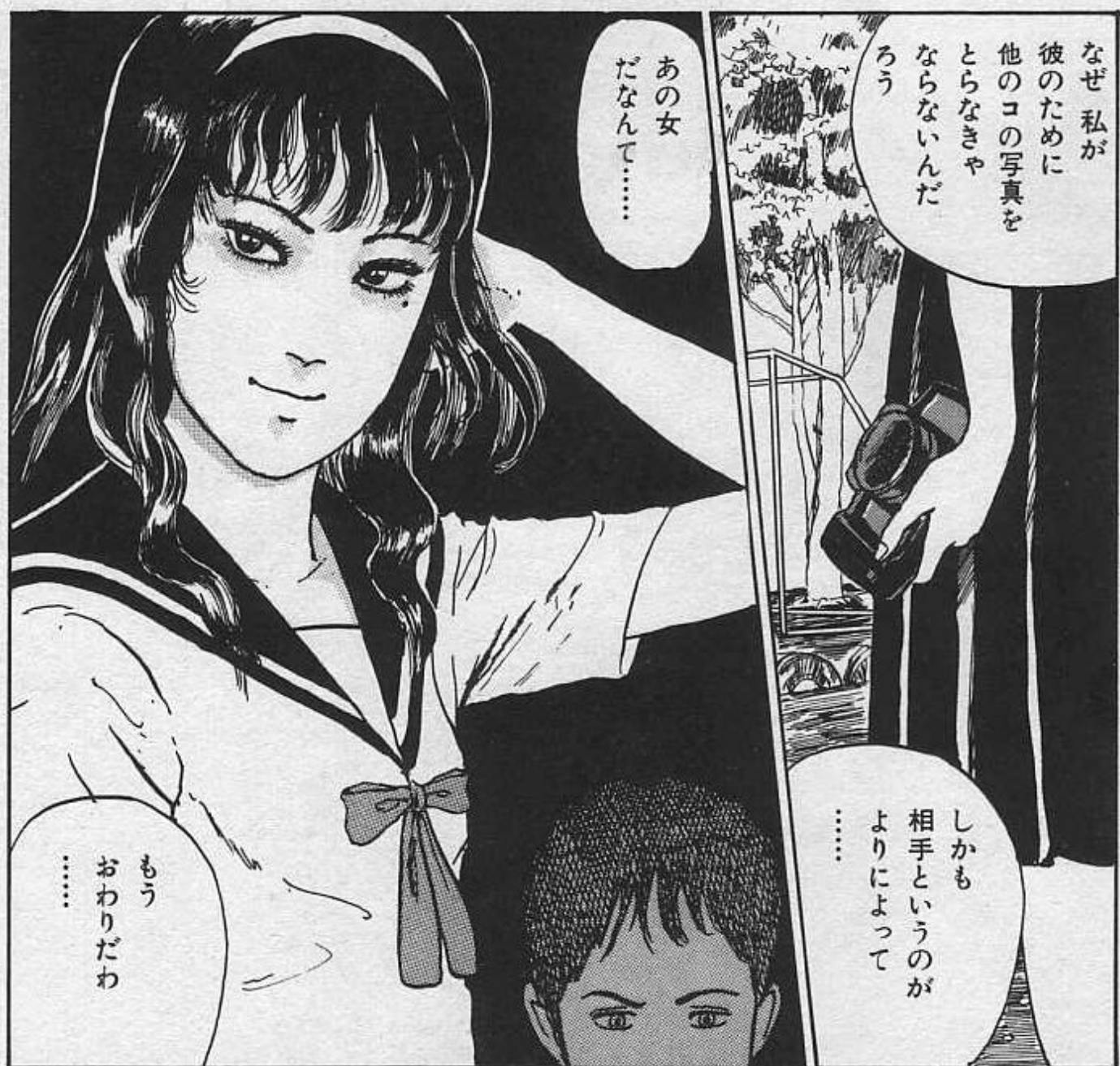


この間D組の
林君が
停学に
なったでしょ

あれって
あの女が
チクった
らしいわよ







こうして
あなたへの
思いを綴^{つづ}って
きた
私の日記
は……

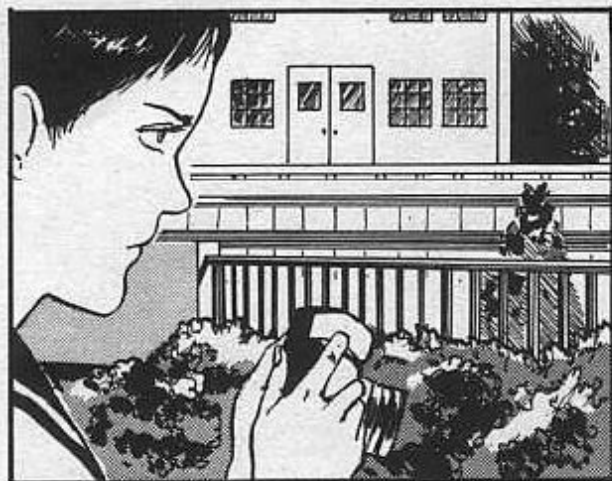
今夜で
最終回を
迎える
わけね

なんかなんか
くそ……

それにしても
あの女が
見つからないわ











泉沢
~~~~  
オレは悲しいぞ  
オレが顧問の  
部に限って  
こんなことする奴は  
いないと信じて  
いたあ~~~~



あつ  
谷先……



ちがう  
んです  
先生

お前は  
あの暗室を  
そんなことに  
使って  
いたのか~~~~



写真部と  
いうのは  
写真を売って  
金もうけを  
するための  
クラブかあ  
~~~~

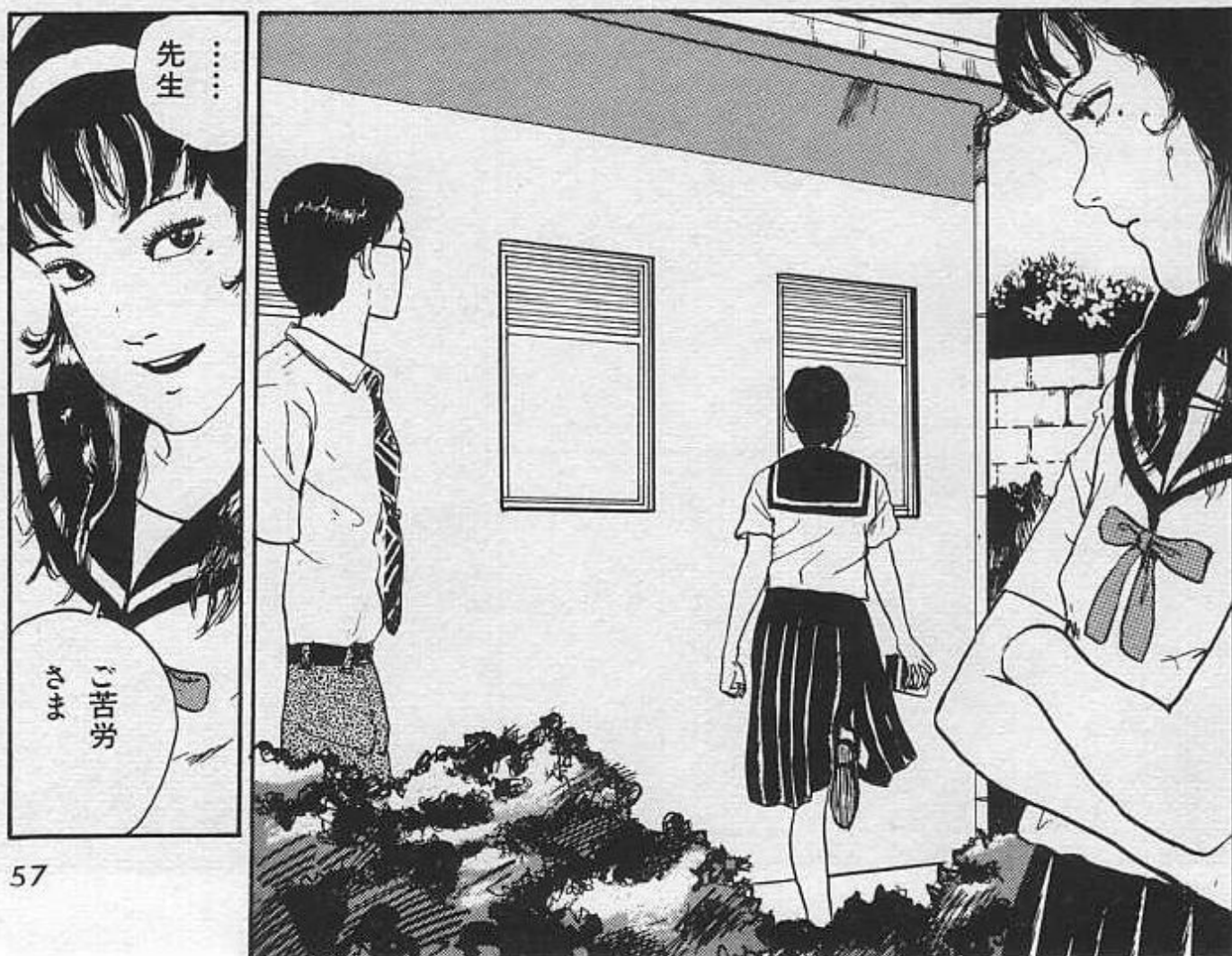


あつ
待て~~~~



なにがちがう?
なにも
ちがわんでは
ないか~~~~

ふふふ
現行犯ね



結局私は
停学処分と
なつてしまつた

一週間家で
よくよく
反省しなさい
もう帰つて
よろし

はい

校長室

失礼
します

バタン

もう
最低……

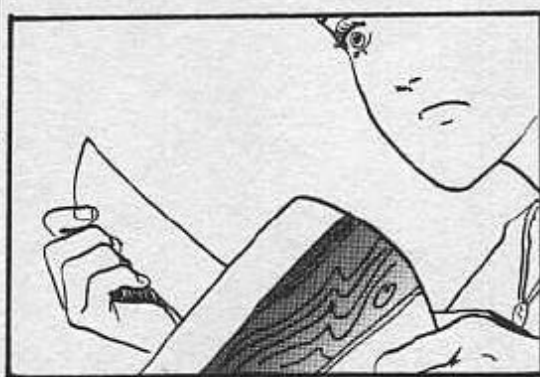
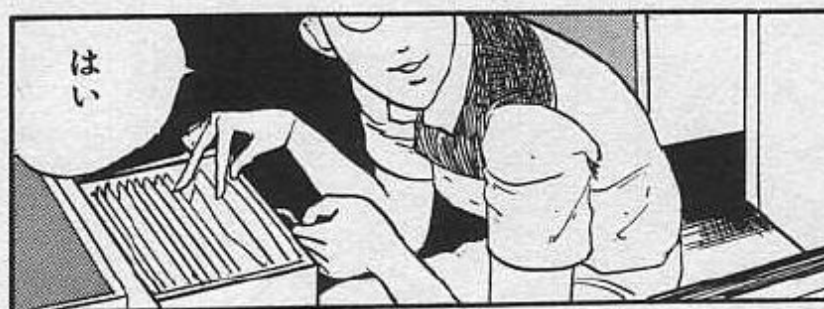
……
それにしても
あの女……

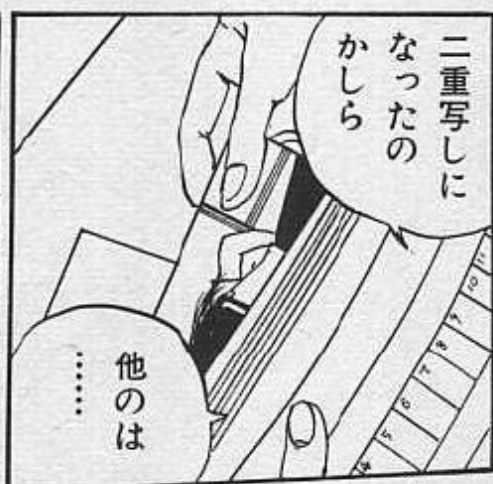
今に
覚えて
らっしゃい……

でもひとつ
気になる
のは……

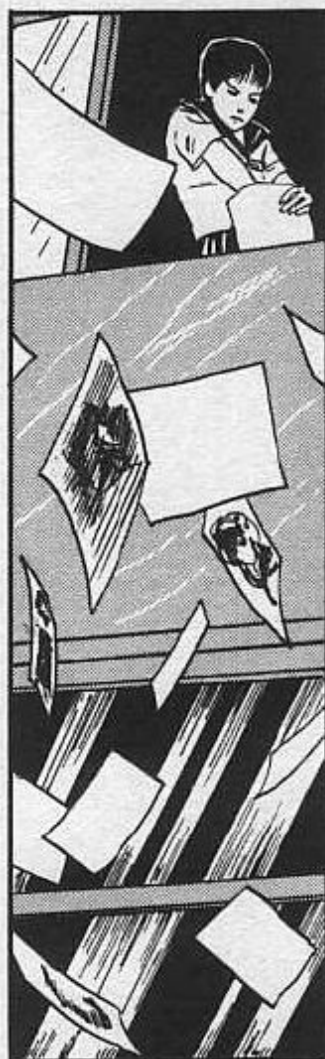
あれは
富江の策略
だったの
かしら

まさかね……
山崎先輩が
ぐるのはずは
ないわ







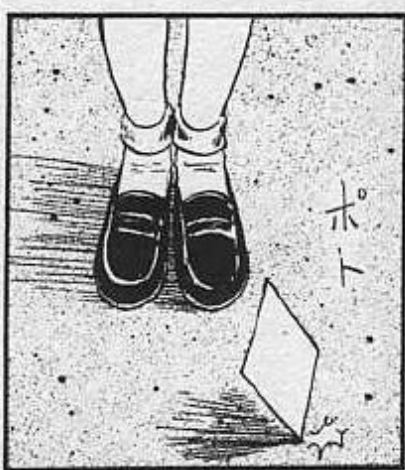
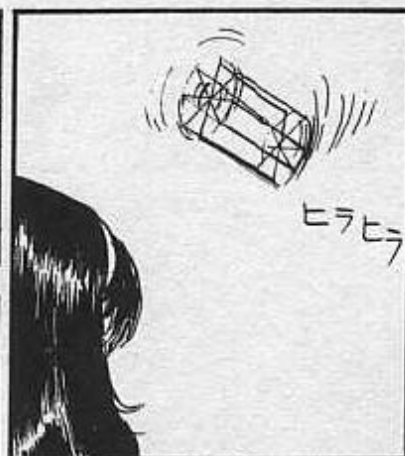
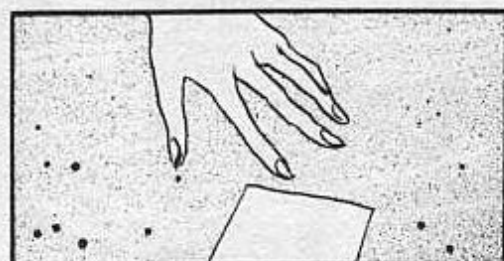


なんだ？
札か？

おや？
なんか降って
きた

バ
ッ

写真
だよ





これで
お・し・まあい
……と

ざまあみろ
お望みどおり
バラまいて
やった



さあ
先生に
見つからない
うちに
退散だ

ガヤガヤ



ね……
あなたたち

お願いが
あるの……
聞いてくれる？



フッフ
あの女
どんな顔
するかしら

してやったり
だわ





狙ってる
って……!?



さっき連中の
話を盗み聞き
した……

富江は
体を
震わせていた

怒りの
ためだ

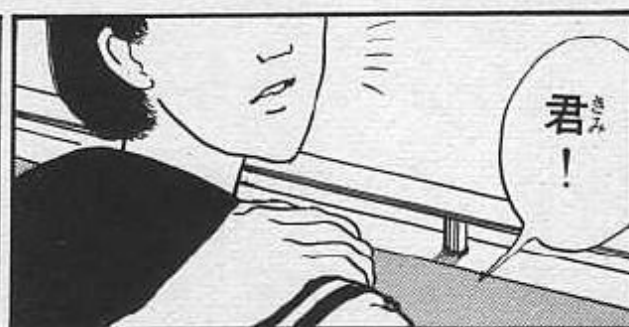


奴らは君を
殺す計画を
ねっていた
んだ!

僕も耳を
疑ったが
冗談とは
思えない!!

君は奴らに
命を狙われて
いるんだ!!









山崎先輩
……
ありがとう
ございました



でもいったい
どういう
ことかしら？

私を
暗殺
するだ
なんて……



ぼくも
連中の話に
耳を疑った
よ……

富江が
震えながら
「彼女を殺して」
と言ったんだ



富江って女……
妙な魔力
のようなものを
もっている

あの
とりまきの男子は
もはや彼女の
しもべとなっている

富江の命令
なら人殺しも
やりかねない

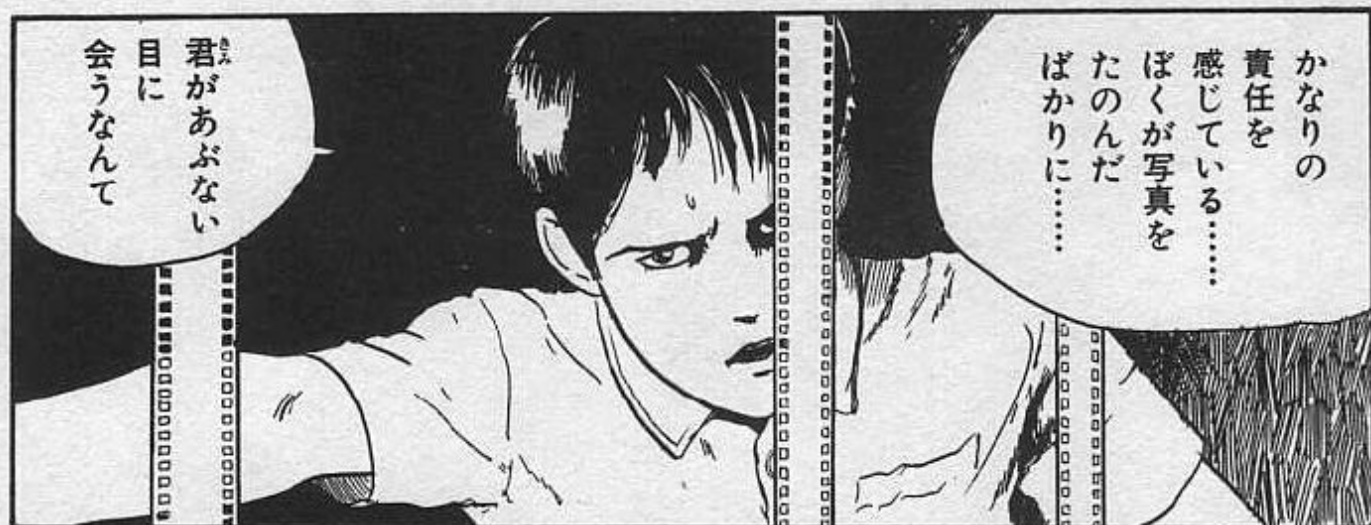


富江の不思議な
魅力に
とりつかれて
いるからだ

はずかしい話だが
ぼくもあやうく
彼女の魅力に
とりつかれる
ところだった



今回の
ことは





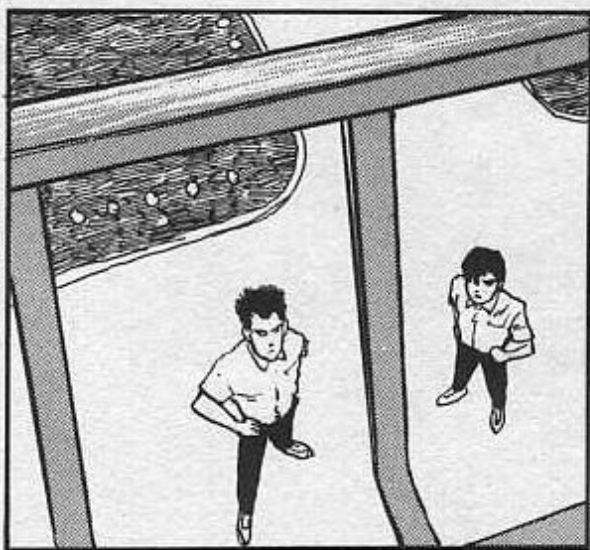




赴任先から
帰ったときに
しかってもらい
ます

ホントに
しょうがない娘
だわ
今度のことは
お父さんに報告
しますからね

じゃあ
行ってくるわね
一週間 父さんの
ところにいるから
留守番たのむわね



月子
お友だち
よ

太地君に
木股君!

ドサ

あっ













なんか
悪い予感が
するから

悪いけど
やめとくわ



あなたまだ
私を
疑ってるの？



悪い予感
？



そうだ！
これから
私の家に
来ない？
その写真
見せたいし

私の父も
あなたに
会いたがって
るわ



虚言癖が
あるんじゃないの？

もしかしたら
あなた……

一種の
ビョーキ



そう……
そのとおりよ

すごく
ウソっぽい
のよね

ガウディとか
ピカソの
おはなしも
信じかねる
わ





なによ
突然：
今度は
仮病？

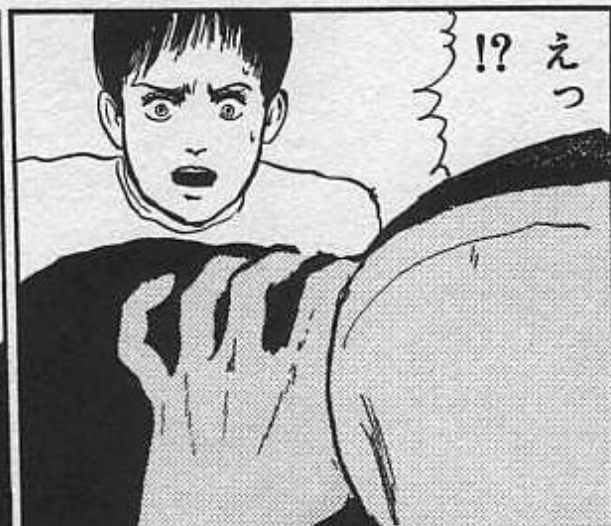


あああ
やめて

やめなさい
……
許さない
わよ!!



キヤ~~~~ッ



えっ
!?



いやあッ



離せ
チキシヨ

痛い
ヒュー



!? どうした

離して
離してよ



富江さん
どうしました!?



あつ



見ないでっ



富江
さん



あなたたち
……
なにしてるの!?



早くこの
できものを
切りとって
……
そして……

焼き捨
てて……

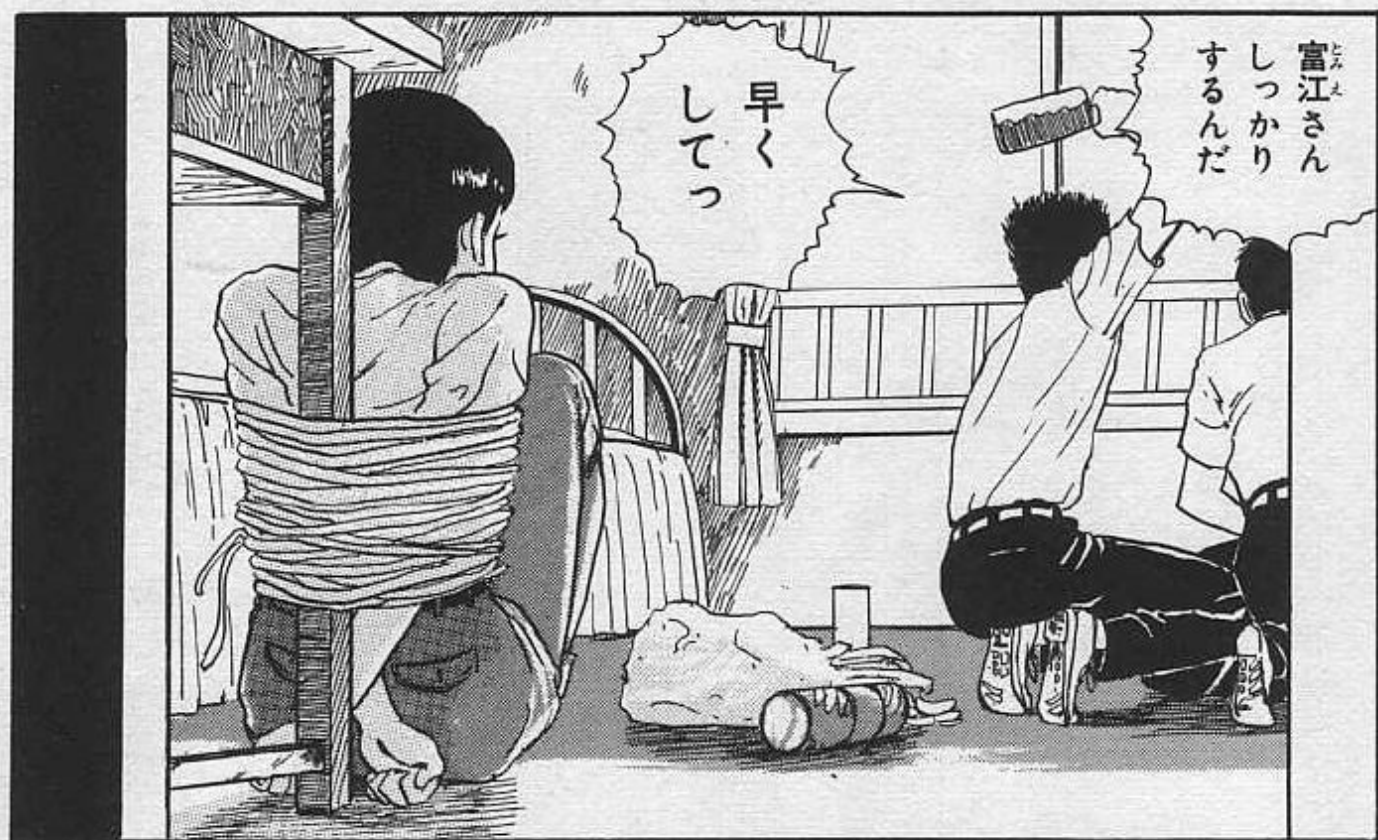
焼き
捨てるのよ

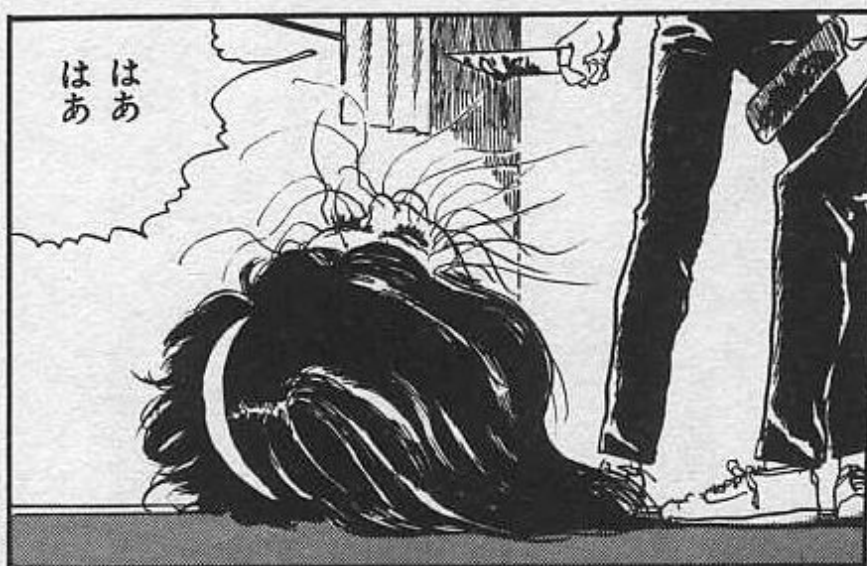
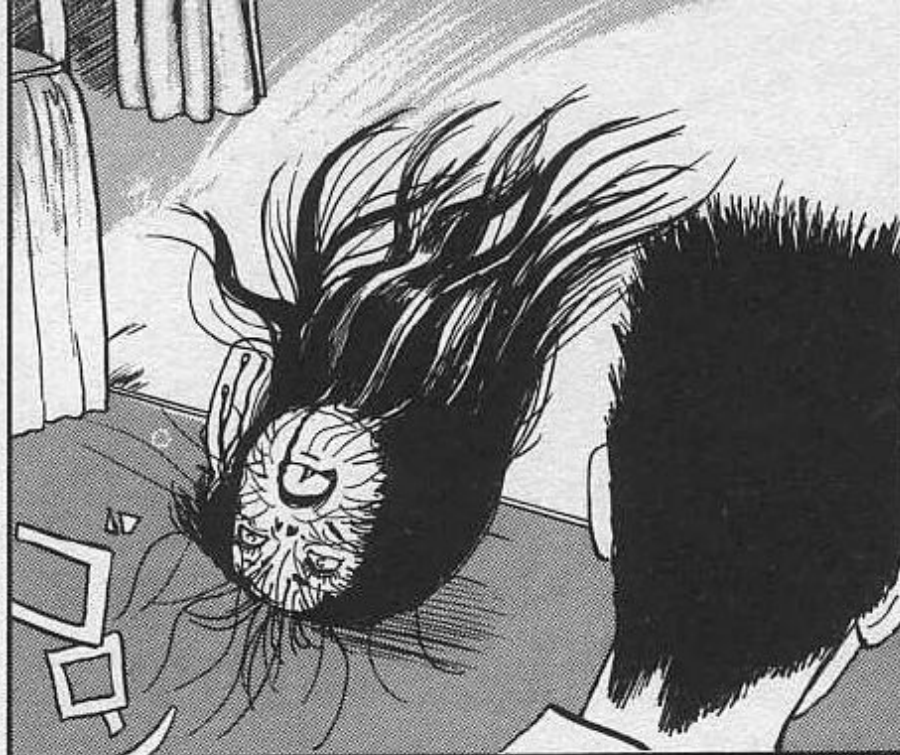


こ……
この女は
どうします
!?

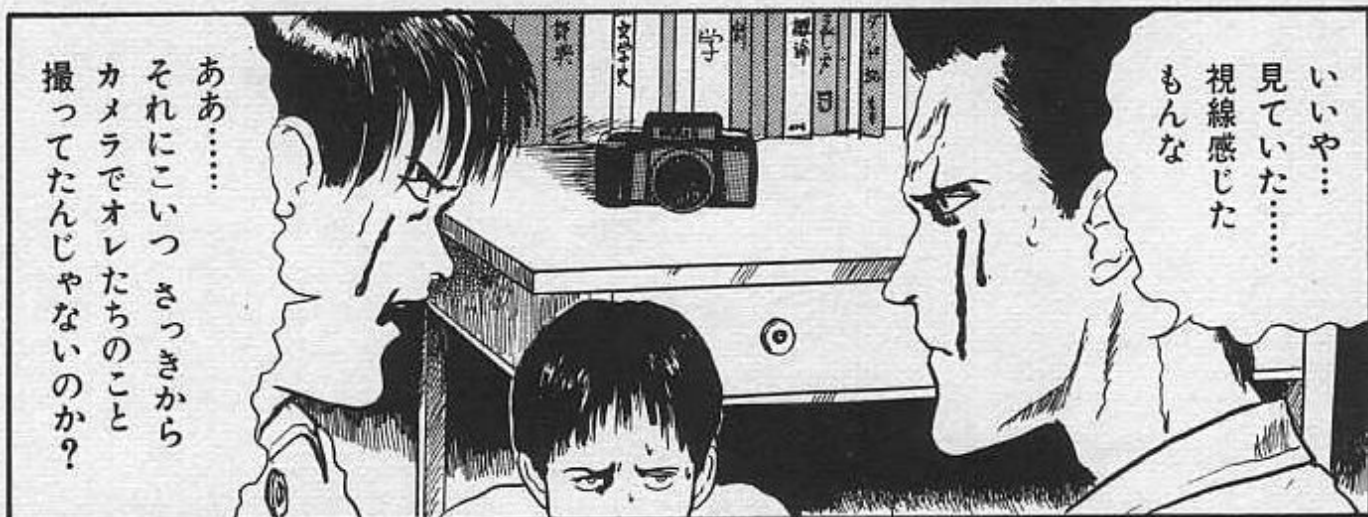
そんなの
柱にでも
しばりつけておきつ

富江・写真







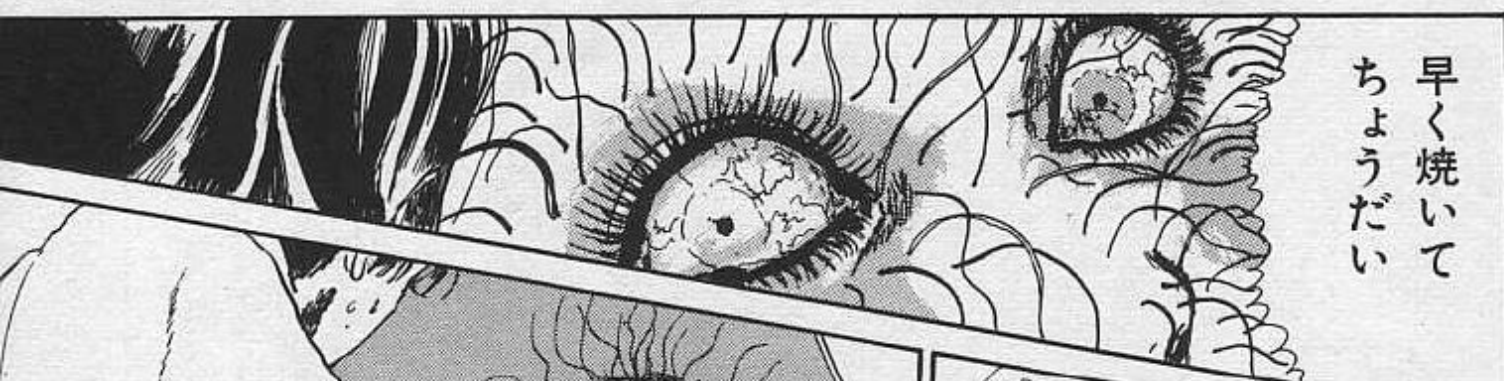




太地君
木股君

はっ

なに
してるのっ
!!



早く焼いて
ちょうだい



早くしないと
また目を
覚ますわ



早くこの
で・き・も・の・を
焼きはらって



う…
う…
う…



…
いやだわ…
一週間帰らない
んだった…

もう…
母さん
早く帰って
こないかしら



私の部屋で
なんてこと
するのよ
…
くっ…
とれない
…



一週間
こうしてろって
いうの!!
冗談じゃ
ないわ…

…
そうだ
…

これは
もしかしたら
夢かも
しれない



だって
あまりにも
非現実的な
体験だわ

あの不気味な
写真に
はじまって

たった今
目の前で
起きた
ことも
…

…
…

どれくらい
気を失って
いただろうか
.....

私は
妙な音で
目を覚ま
した...?

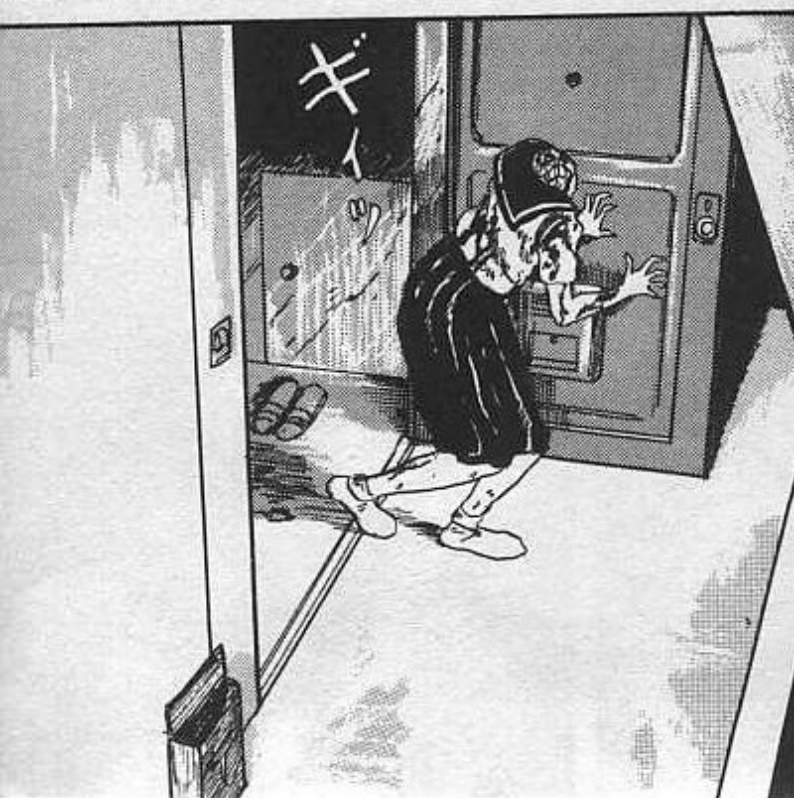
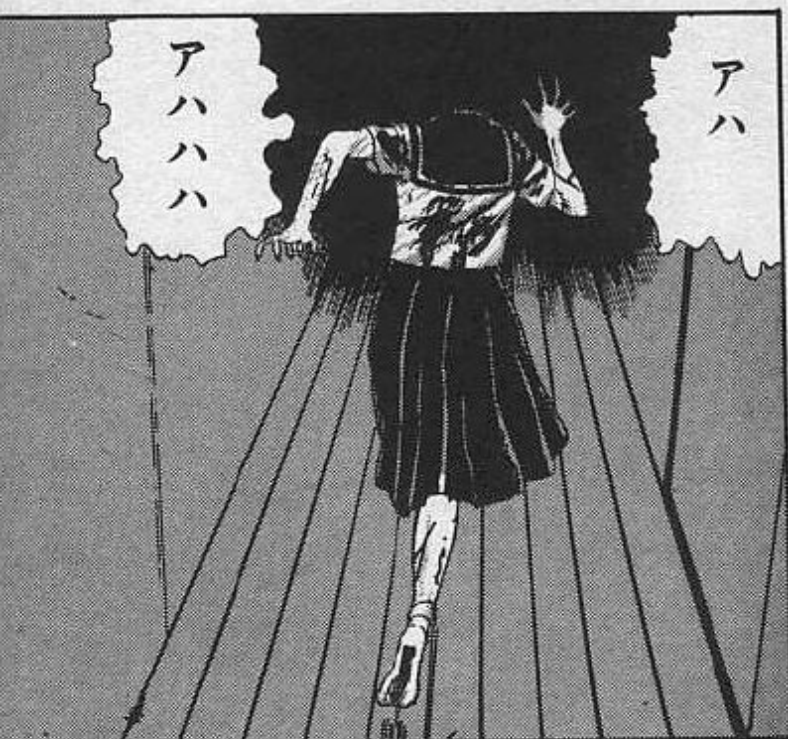
ズズ

ズズ

ズズ



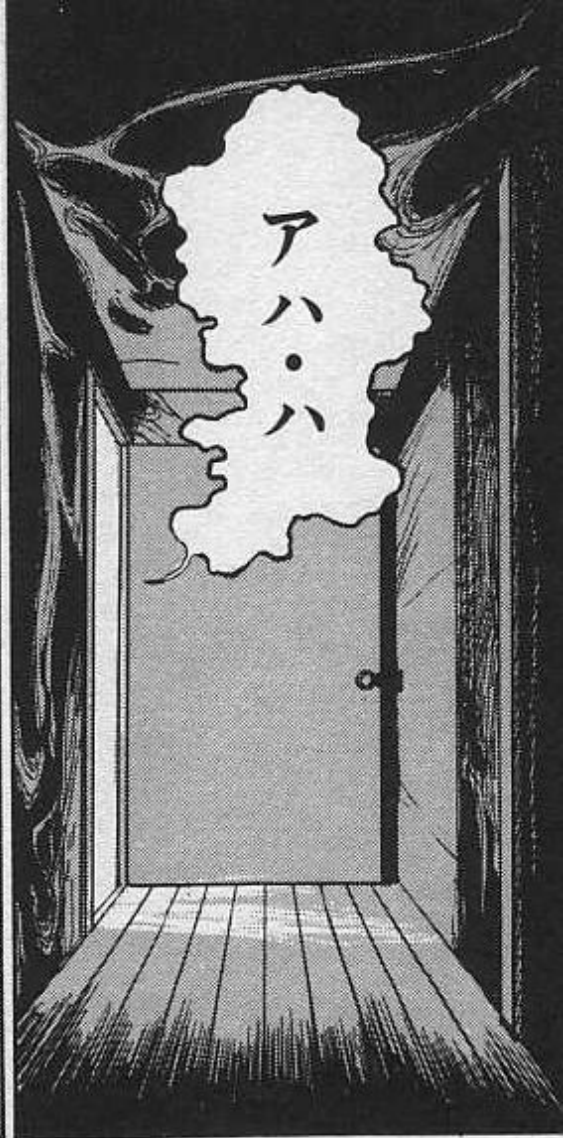






せつ ぶ ん
接 吻

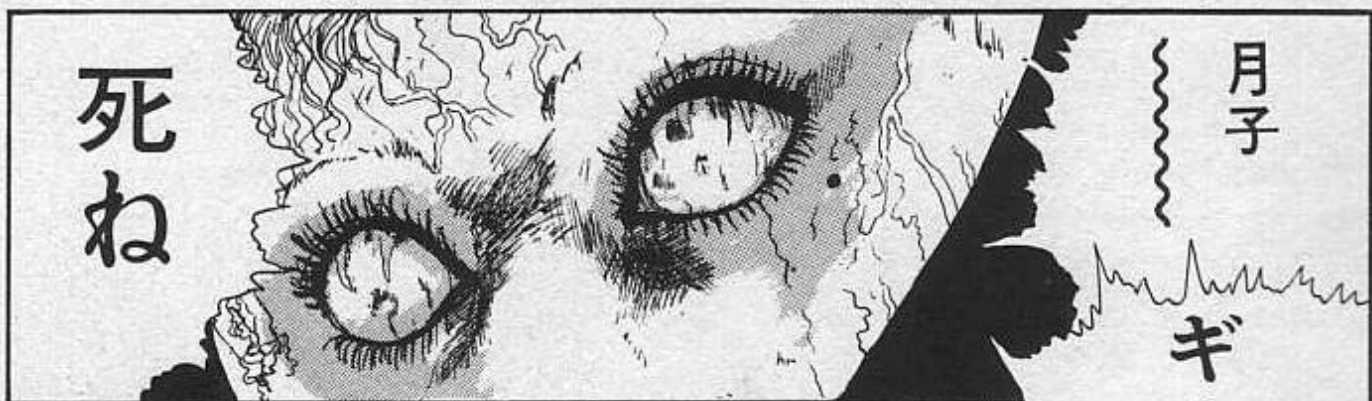






ぐっ！

ハハ



死ね

月子

ギヤ~~~~ツ

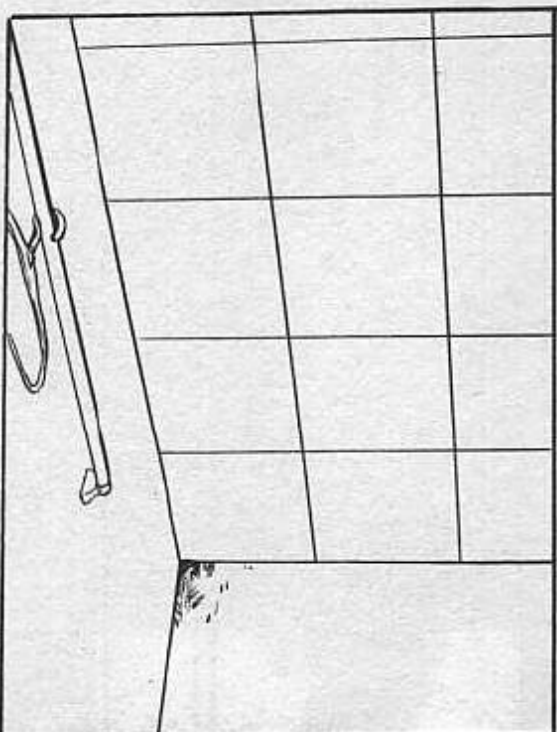


ひどい
夢……

ふう……
夢か……



ビクッ



富江が
この部屋で
バケモノに
なる夢だ

この部屋で
富江が

太地君と
木股君に
首を切られて
殺されたと
思ったら……

あっ！

富江の血痕が
残ってる！

ゆうべの
ままだ

夢じゃ
なかった
のか……

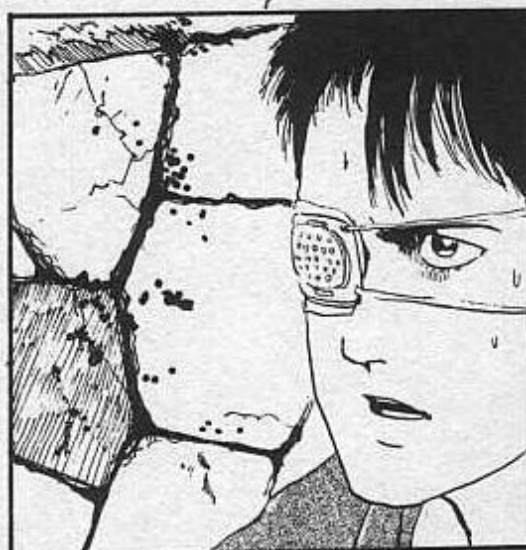
やっぱり
……

早く
お父さんと
お母さんを
呼ぼう

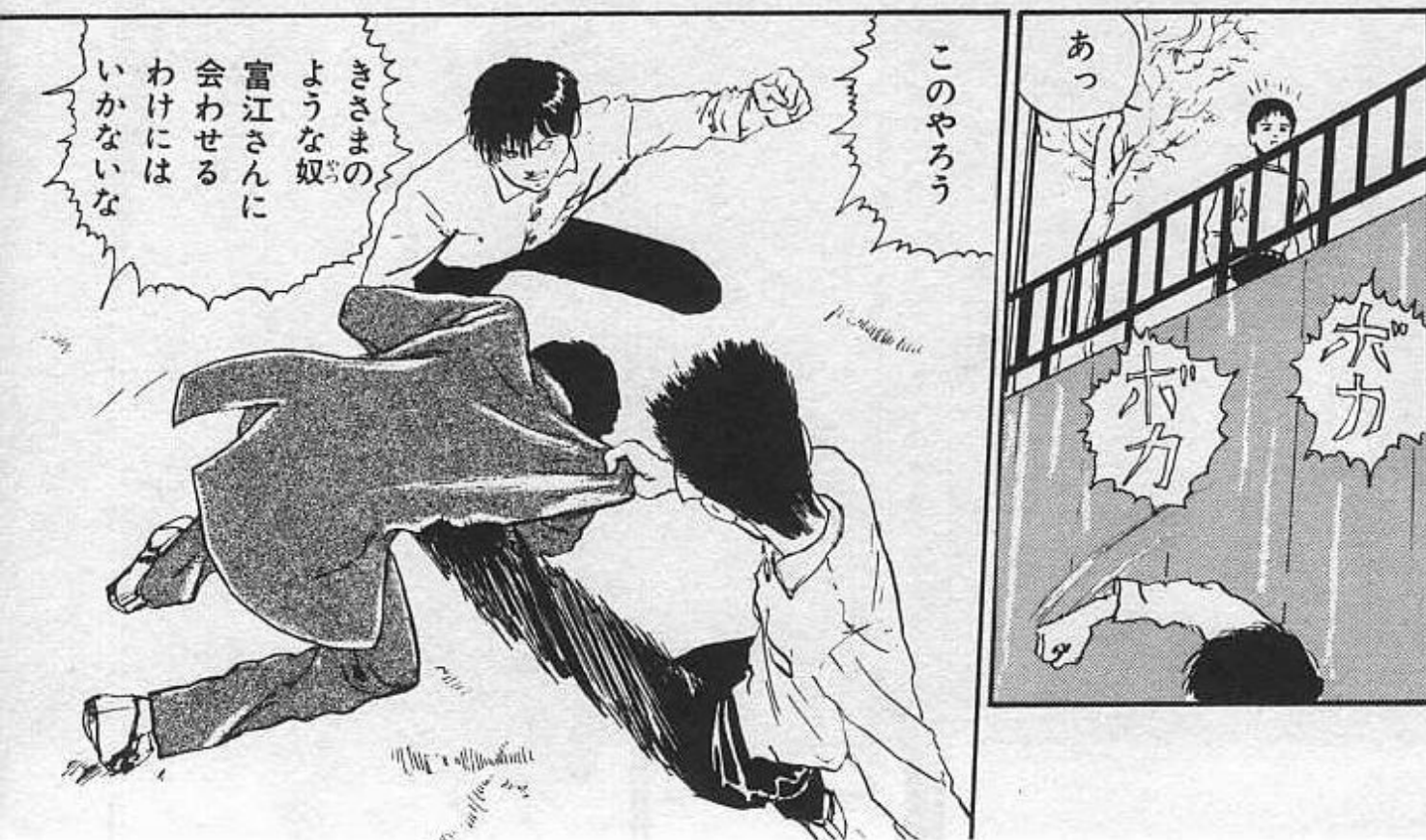
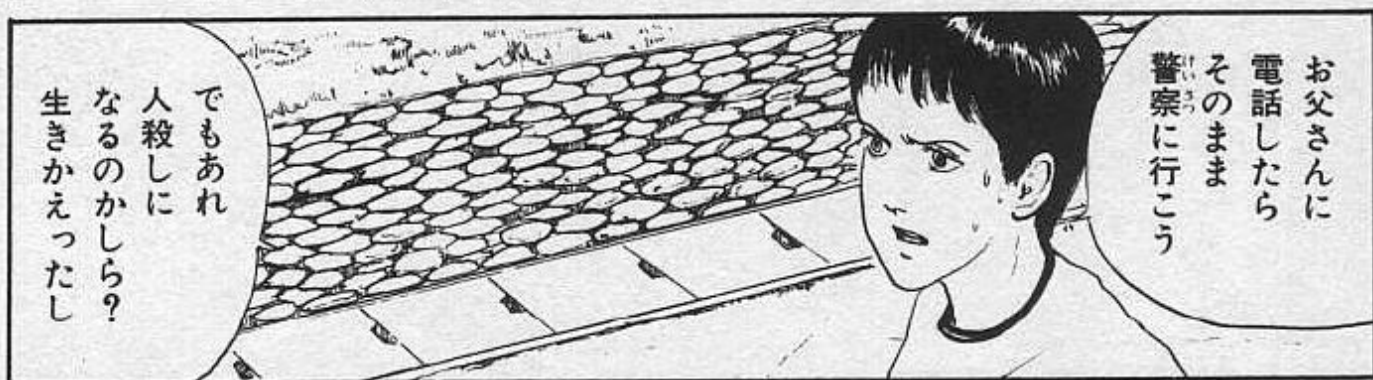
赴任先に
電話して

富江・接吻





富江・接吻



泉沢を
殺しそこねた
だ!?

きさまなんか
殺しを
頼んだ覚えは
ないぞ

……
頼む……
一度だけで
いい……
会わせて
くれ

だまれ

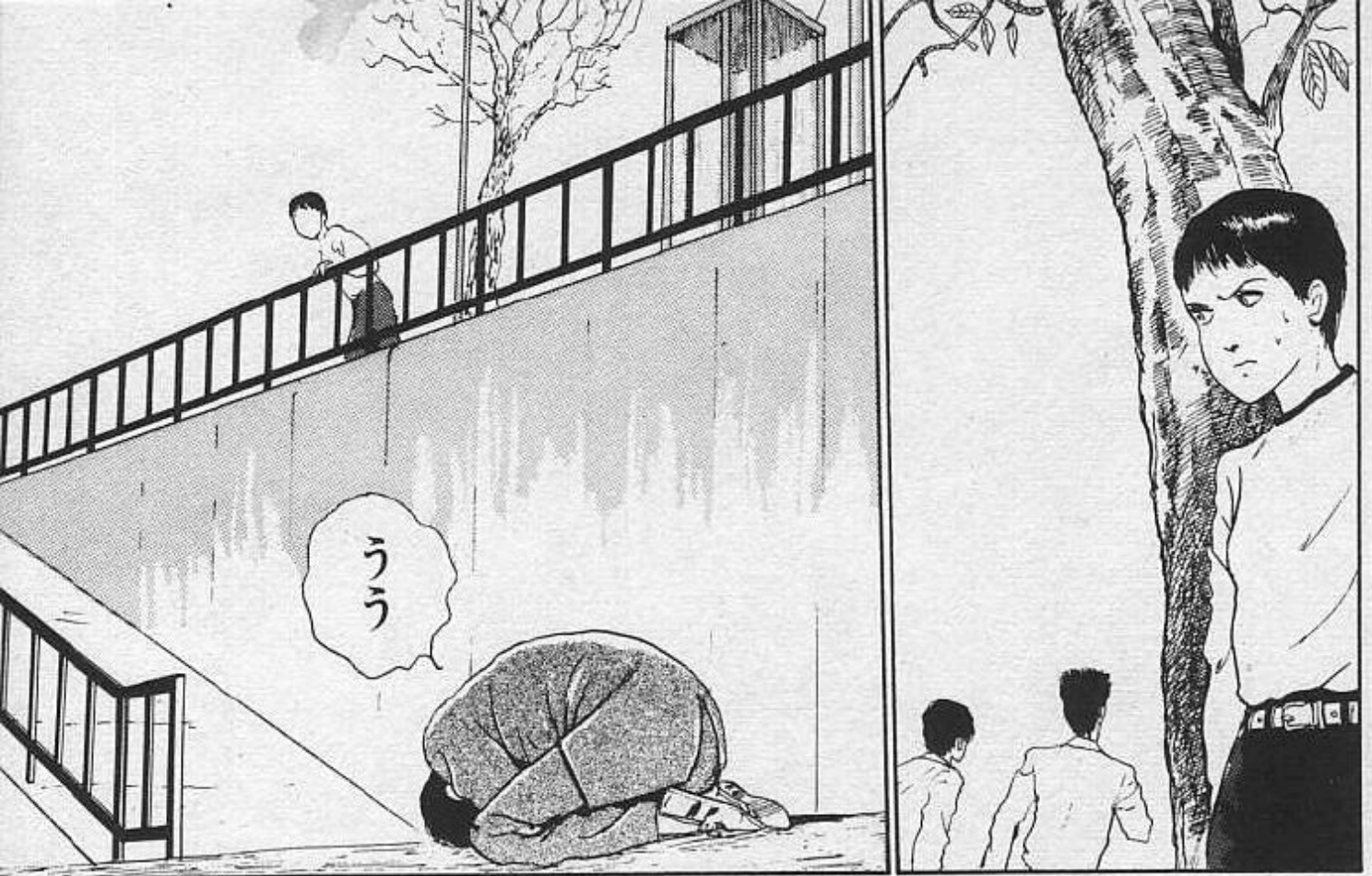
山崎とか
言ったな

二度と
オレたちの前に
姿を現わすな

山崎
さん!?

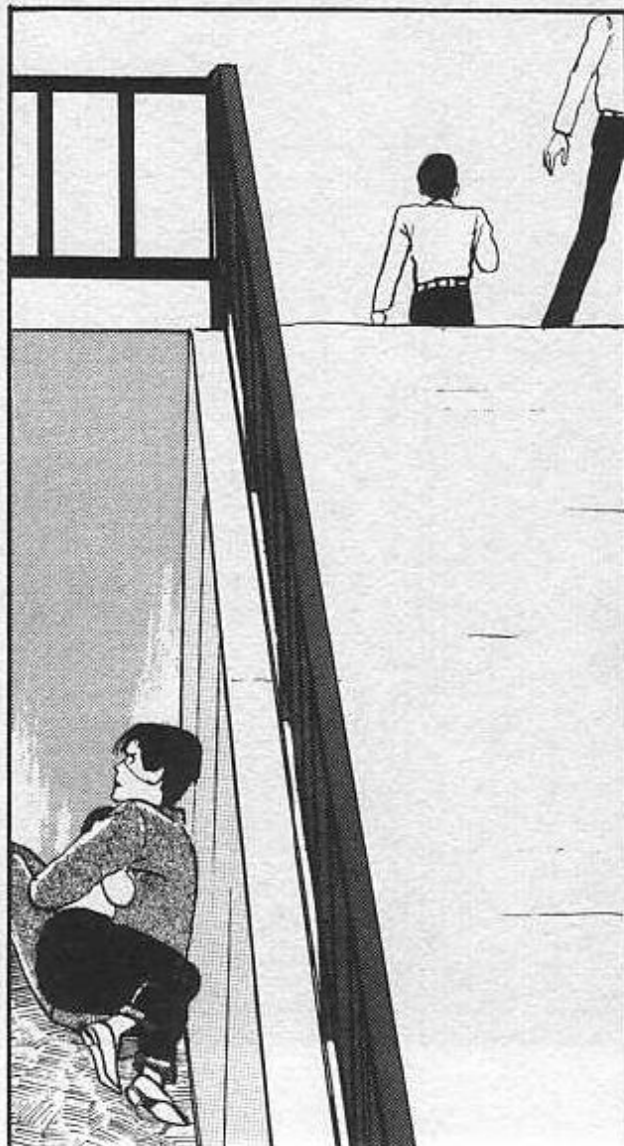
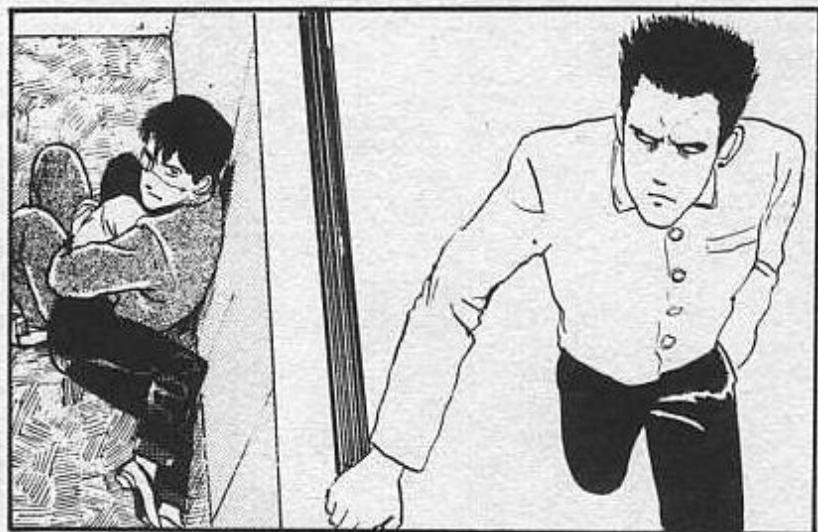
木股
急げ!

泉沢が
逃げてしまうぞ





富江・接吻



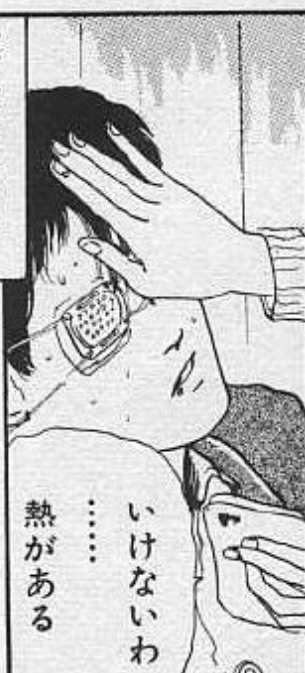


さあ泉沢君
……
警察に
連れていってくれ
……
今のうちだ



山崎さん……
それより
手当てを……
ひどいケガ
だわ

私の家に
救急箱が
ありますから



いけないわ
……
熱がある

殺人者たちに
命を狙われて
いるにもか
かわらず
私は警察に
行くのを
ためらった……



山崎さんも
捕まってしまう
かもしれない
——
そう思ったから
です——

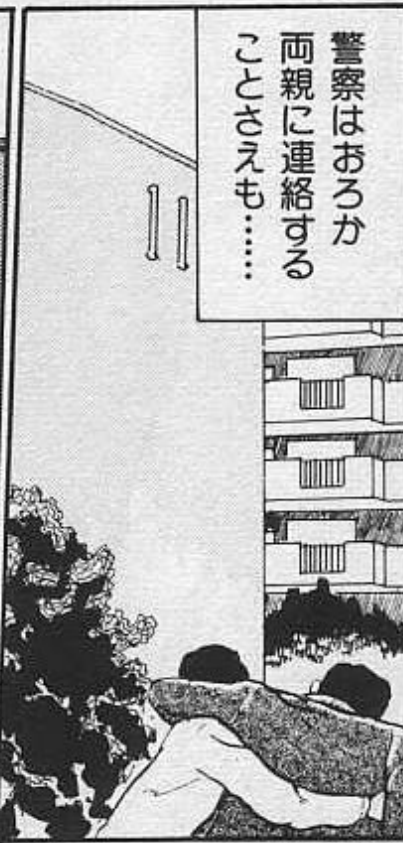


ひどい
メチャクチャ
だわ

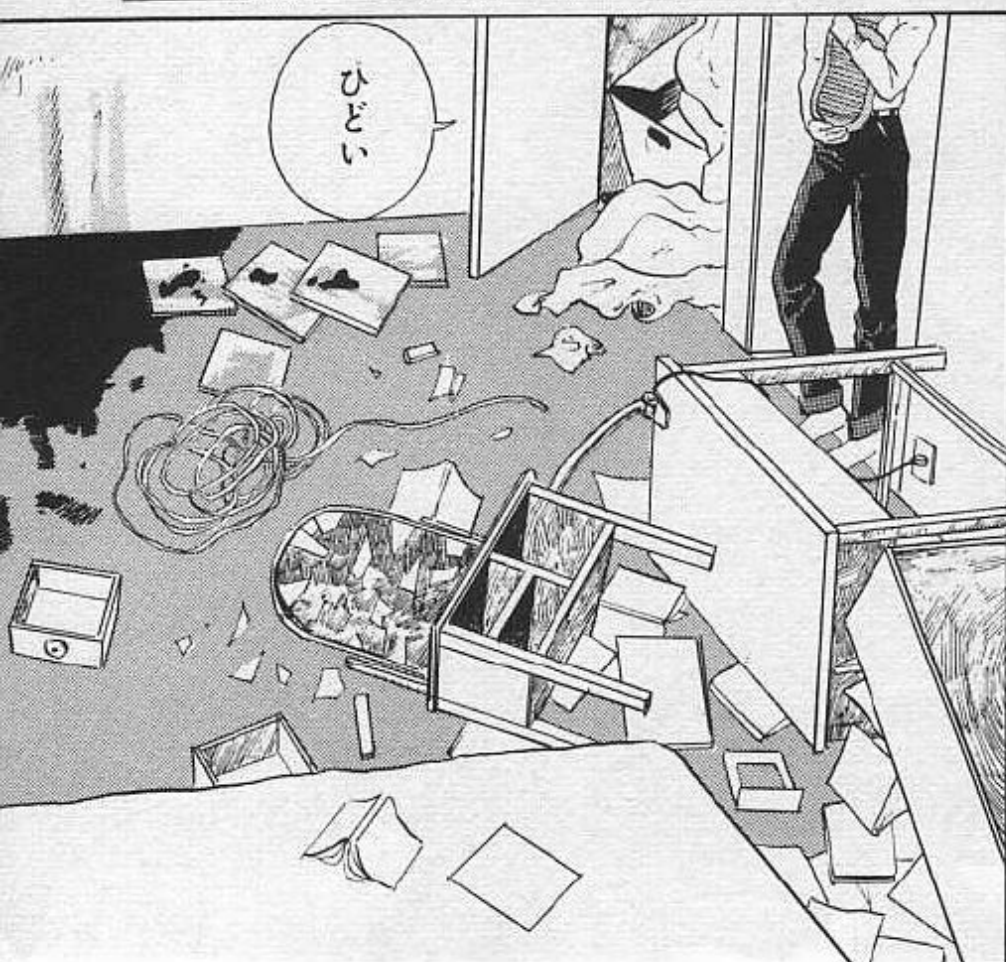
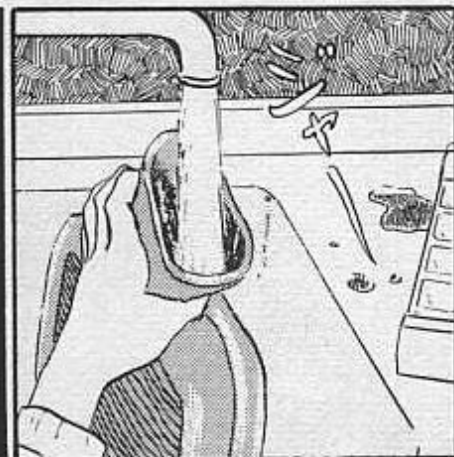
あいつらの
しわざだわ



しまった
カギかけるの
わすれてたんだ



警察はおろか
両親に連絡する
ことさえも……





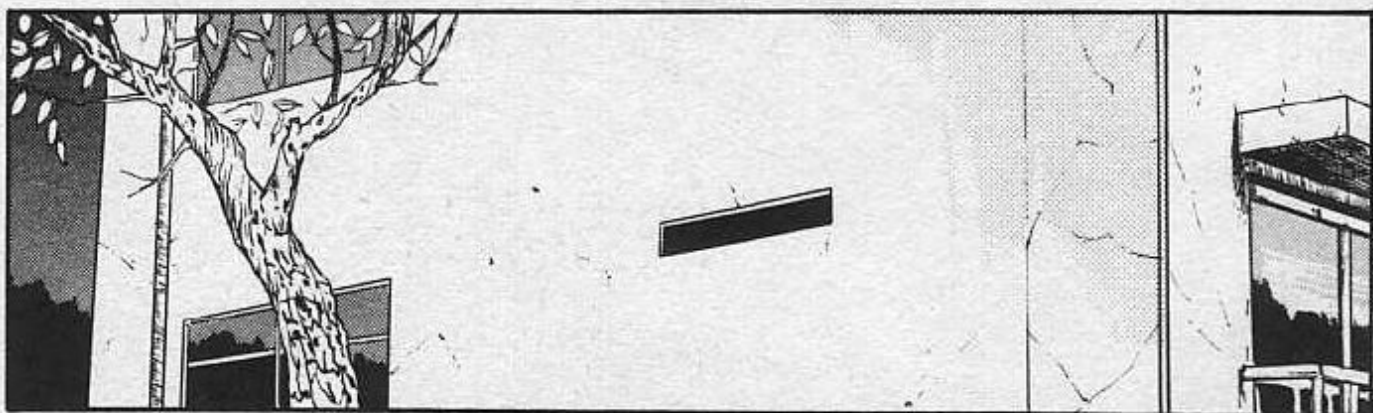




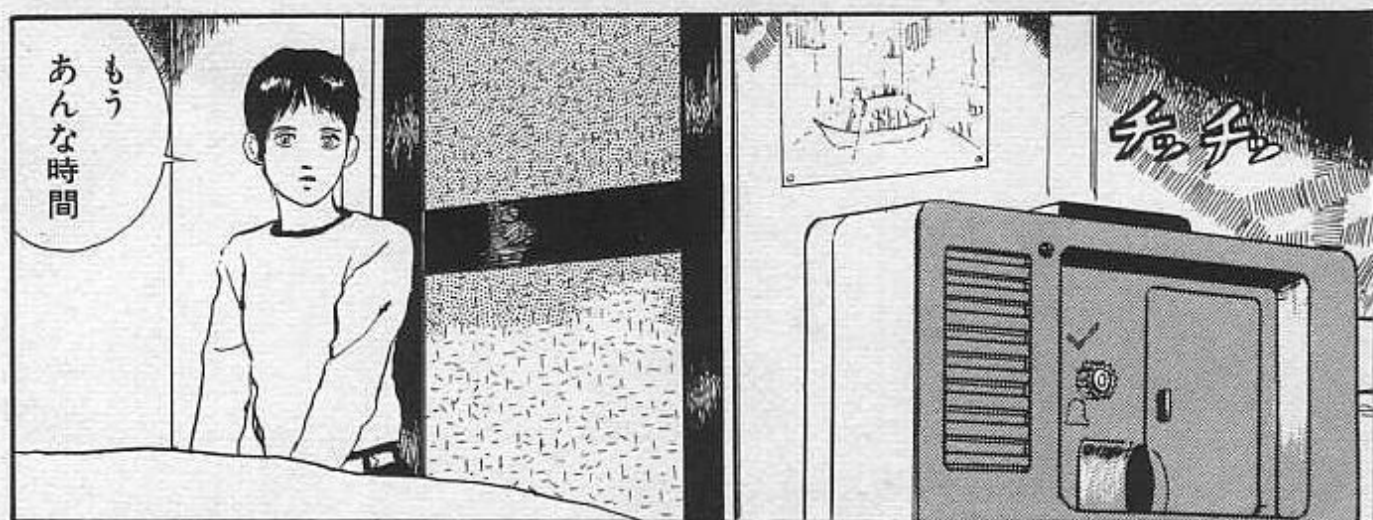


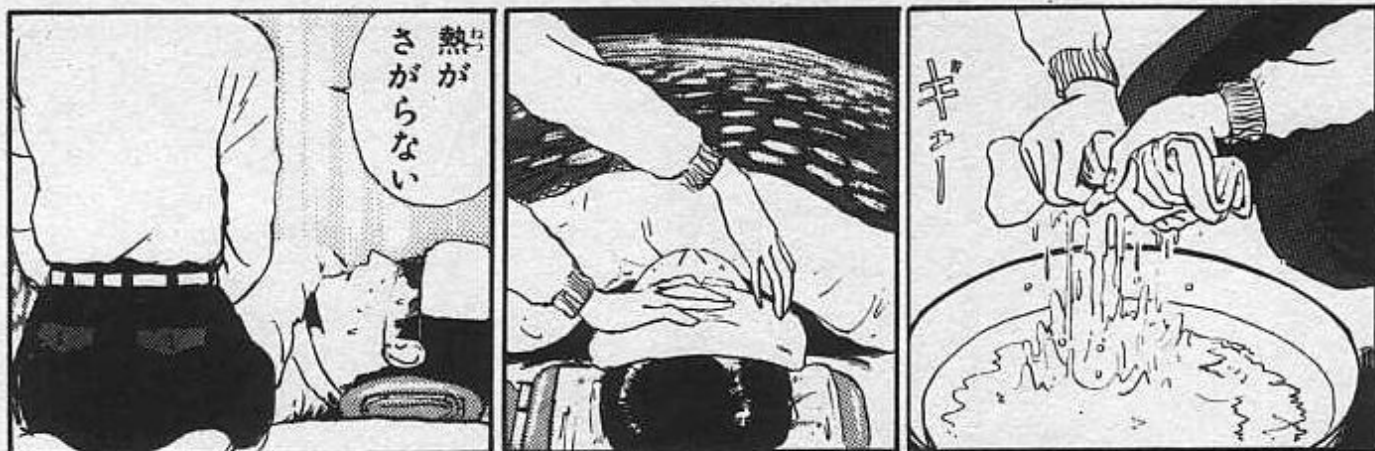


富江・接吻









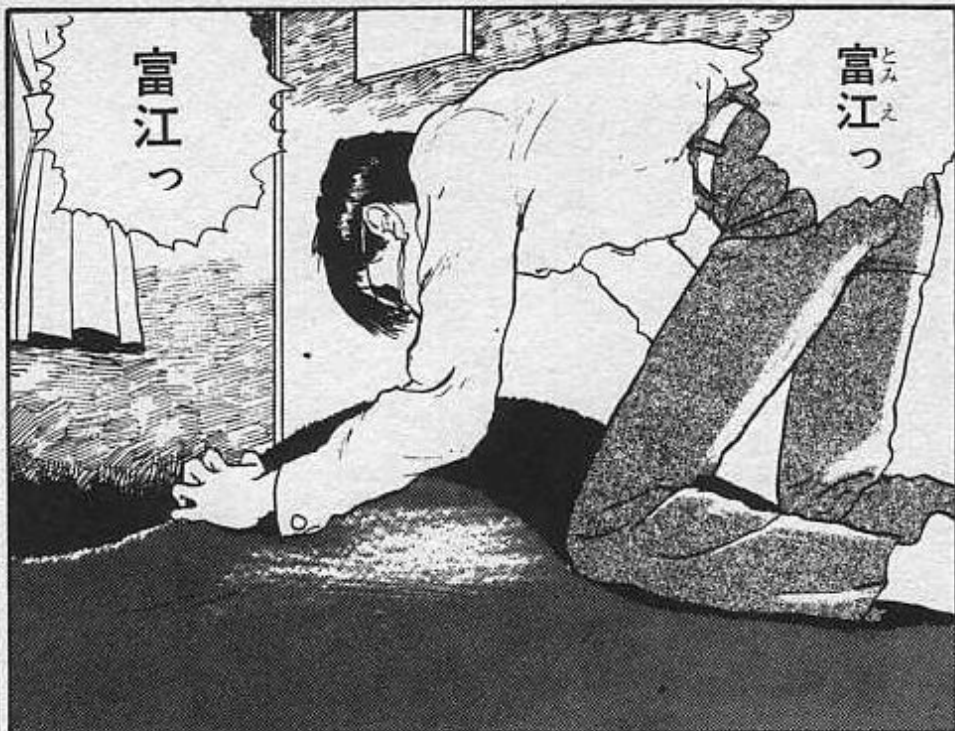
富江・接吻







富江^{とみえ}っ



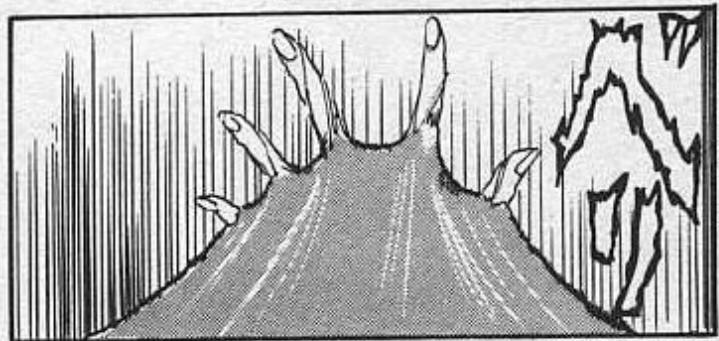
富江っ

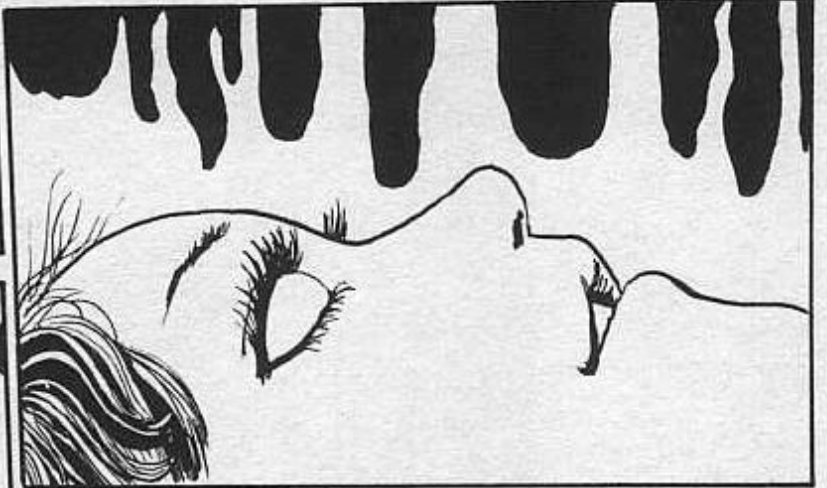
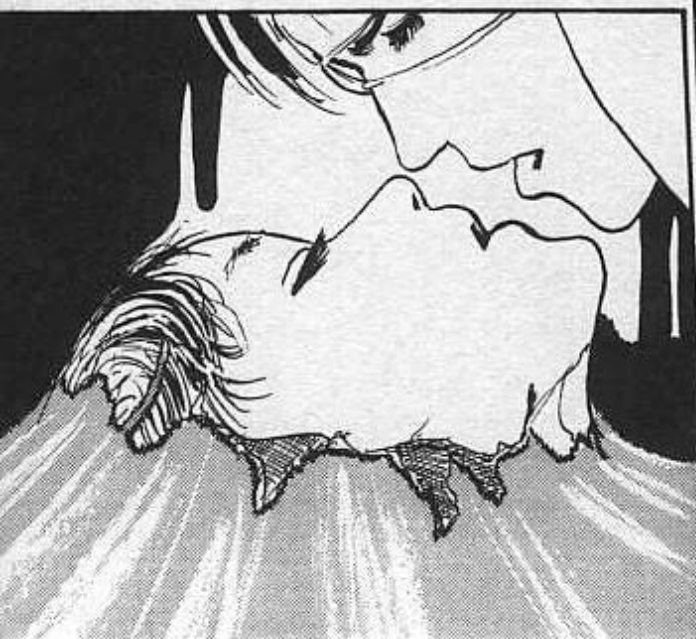
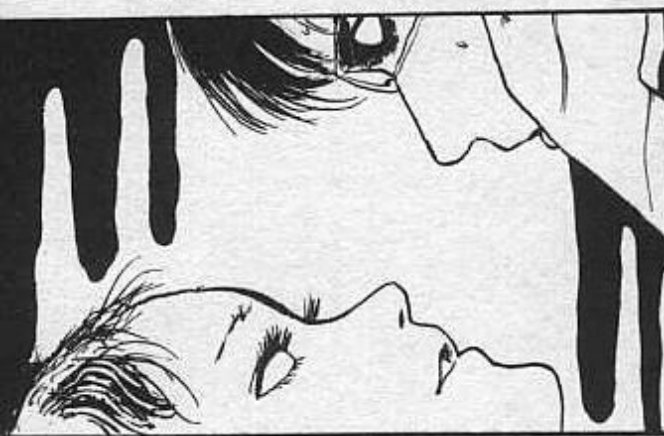
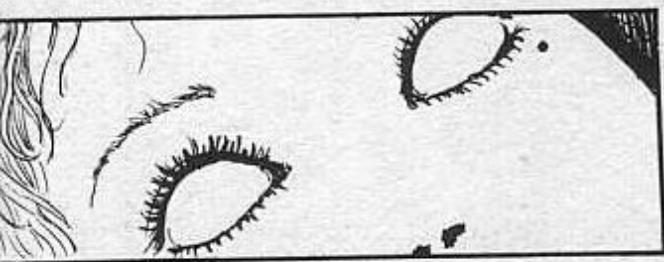
カーペットが
盛りあがって
いる……

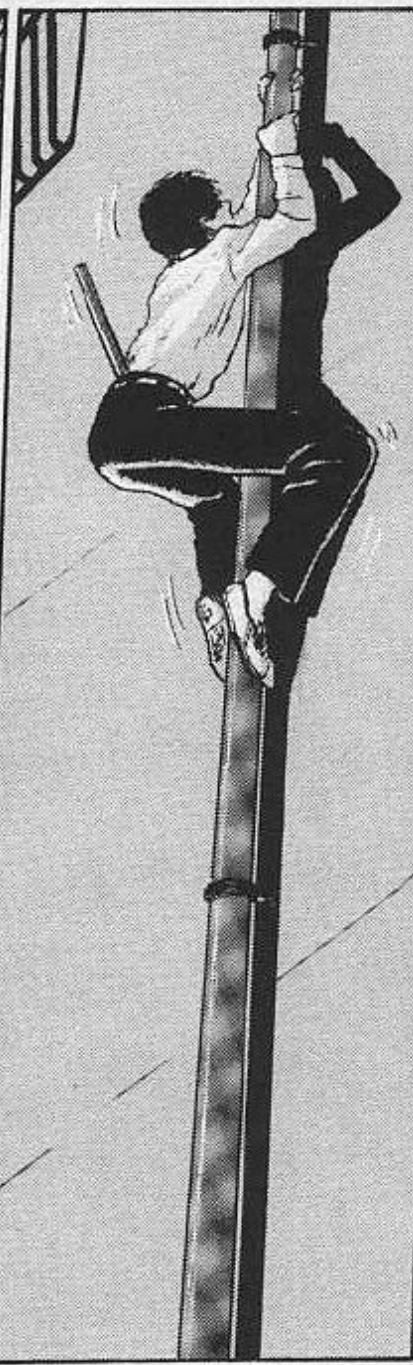
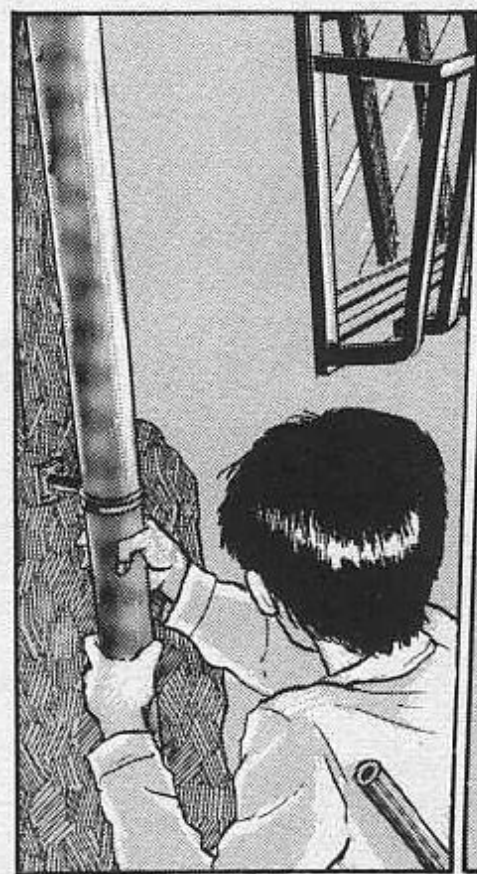
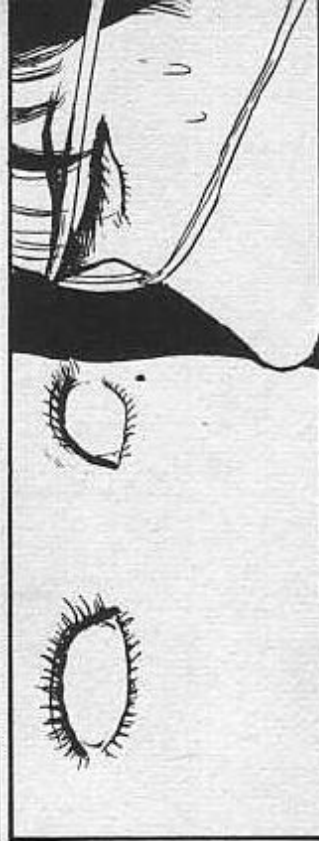


山崎さんが
しゃがみ
こんだのは
ちょうど 富江の
血が大量に
流れしみこんだ
場所だった

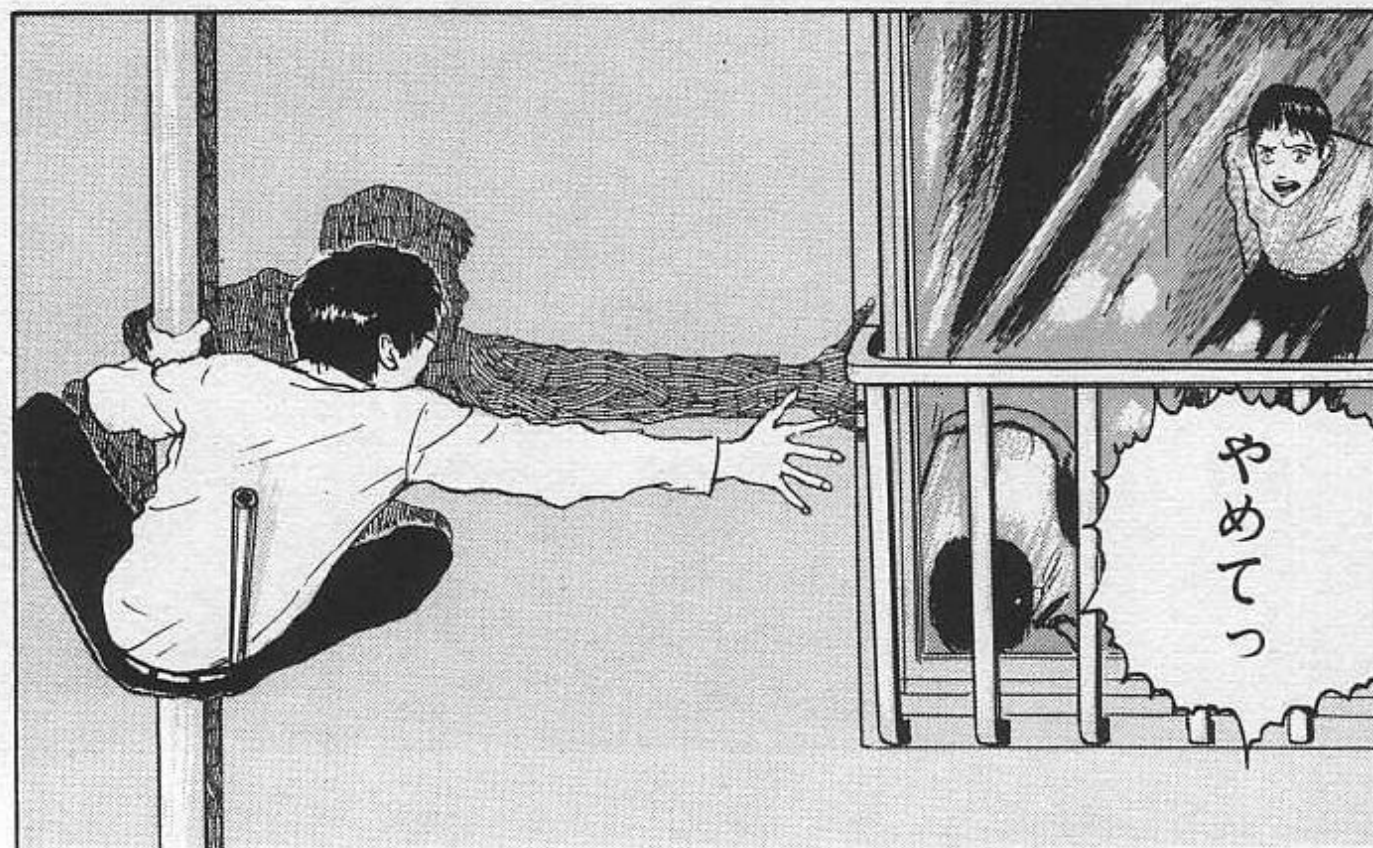
富江っ







富江・接吻

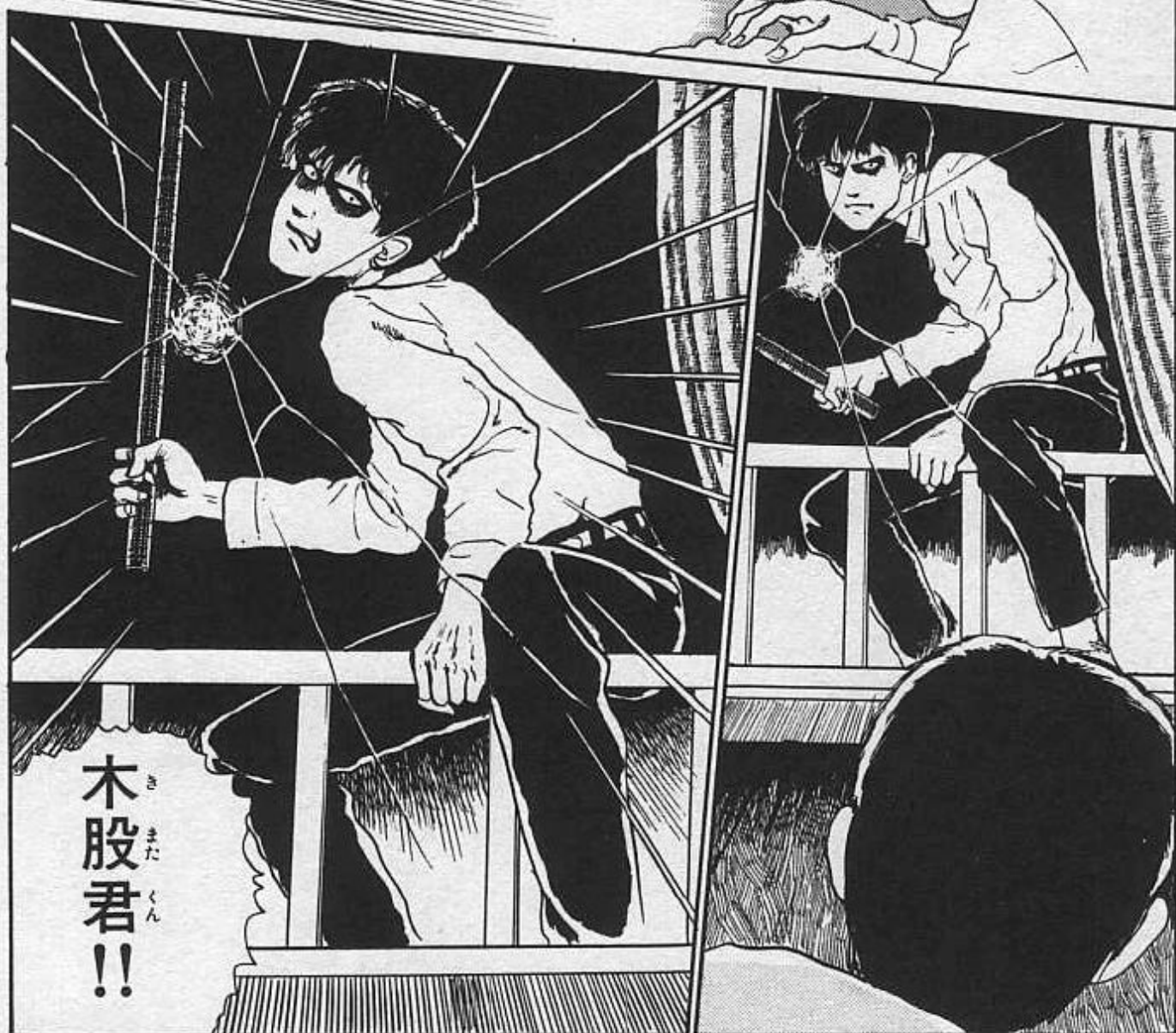
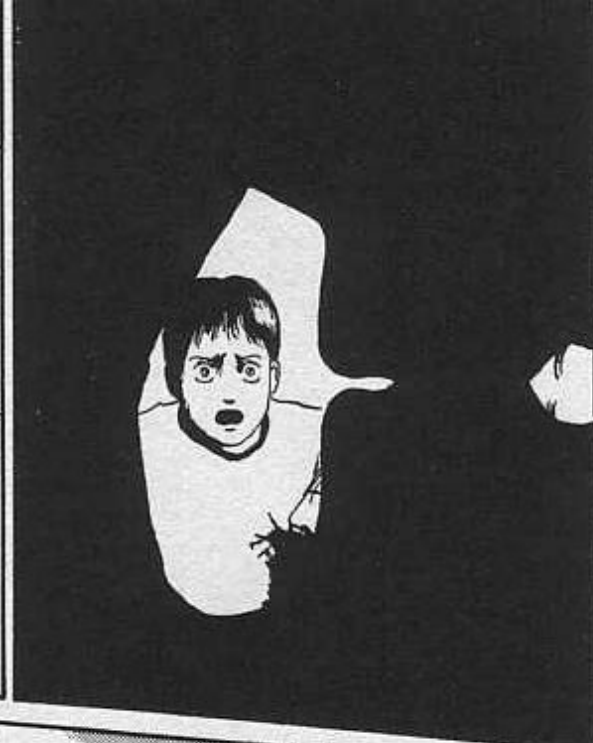




やめて
山崎さん
目を覚まして

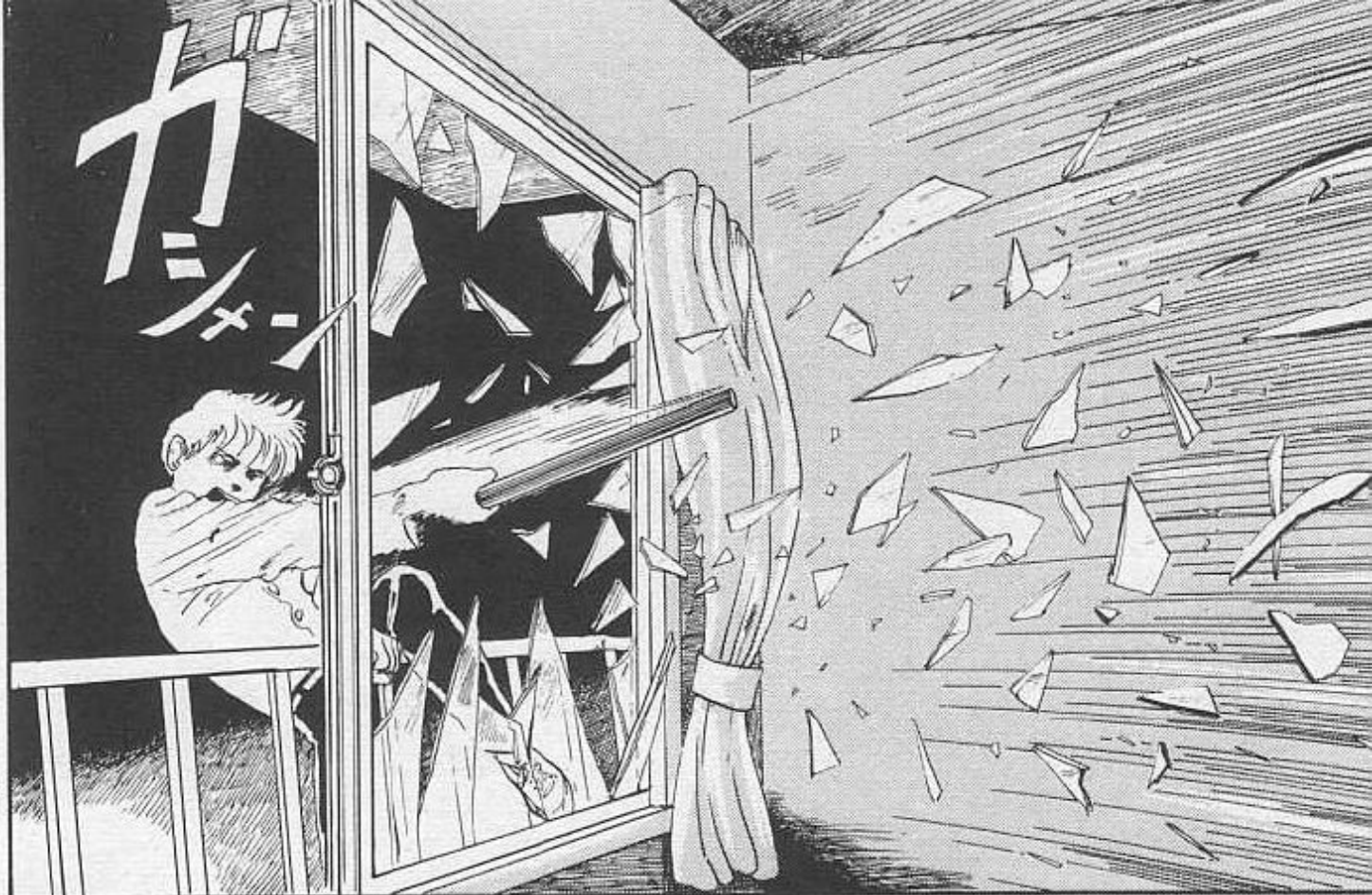


ホホホ
なんて
かわいそうな
月子さん

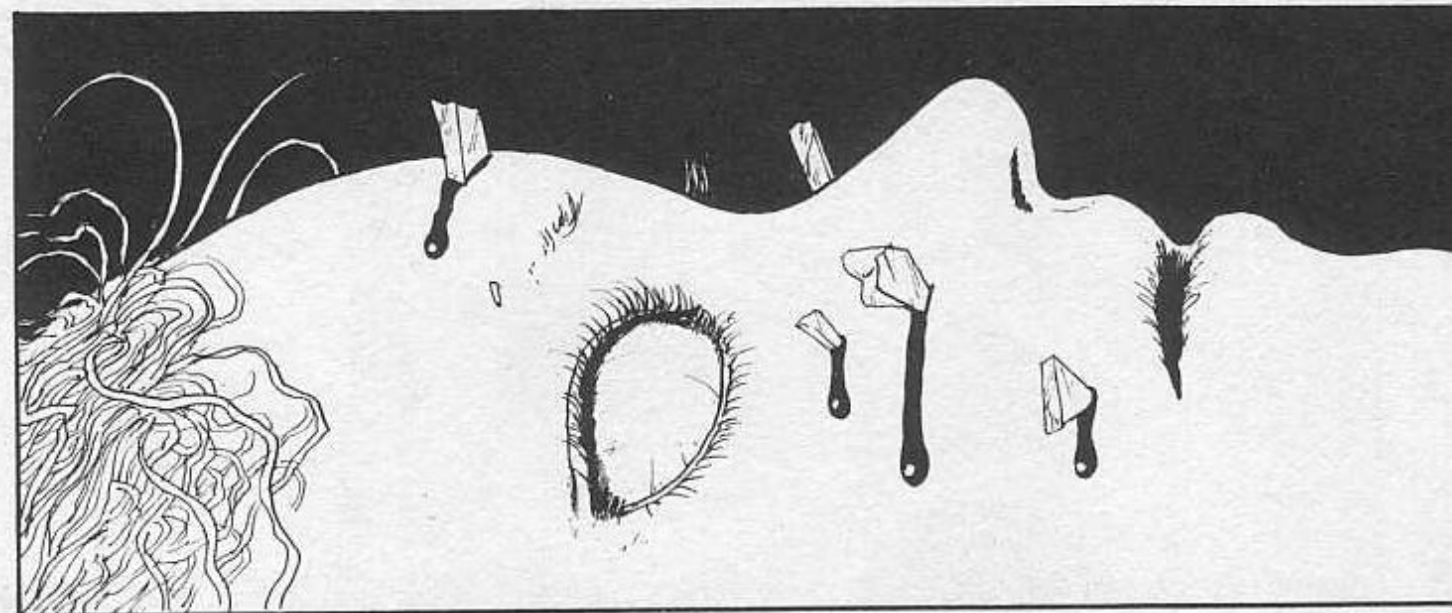
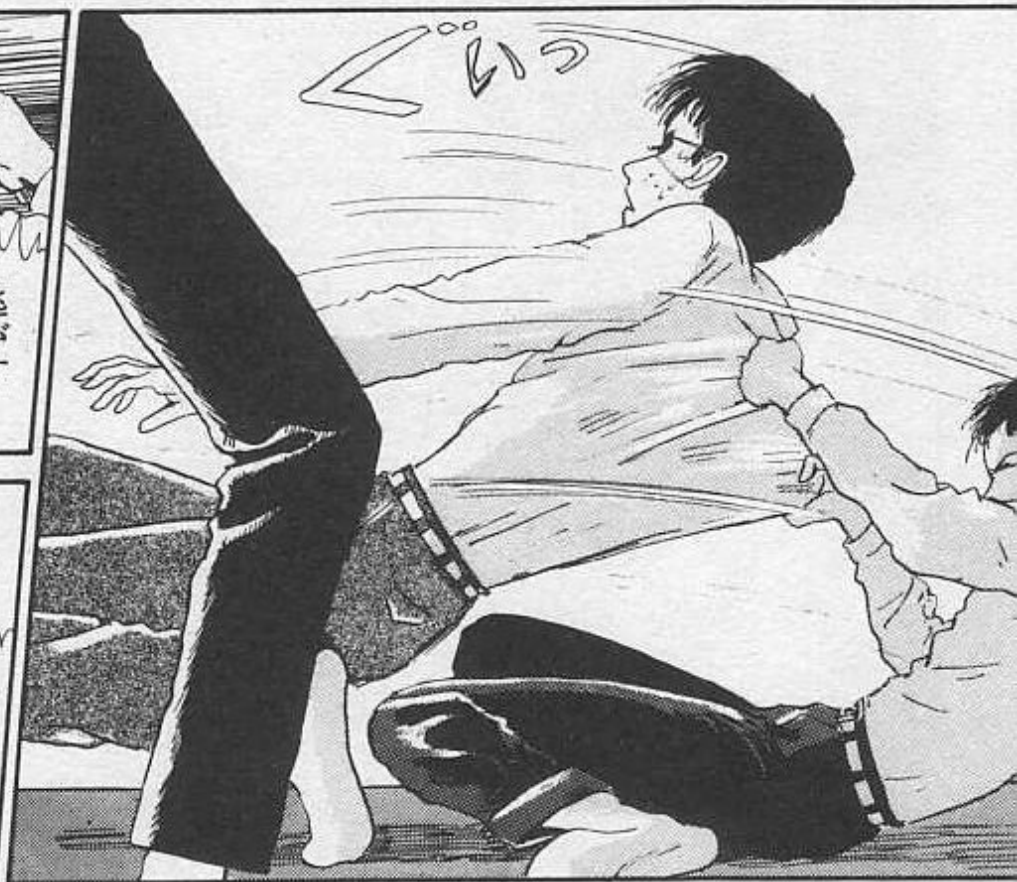
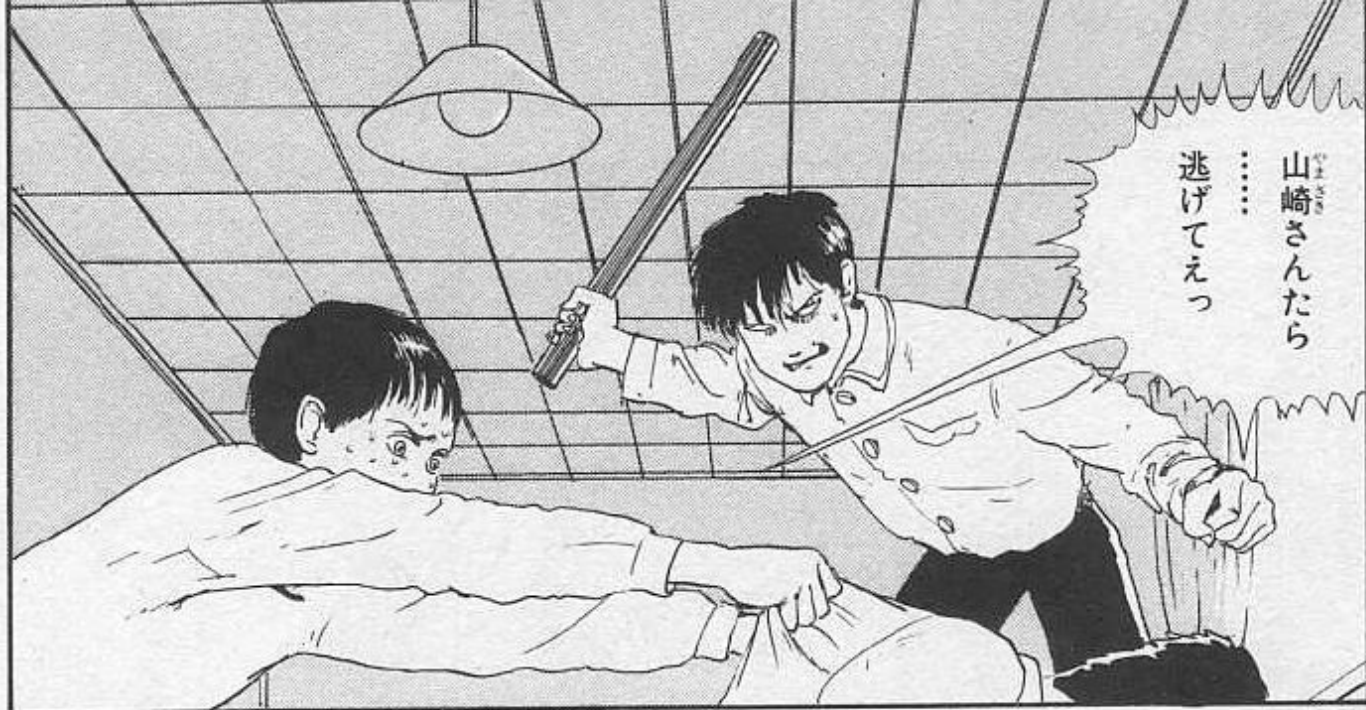


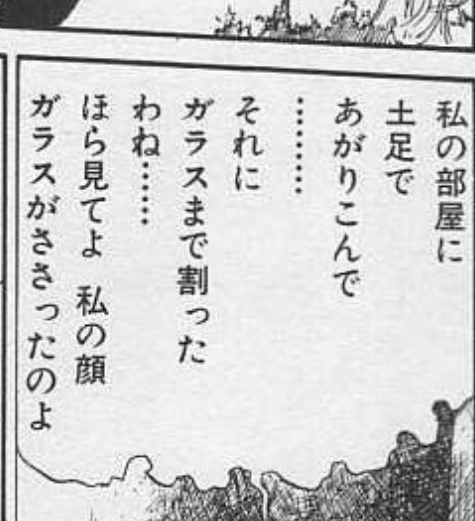
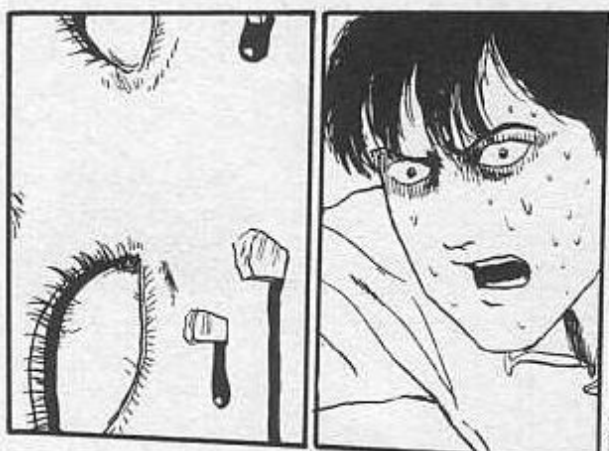
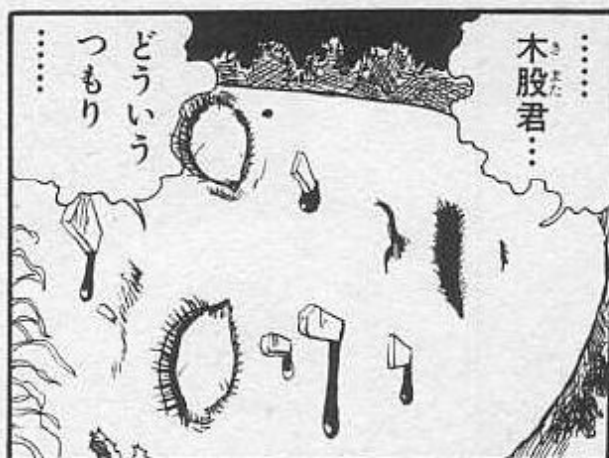
木股君!!











と……
富江
さん……



アカが
つくから
寄らないでっ



汚い
のよ
あなた



あなたって
不潔だし
下品だし
失礼で
最低よ

私に
不快感を
与えないで
ちょうだい



はいっ……
以後
気をつけ
ます！



さあ……
帰ってちょうだい
その鉄パイプを
持って

どこか遠い
所へ
旅立って
ちょうだい

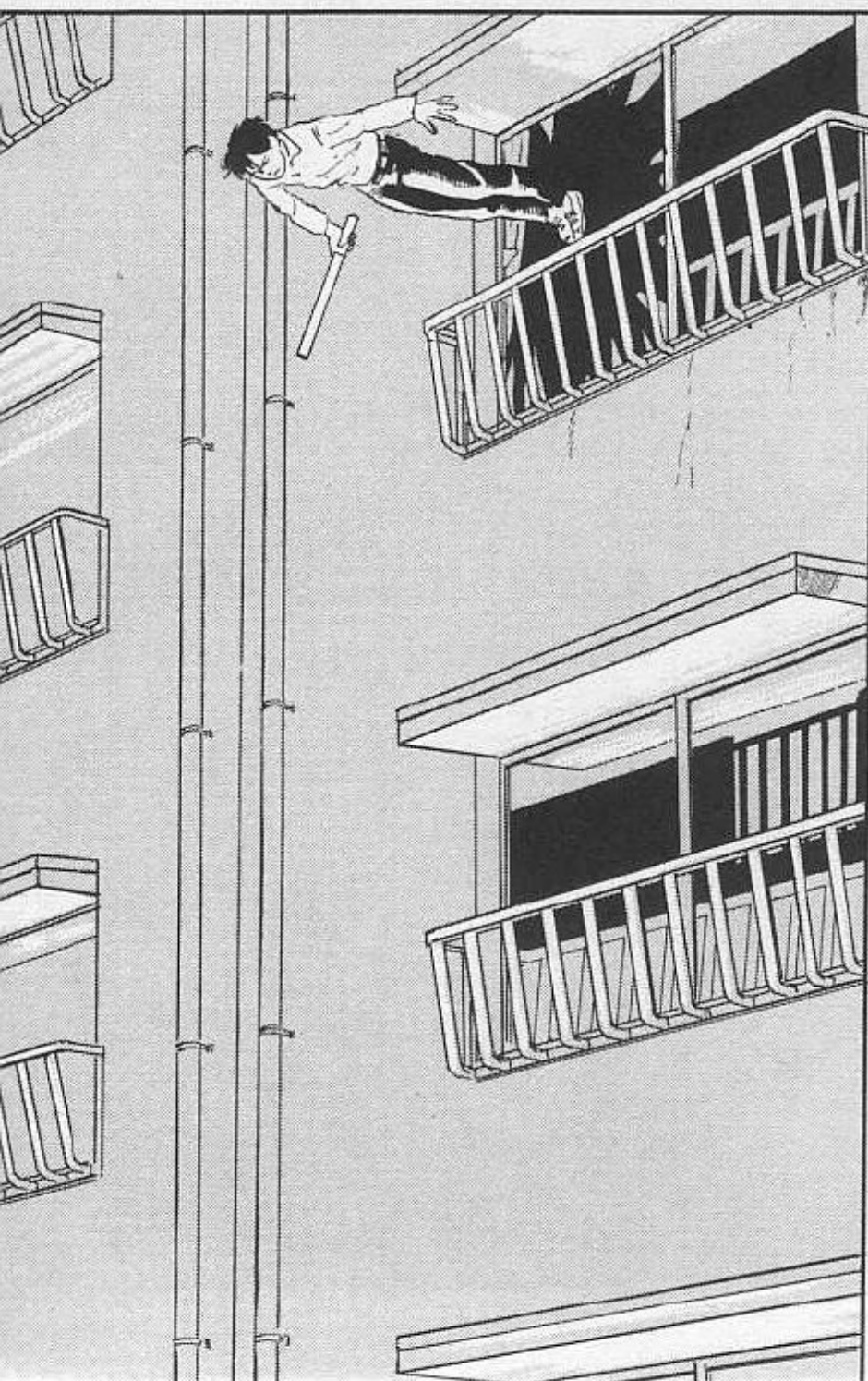


気をつけなくて
いいわよ
もう



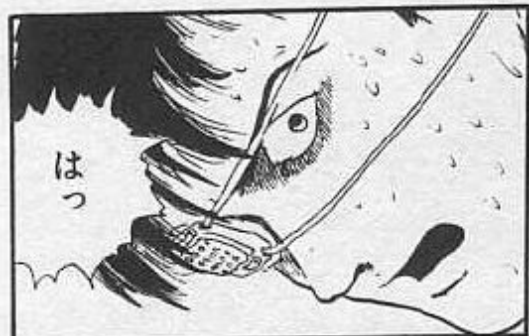
あなたに
用はないん
だから







山崎さん



はっ



山崎

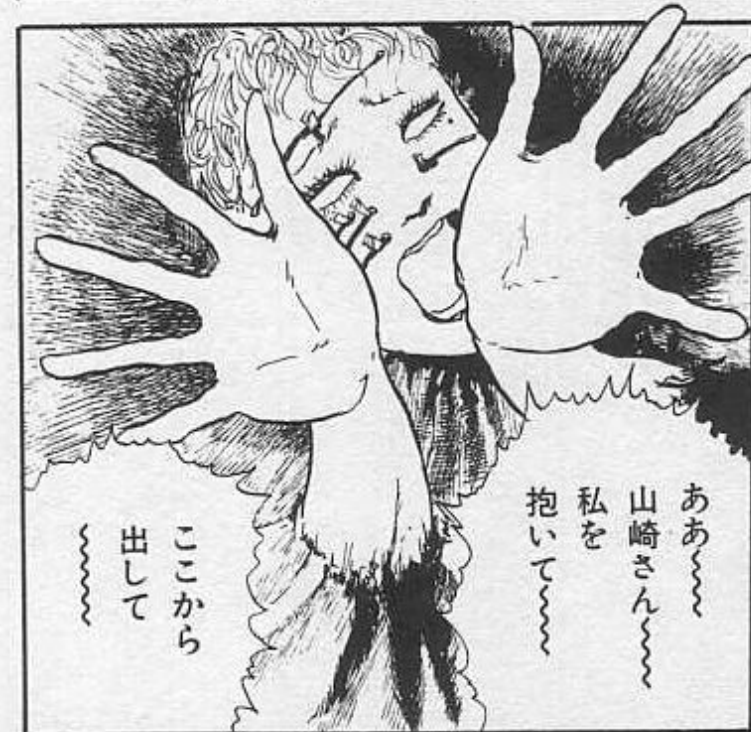
山崎さん

木股君



富江

あっ



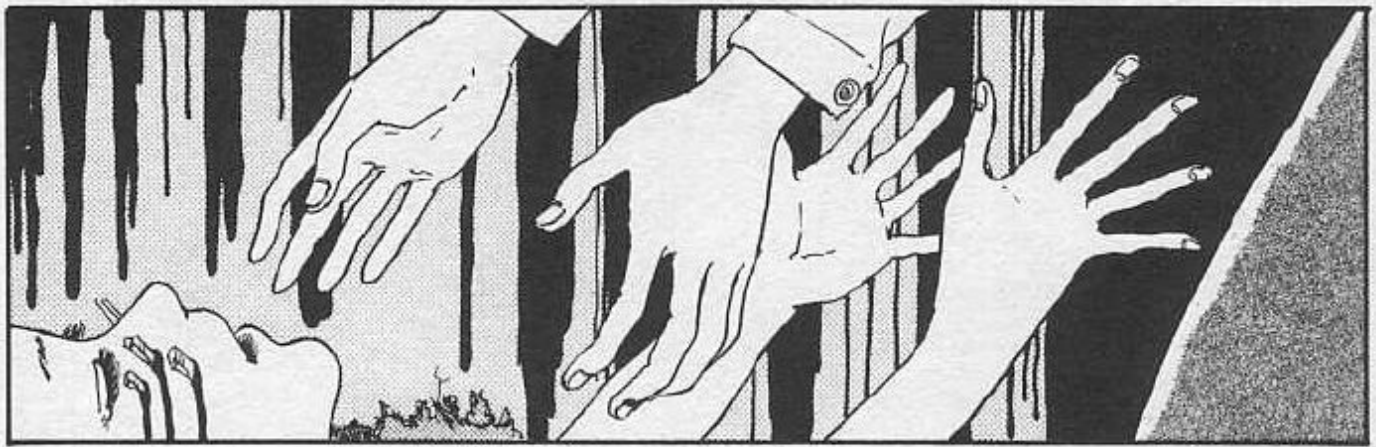
ここから
出して

ああ
山崎さん
私を
抱いて



ここに
いるよ

富江
オレだ





うれしい
山崎さん
今日から二人で
暮らせるのね



ど…どうしたんだ
とれない……
なんだこの膜
のようなものは

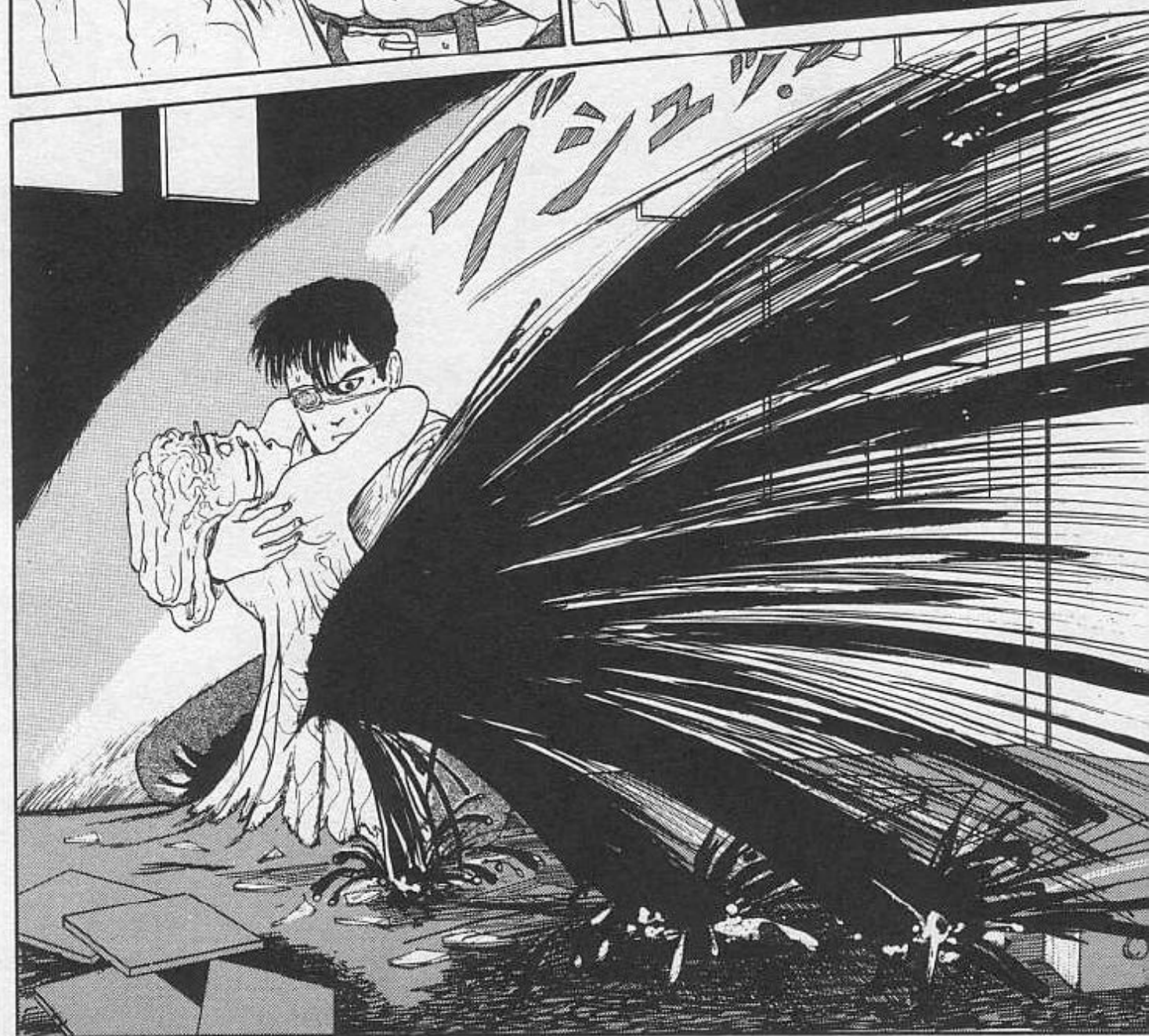
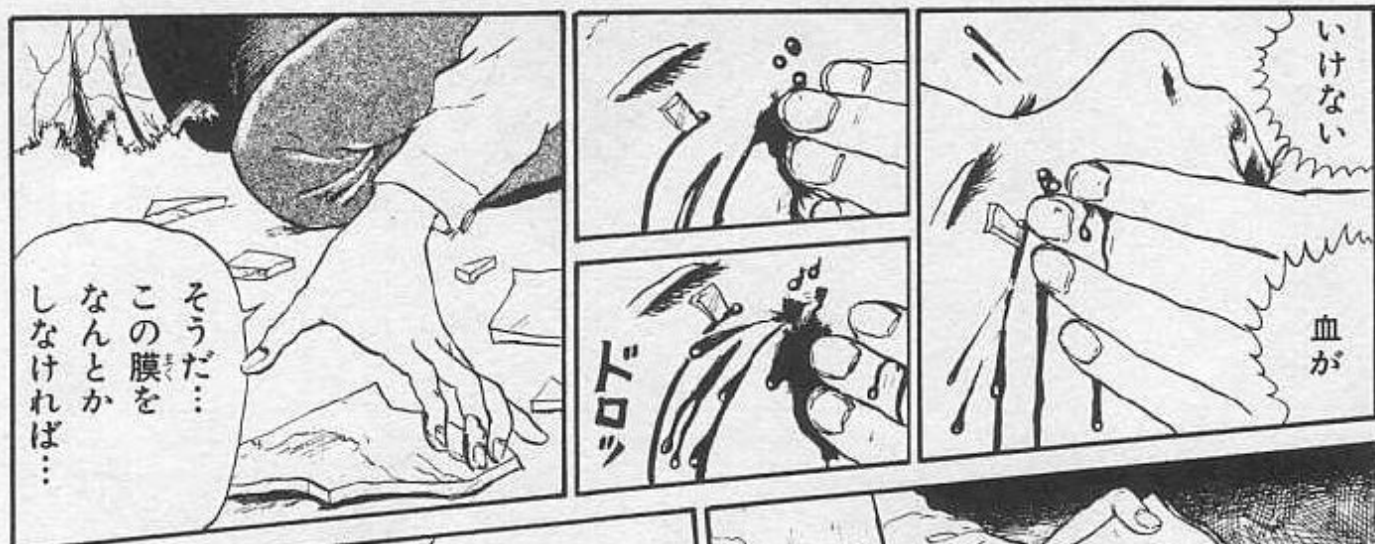
そしてこの部屋で
私たちの子供を育てるの

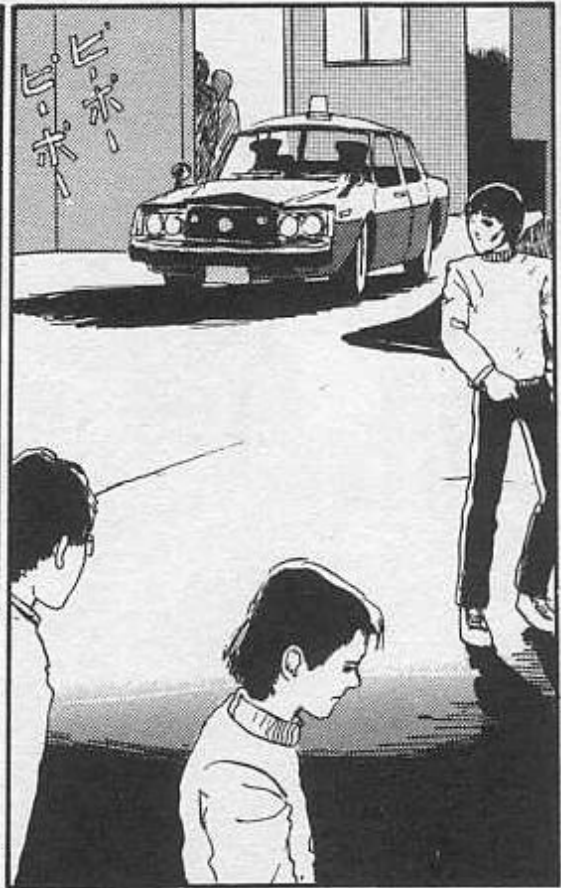
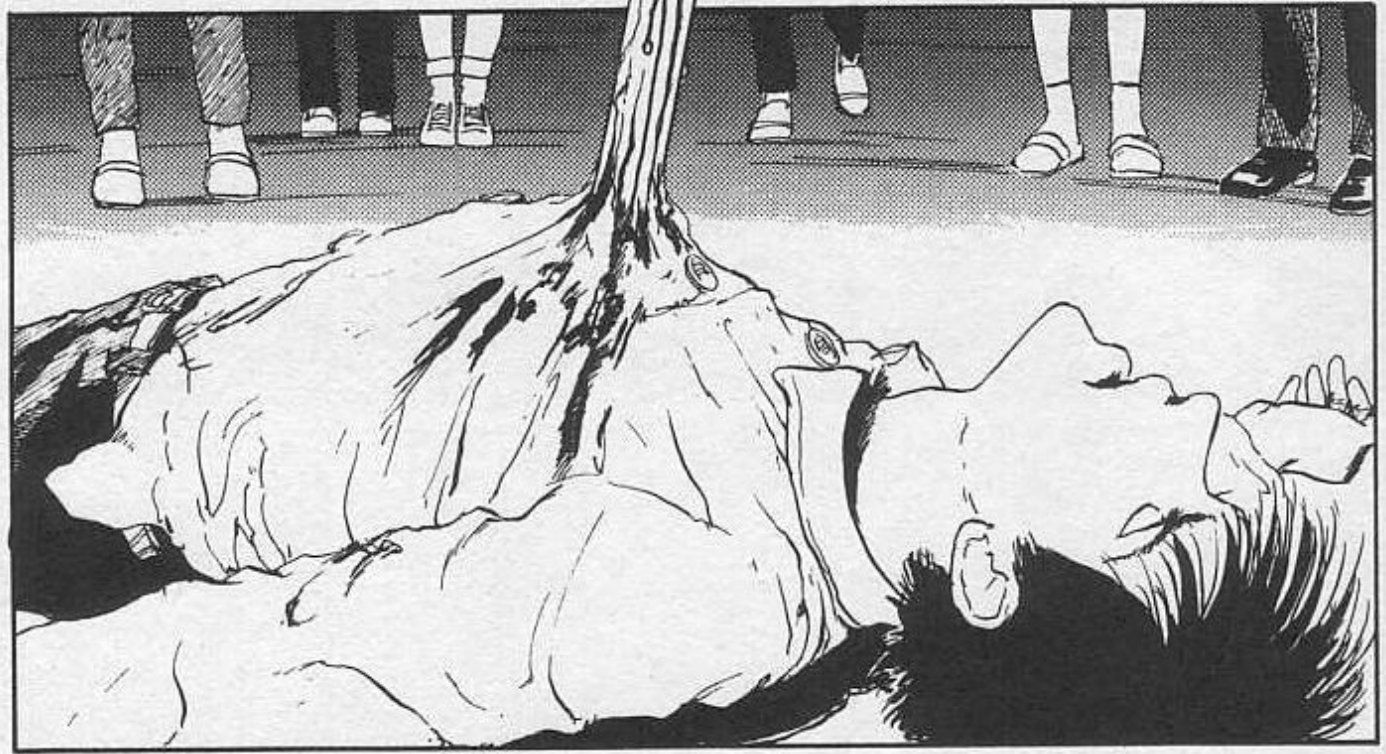
ホホホ



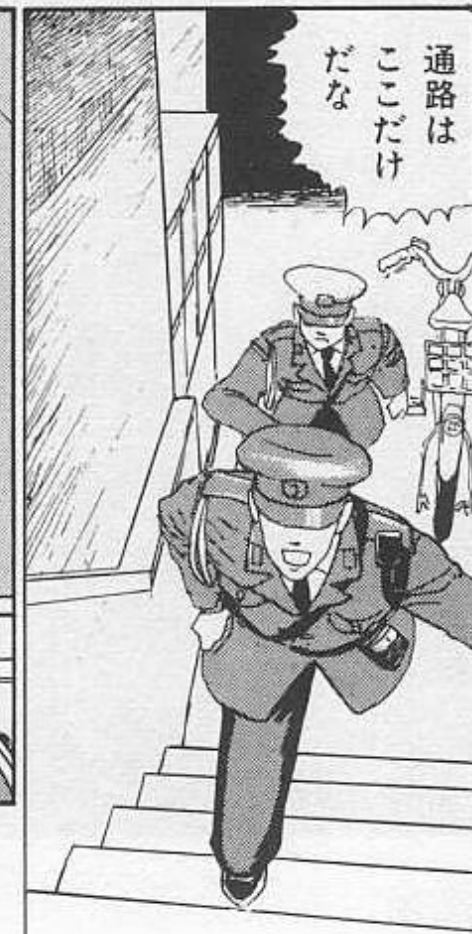
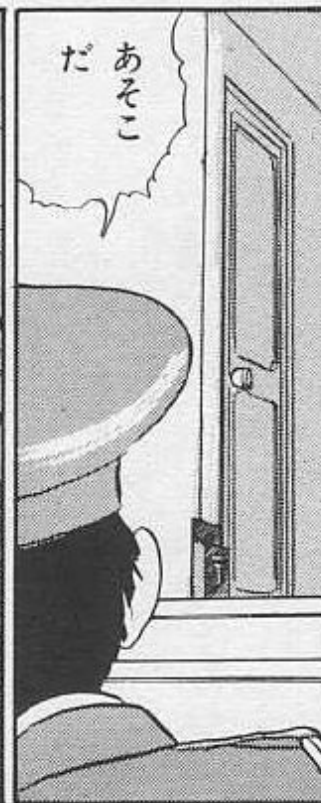
この部屋が
私たちの
世界なのよ





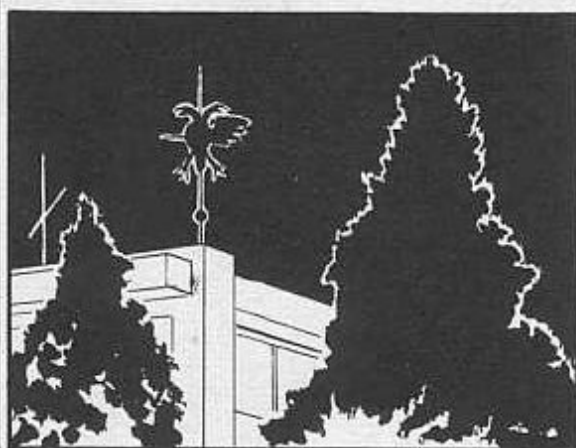
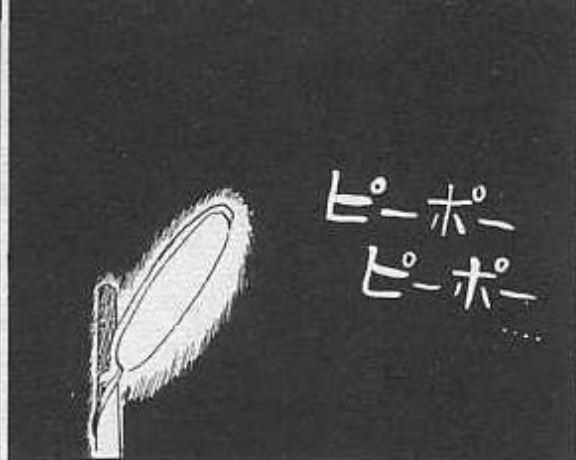
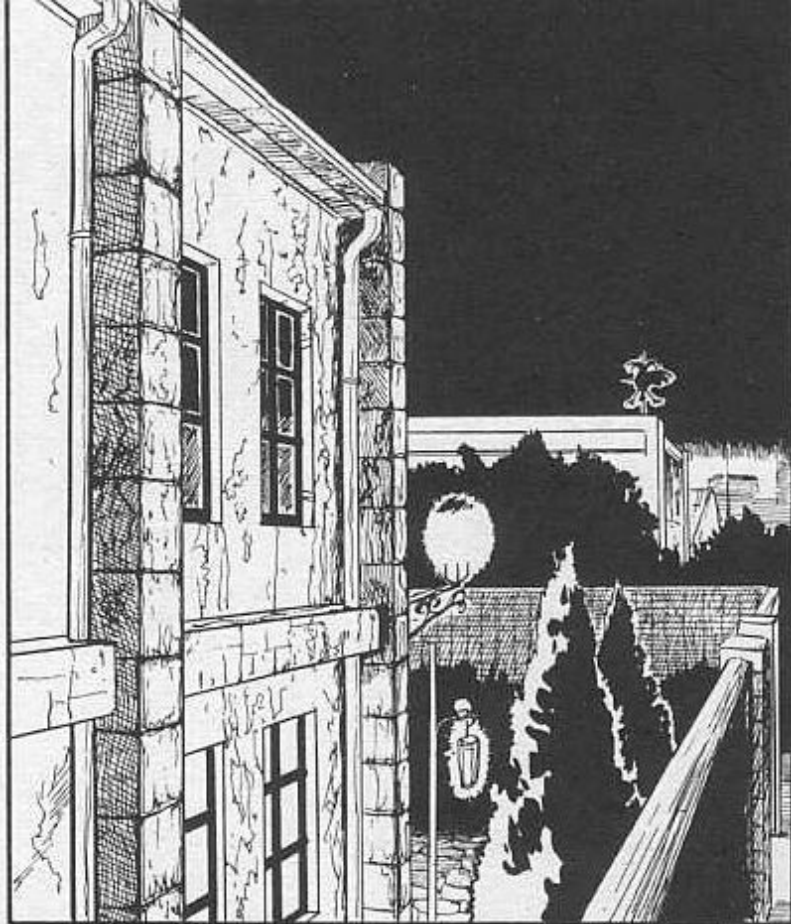






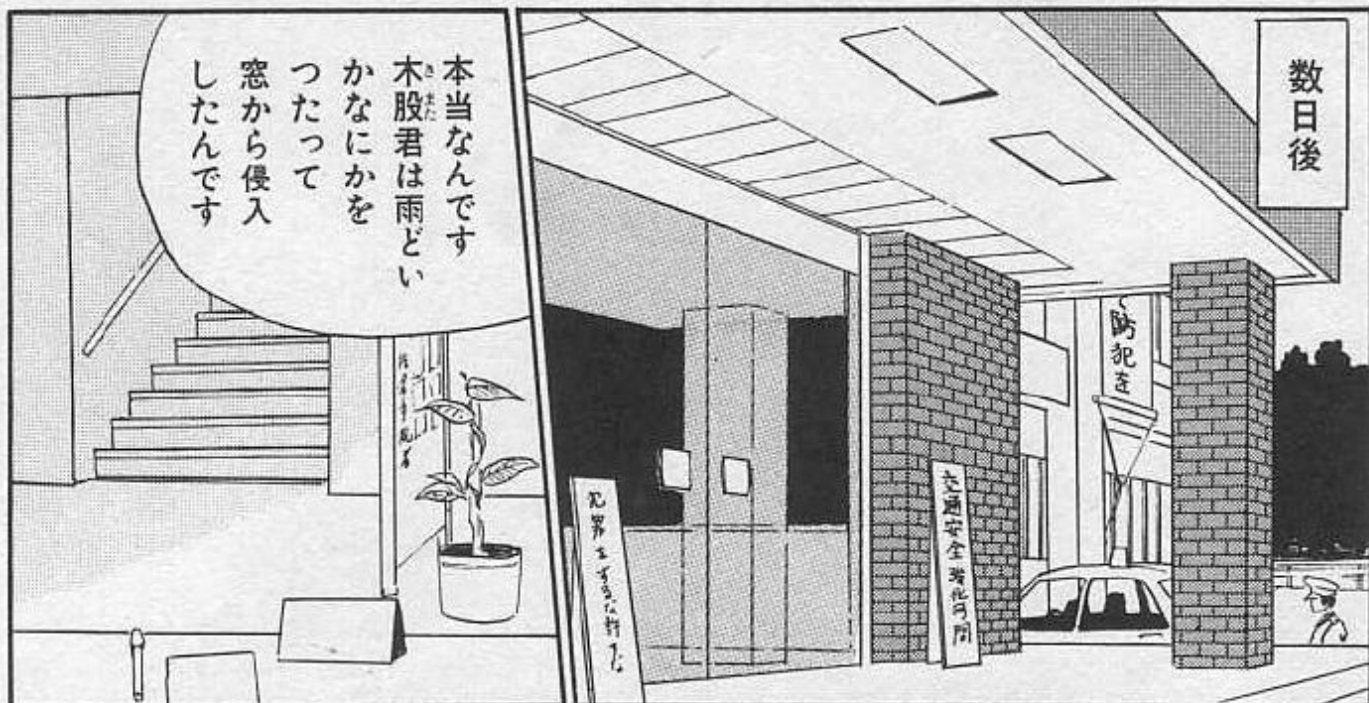




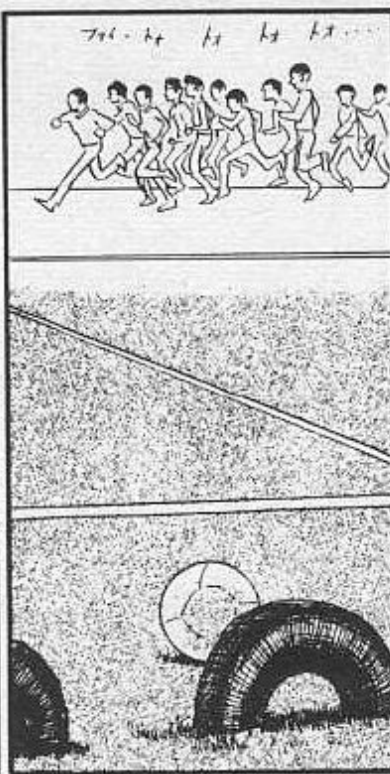


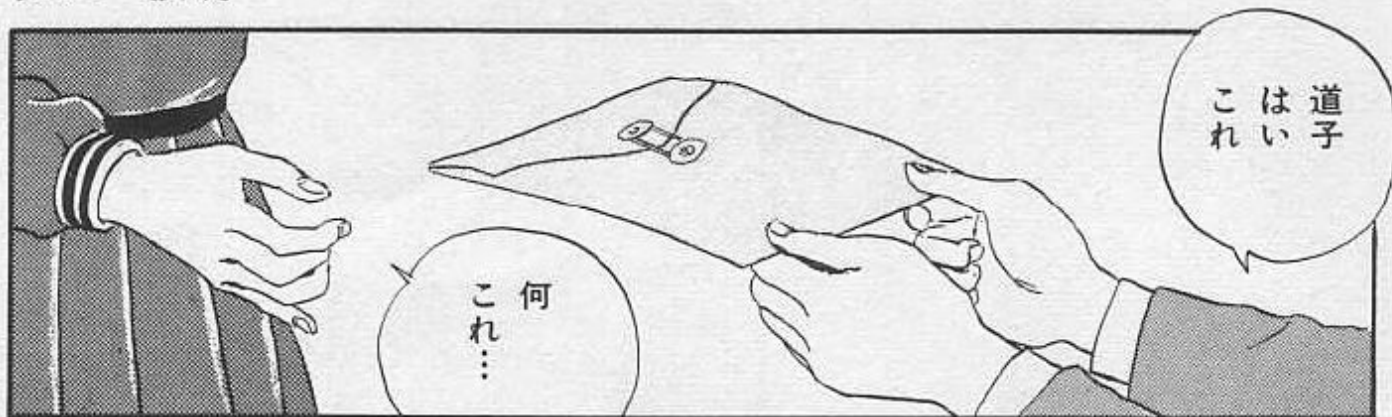


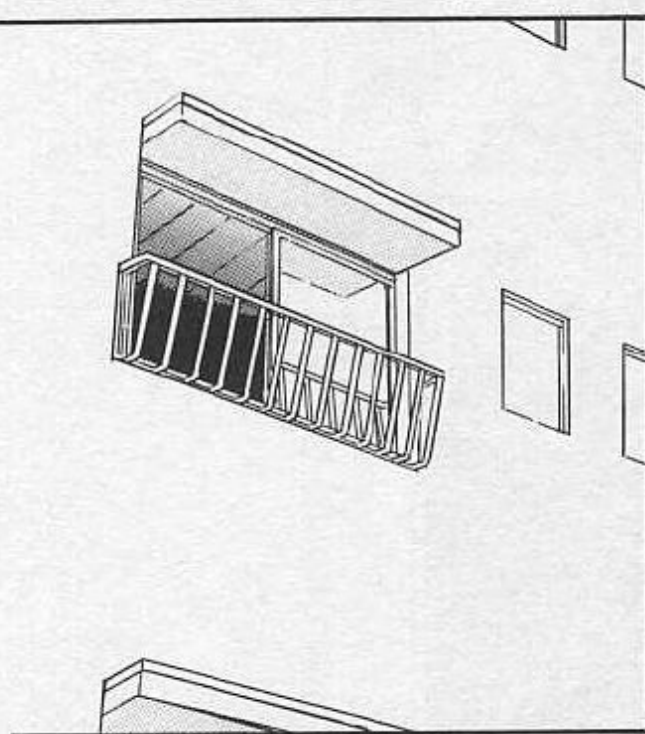
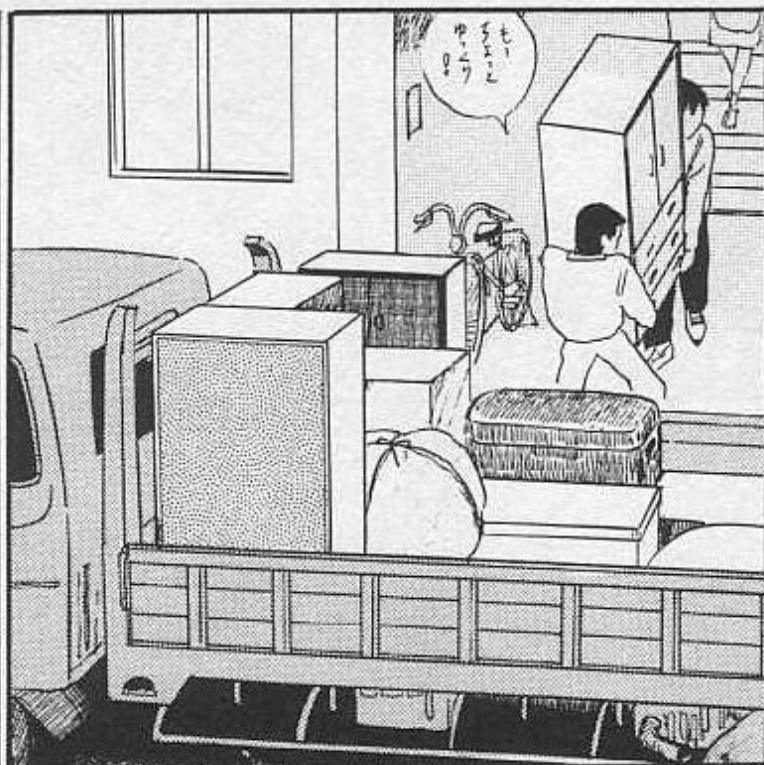
数日後

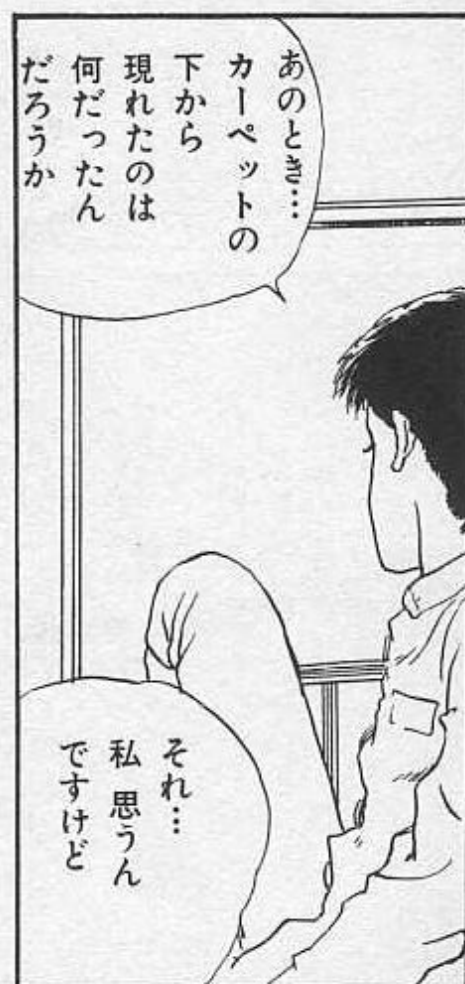
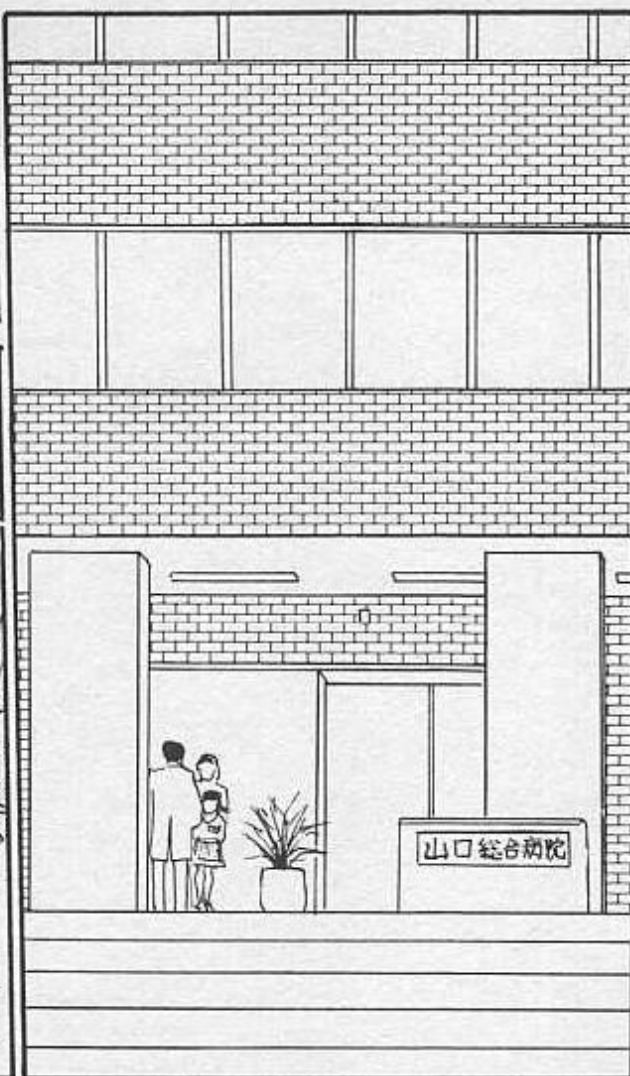


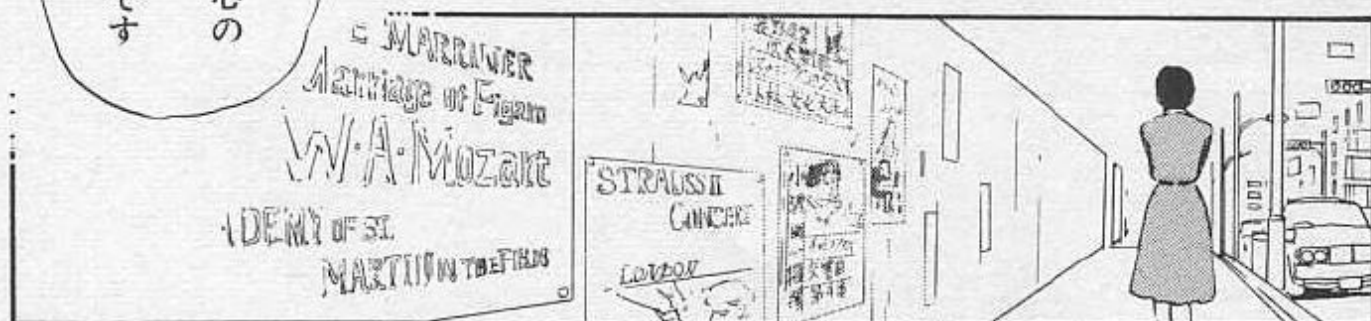
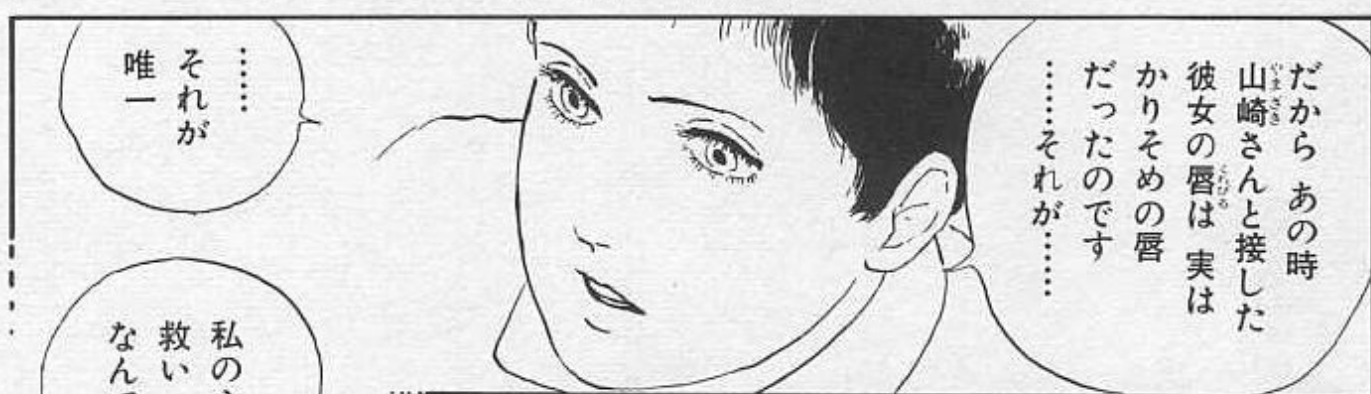
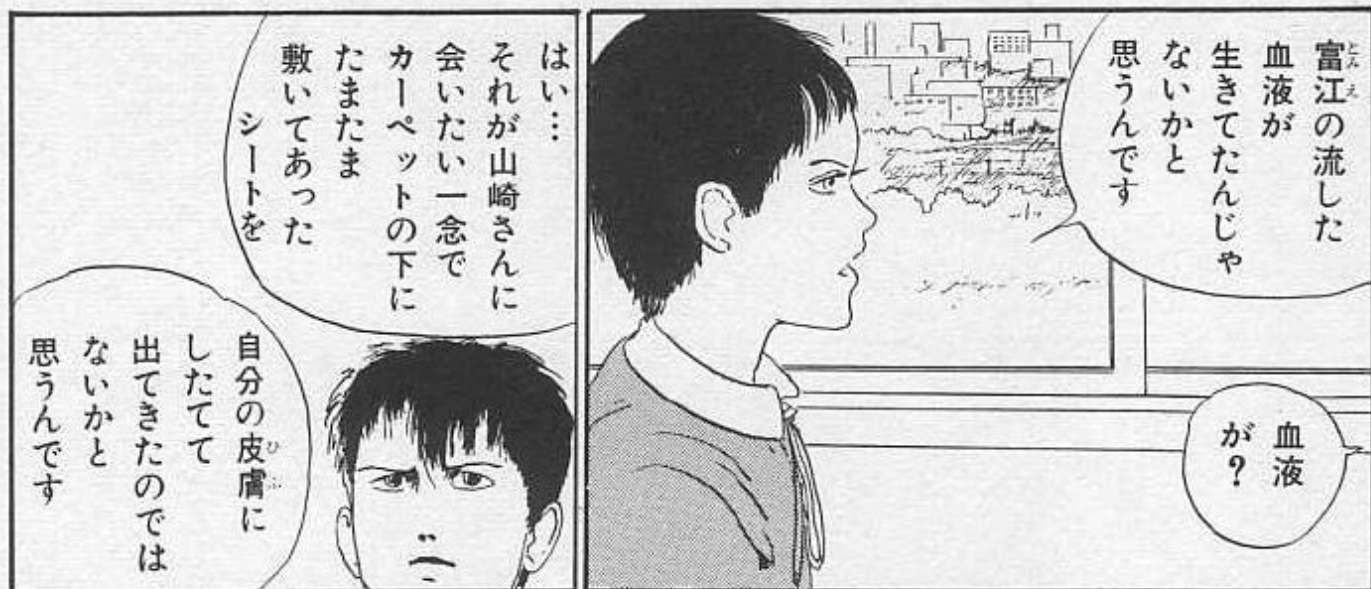




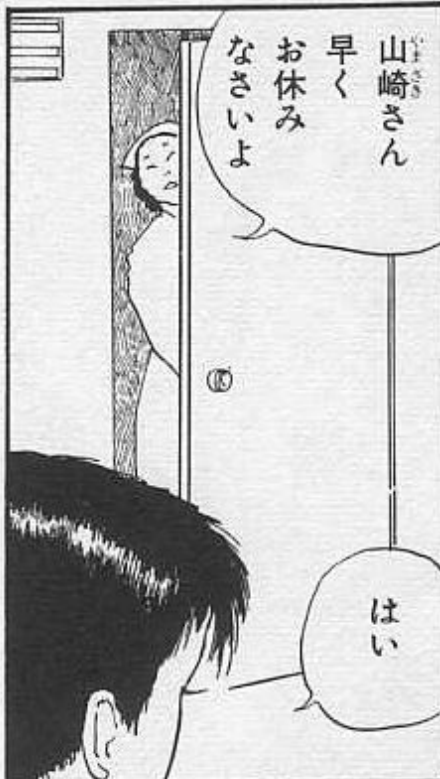
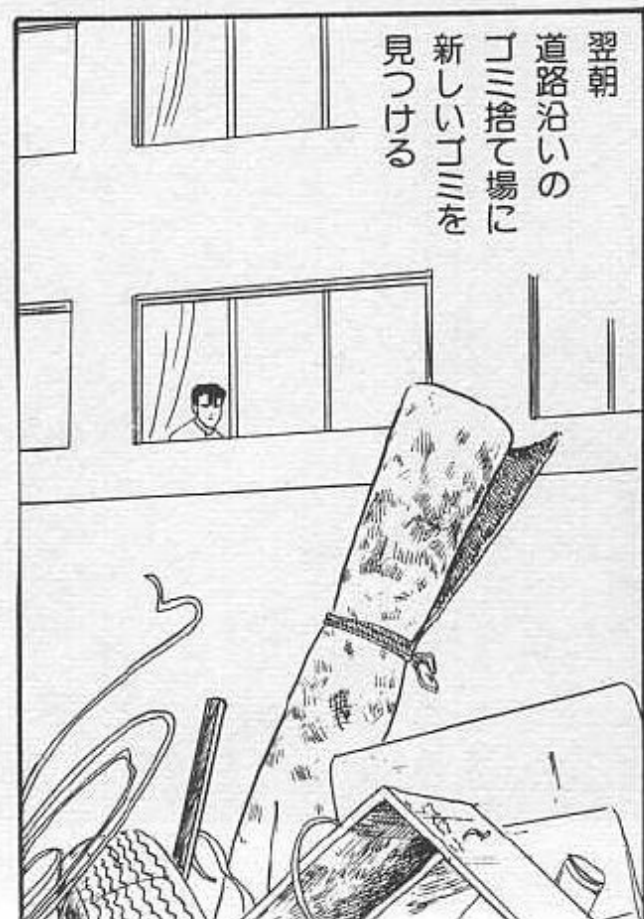
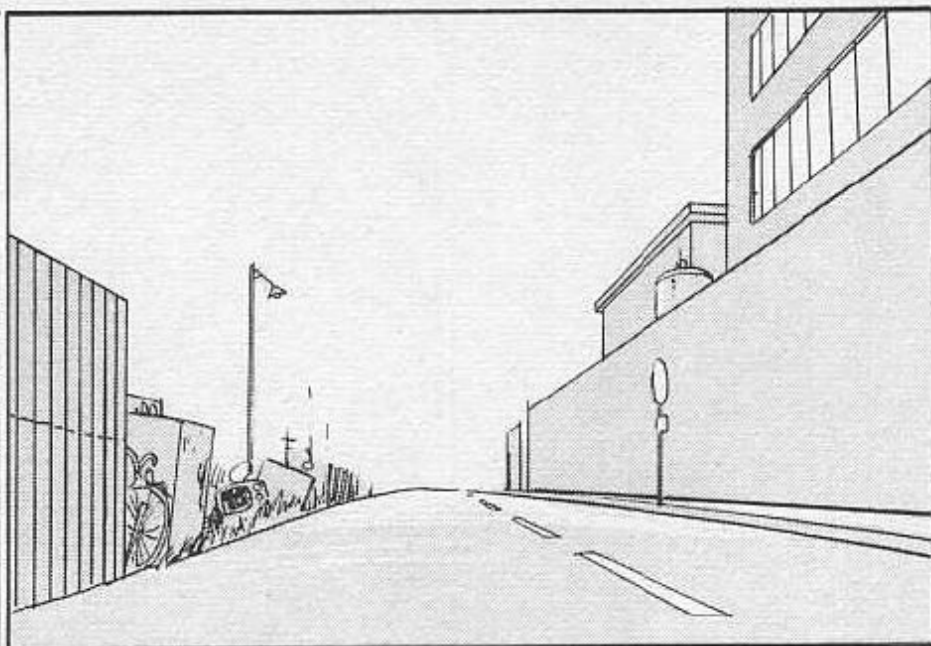




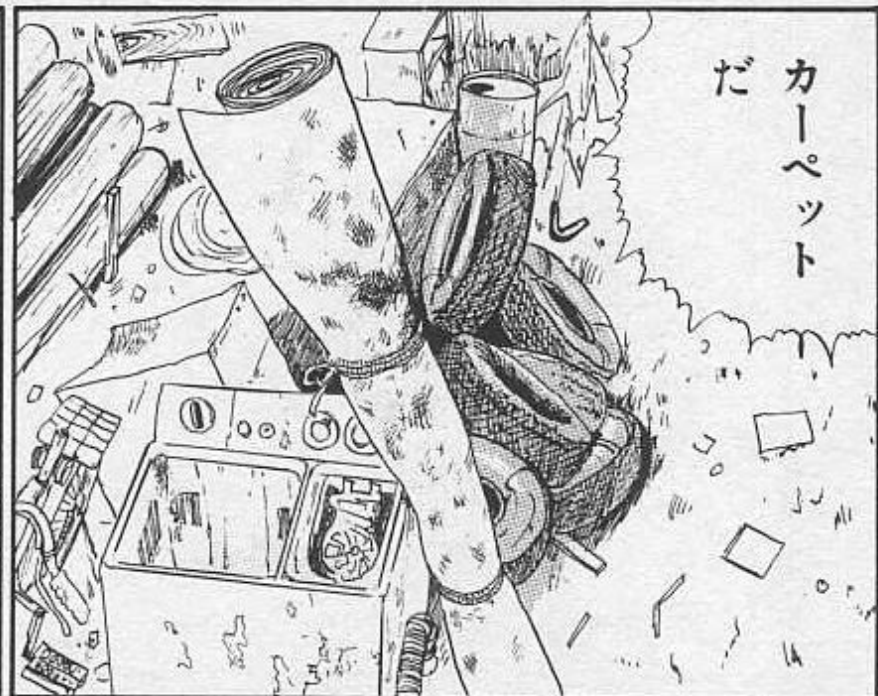




富江・接吻

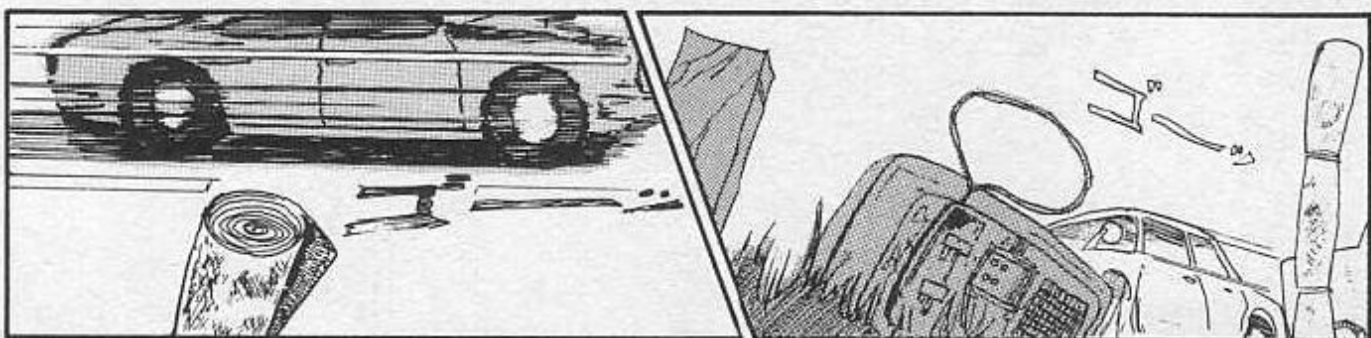


カーペット
だ



どこの誰が
捨てていったの
だろう

なぜか妙な
予感がする
……



そして
日がたつにつれて
予感は
現実のものとな
っていった



カーペットに
妙な
ふくらみが





ゴミ捨て場に
広がった
カーペット
一面に

無数の
妙な
ふくらみが
あつた



何が
起ころうと
しているのだ



あれは
なんだ



ムクッ



ベツッ



日に日に

……
徐々に

しかし
確実に
のびてゆく



あのカーペット
だったのだ！
まちがいなく
あの呪われた
部屋の……

そして
おれに背を
向けて
のびている
ものが

何であるのか
おれには
わかる



なぜなら今
彼女らが
いつせいに
ふりかえり
手をさしのべた
のだ！

聞こえる……
おれには
聞こえるんだ！
彼女らの
叫ぶ声が！



山崎さん
抱いて~~~~~

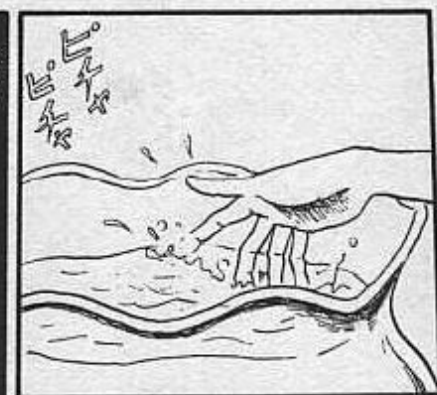
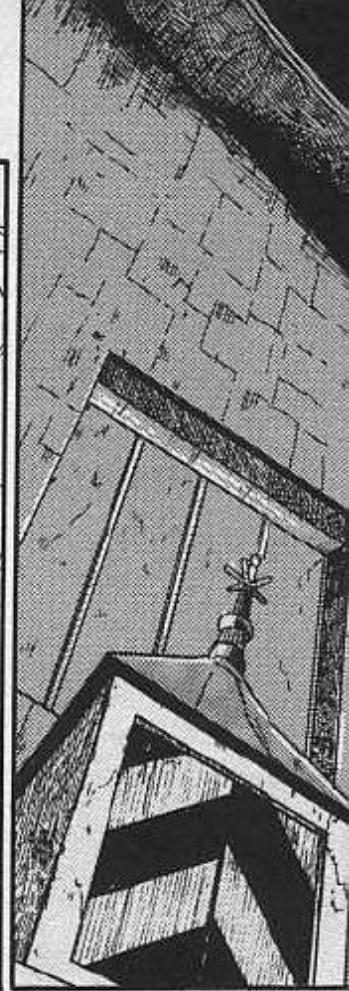
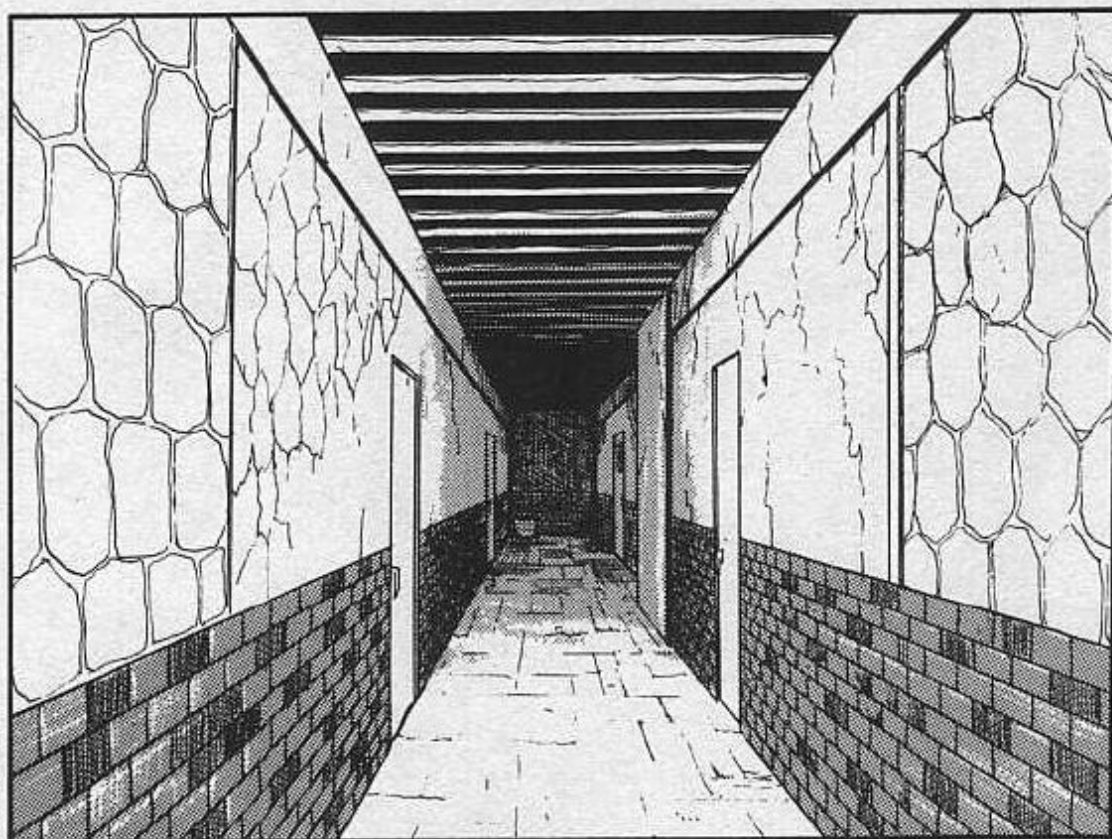
山崎さん
抱いて~~~~~

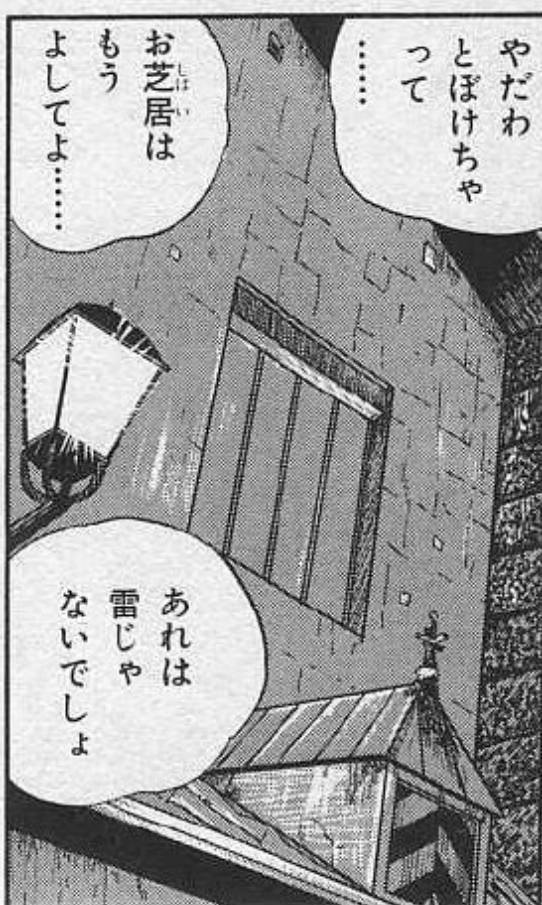


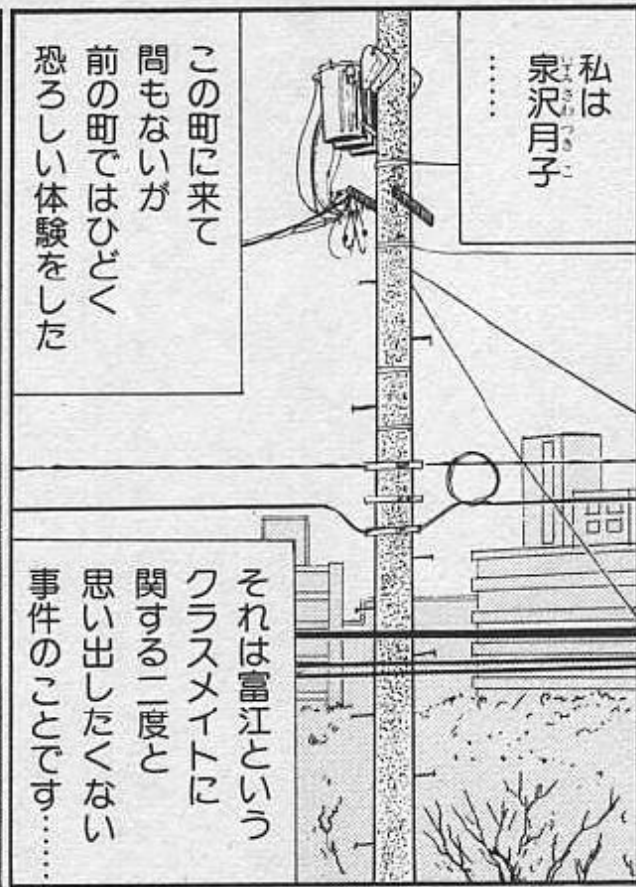
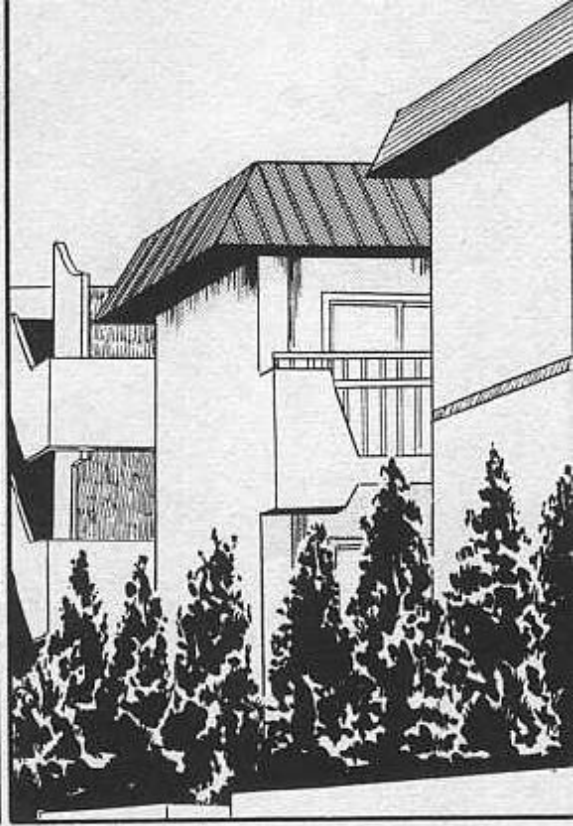
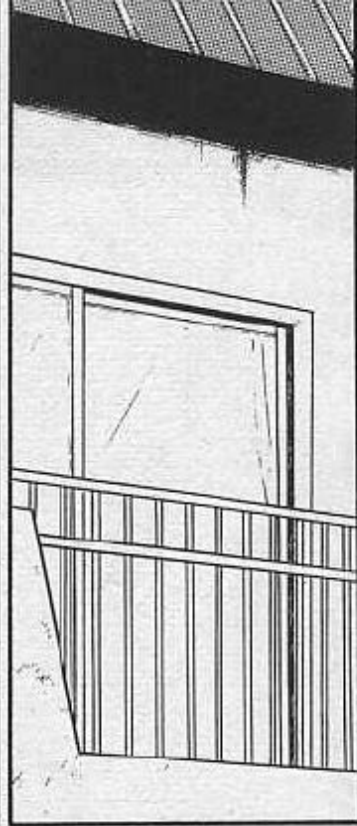


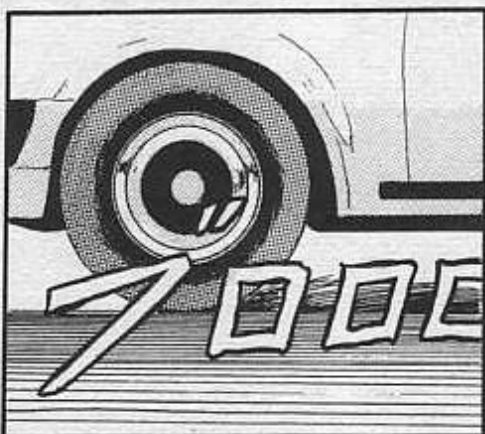
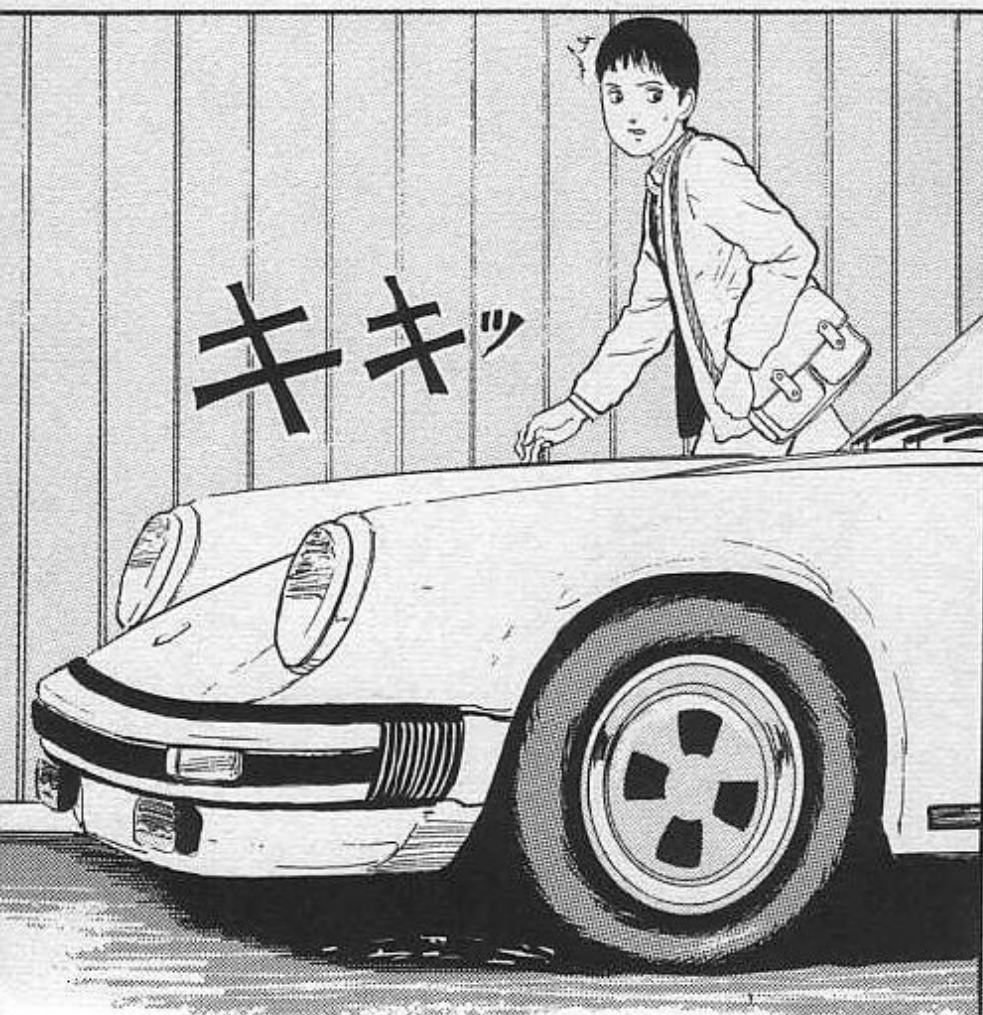
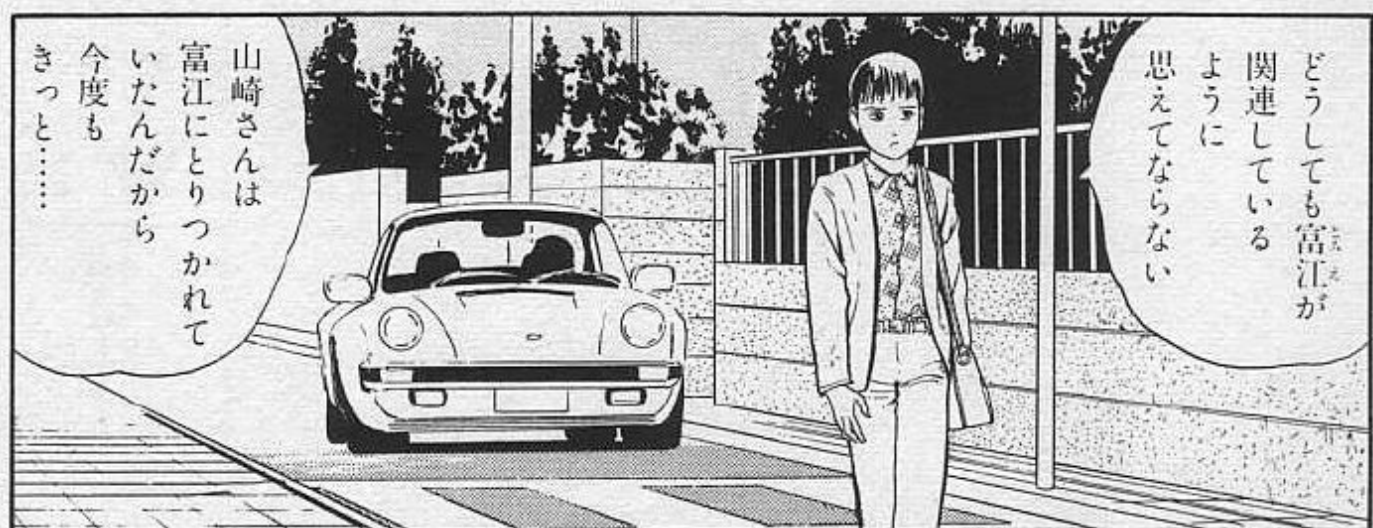
やしき敷



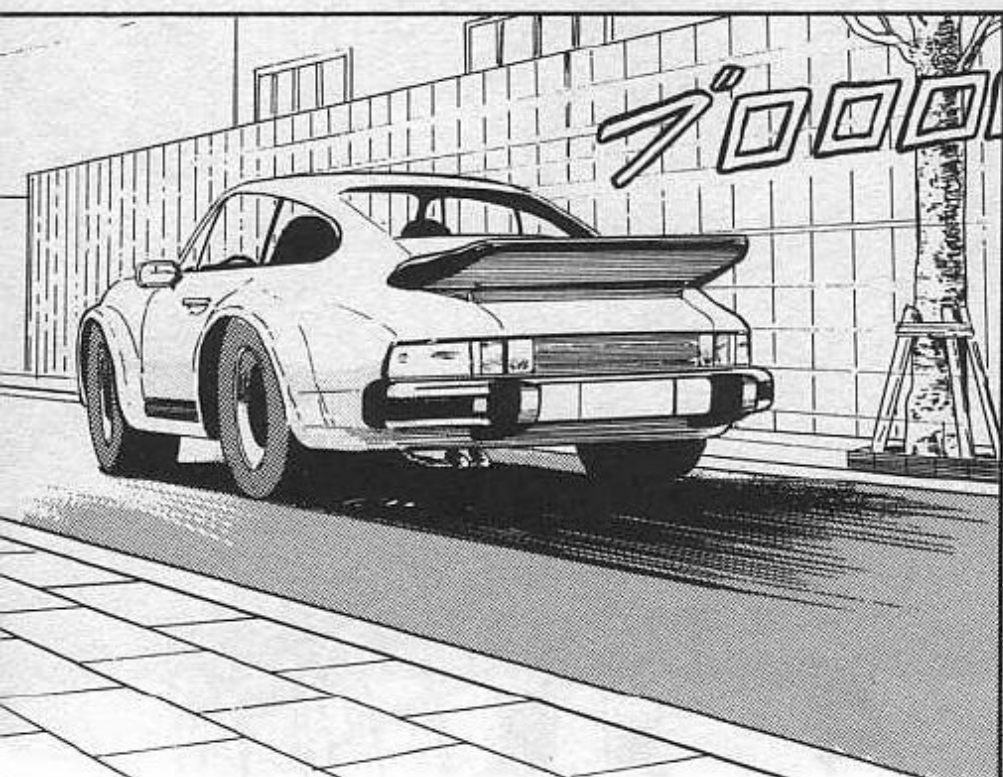










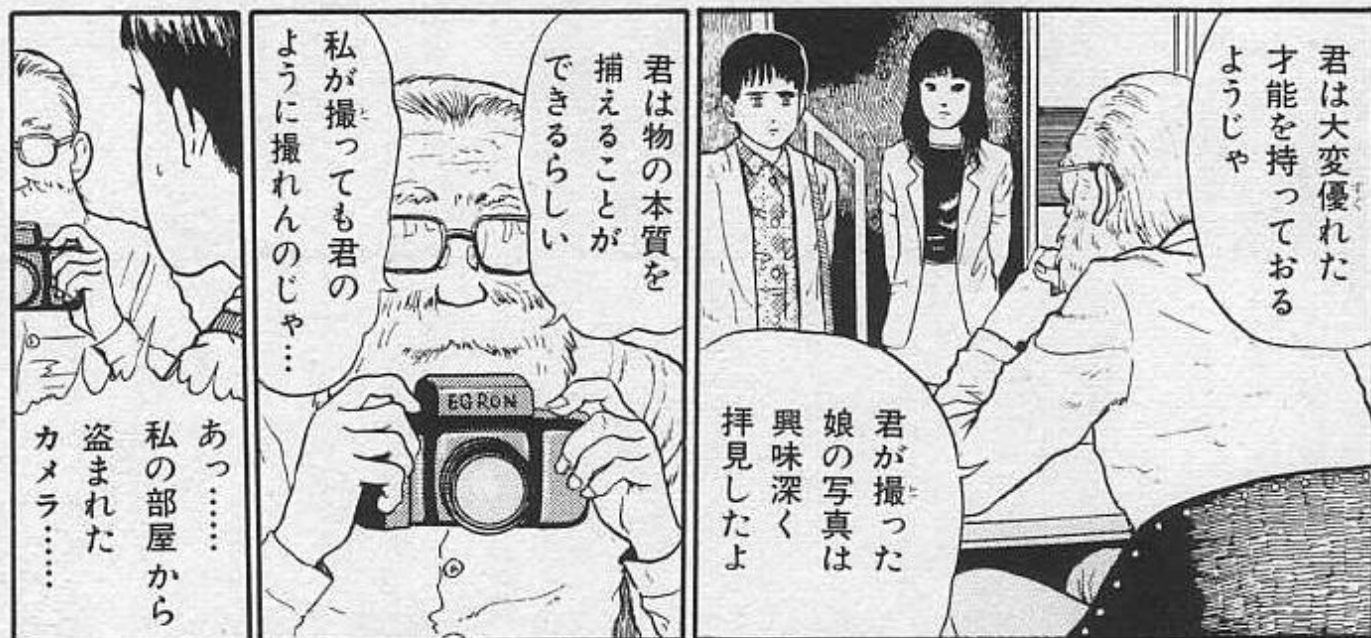






よく来て
くれたね……
待っておった
んじゃよ

娘から
噂は常づね
きいて
おる



君は大変優れた
才能を持つておる
ようじゃ

君が撮った
娘の写真は
興味深く
拝見したよ

君は物の本質を
捕えることが
できるらしい

私が撮っても君の
ように撮れんのじゃ……

あつ……
私の部屋から
盗まれた
カメラ……



どうだね……
一度撮って
みては
くれんかね

やめて
お父さま

山崎さんは
どこです!?
山崎さんを
返して下さい

アハハハハ

山崎さんなんて
いないわよ
なんで彼が
ここにいて
わけ!?

彼のことなど
知ったこと
じゃないわ

だました
のね

私は本気で
男を好きになんか
ならないわ

娘にとって
男は
単なる
飾りじゃ

娘は
自分以外には
興味はない…

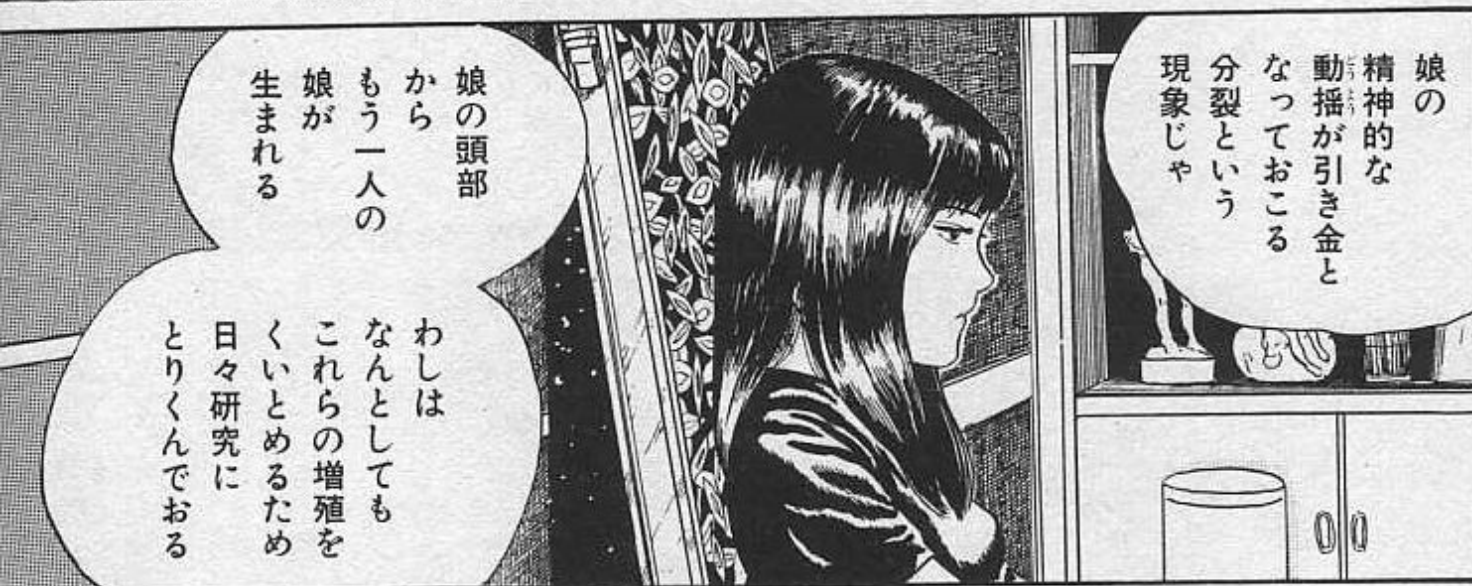
自分を
他人に
どう
見せるか

それは
他人から
愛される
ためでは
なく…
自分自身を
より愛する
ためじゃ

男たちは
勘違いをして
娘に夢中
になるのだが…

どういうわけか
娘に深入り
した男たちは
娘の体を
バラバラに
しようとする
……

一体
この娘の何が
男たちに
そうさせる
のか……





見たまえ
あれが分裂の
状態じゃ
強酸に漬けて
あるために
成長は
止まって
おるが……
しかし
あれだけの強酸にも
耐え得る組織の
再生力を持つとる



すばらしいとは
思わんかね



どうだね……
君も私の
研究に
手をかして
くれんか……

冗談じゃ
ないわ
私帰ります



おねがいじゃ
……
私の実験台に
なって
おくれ……

たしかに
娘の体液や
その他の怪しげな
薬品を君に
注射するのだが……



しかし
何ごとも
チャレンジじゃ



ピチャ
ピチャ

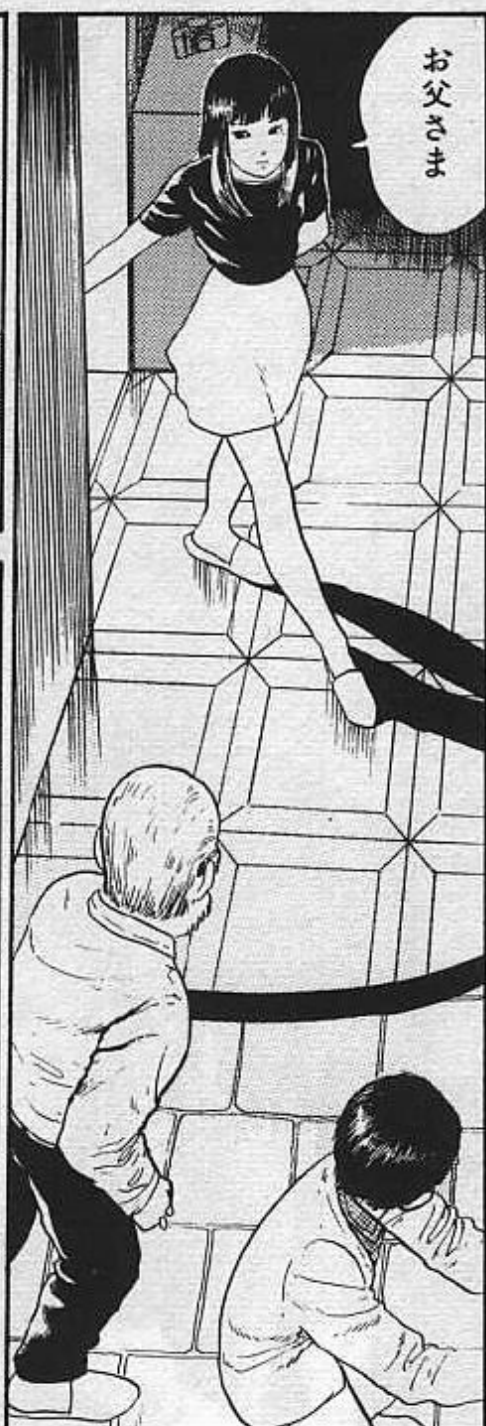


娘や！
鉢の蓋を
閉めなさい

ガスで
のどをいためて
しまうよ！



ポタポタ



お父さま



お父さまだったら
前にもチャレンジし
て失敗したじゃない
……ひどいものが
できちゃって……

いつまで
こんなこと
続ける
つもり？

もう
しばらくの
我慢じゃ……
必ずおまえを
治してやる……



前から
それ
ばかり
……
私もう
飽きたわ
あなたの
お芝居には
……

今までは
おもしろいから
つきあってた
けど……



もう
やめ
たら？

そんな格好
しなきゃ
私と対等に
お話ができないの？



ギヤ~~~~ツ



はずかし
がりやさん



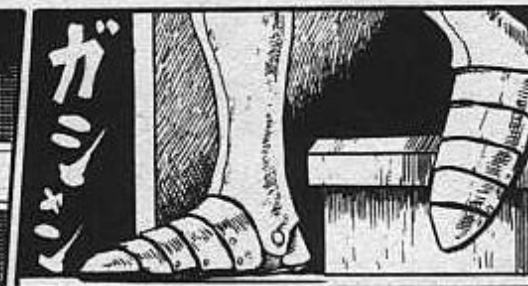
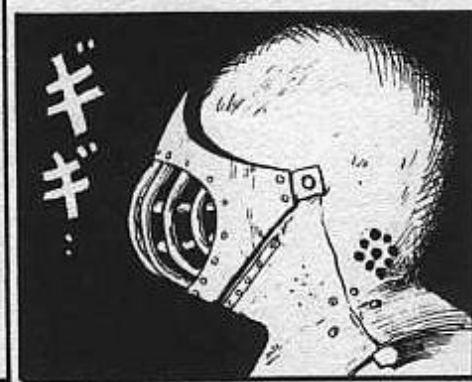
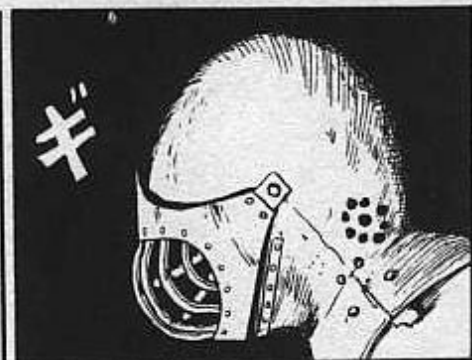
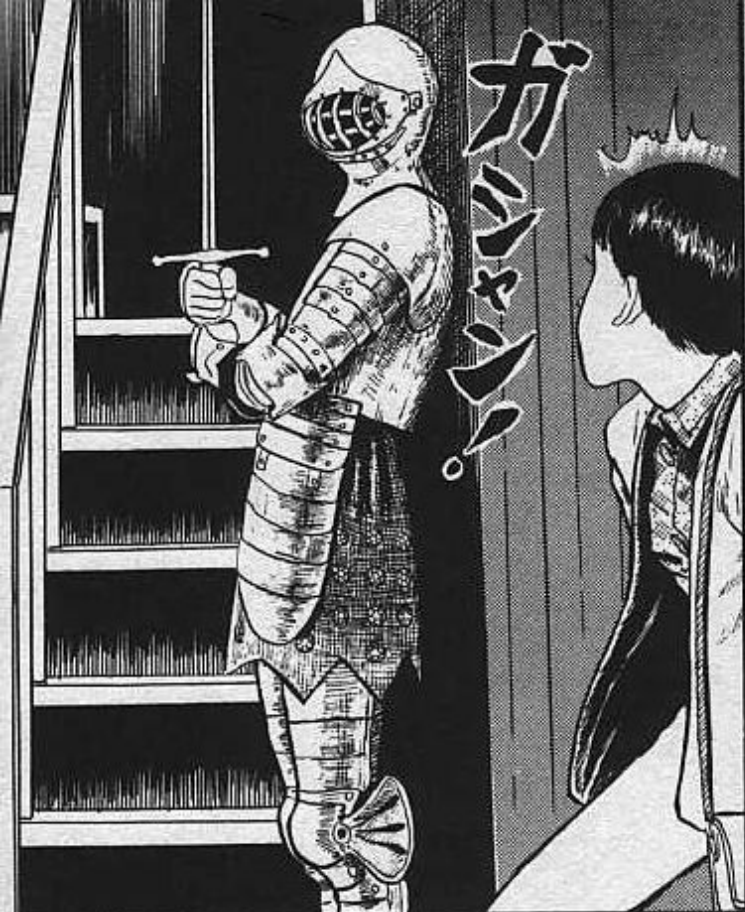
目覚め
なさいっ

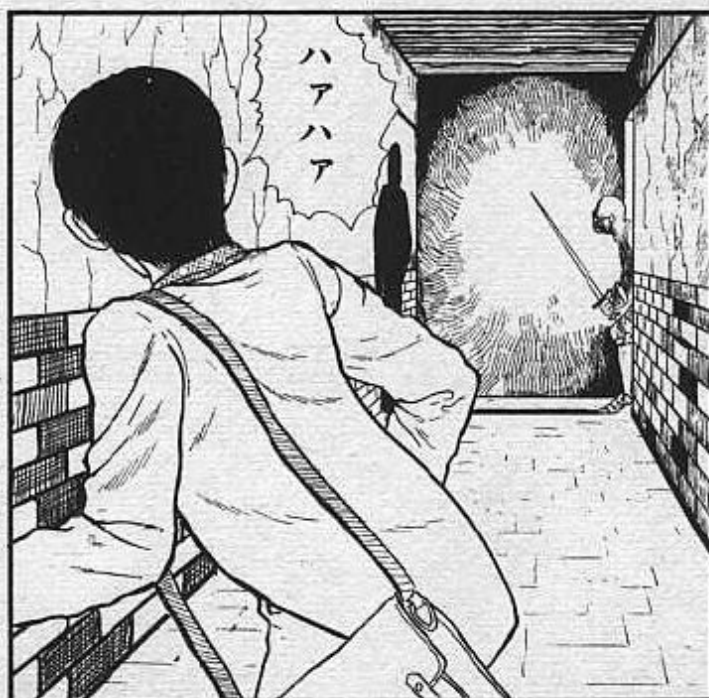
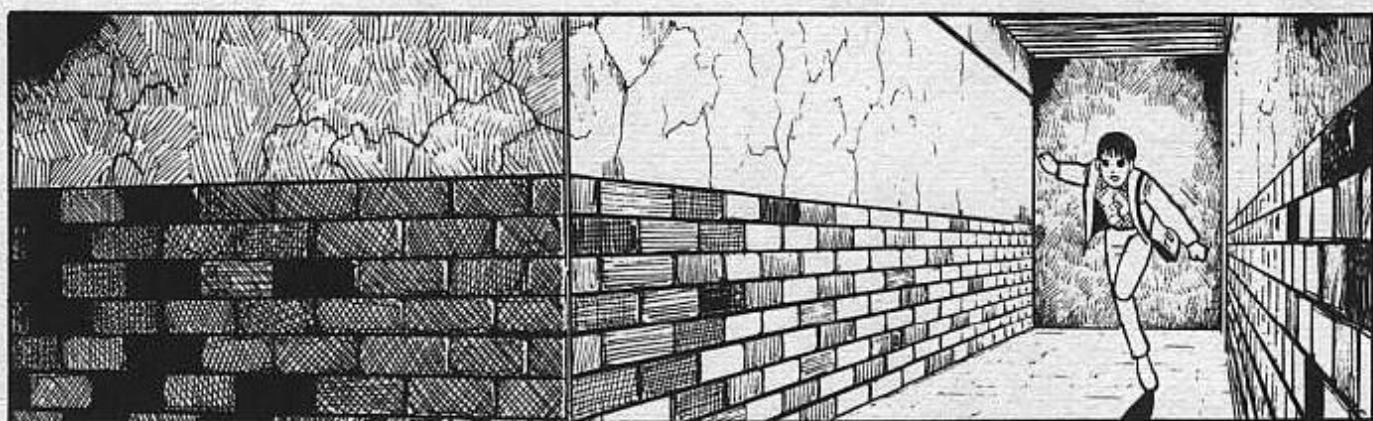
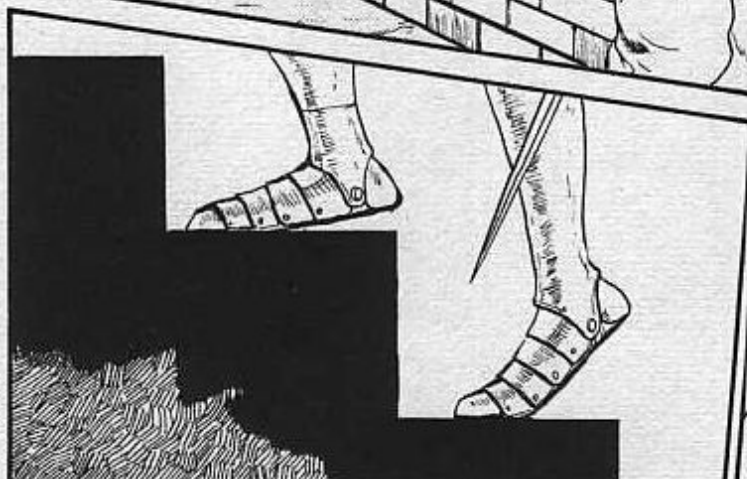
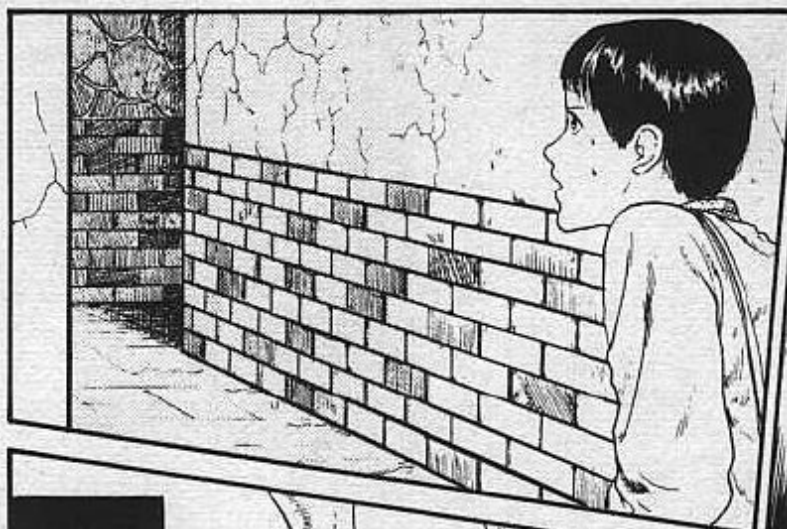
忠実な
しもべ

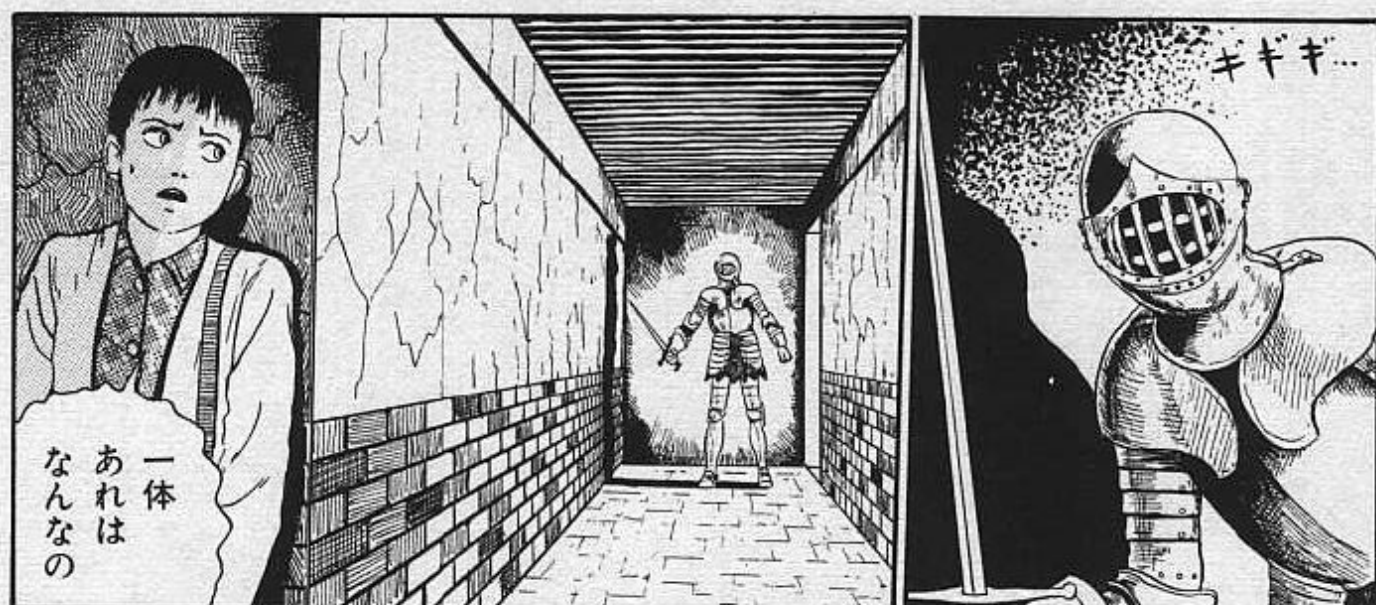


ギヤ~~~~ツ













ヒ…
ヒヒヒ
……



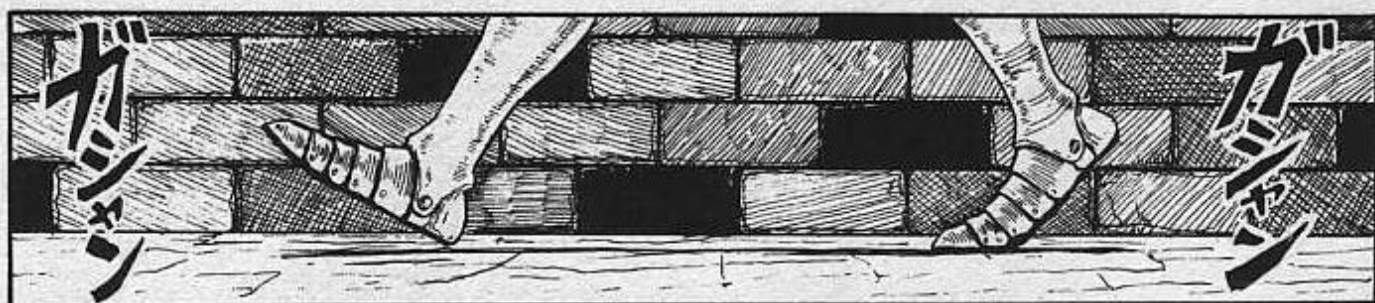
仮面を
とると
無口に
なるのね

高木
先生…



本当に私を
治すつもり
あるのかしら？

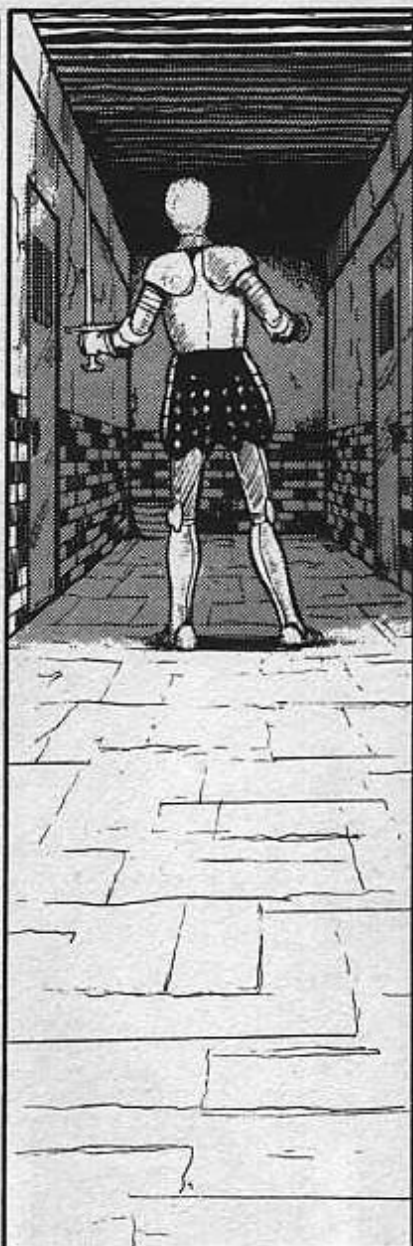
本当は何か
別の目的が
あるんじゃないの？



わしを
ここに閉じ込め
たのは
あの二人なんじゃ
……



お嬢さん
……あんたも
ひどい連中
にかわった
ものだ……



聞いておくれ……
あれは夏の始めの
ことじやった

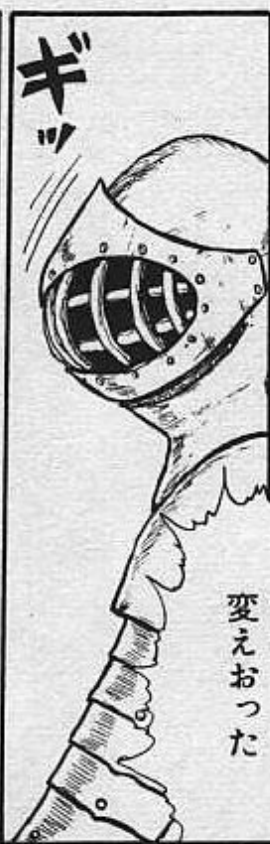
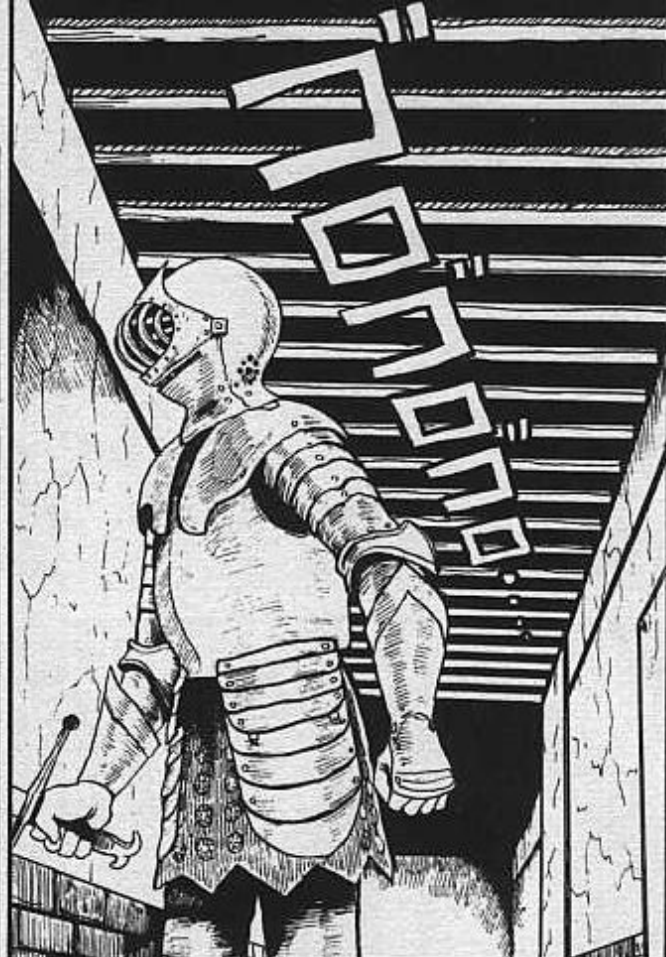
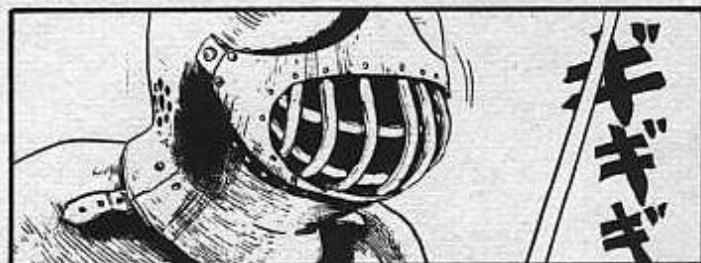


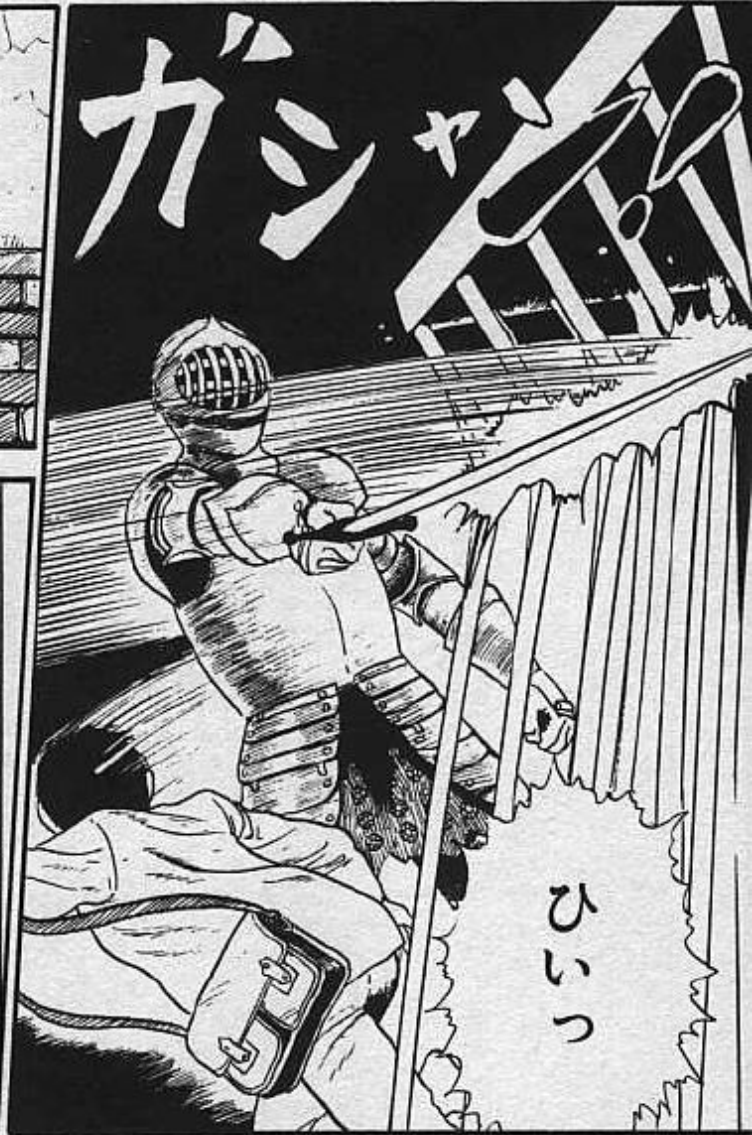
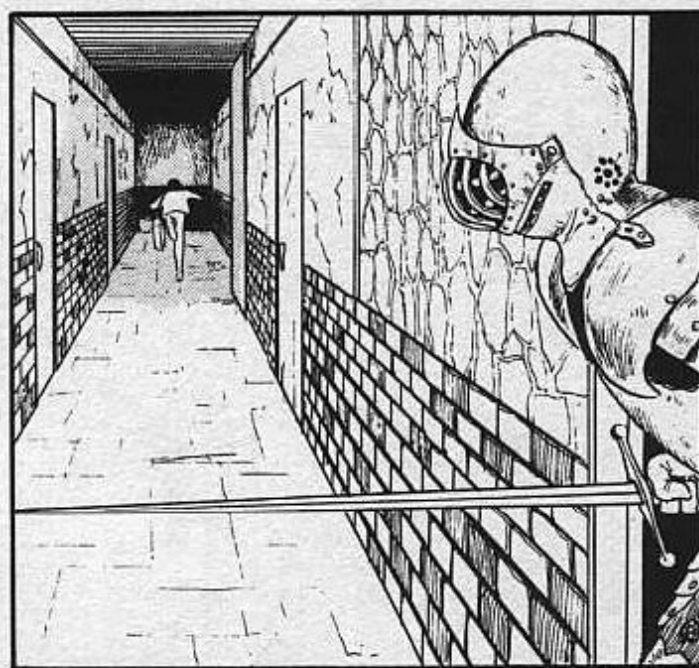
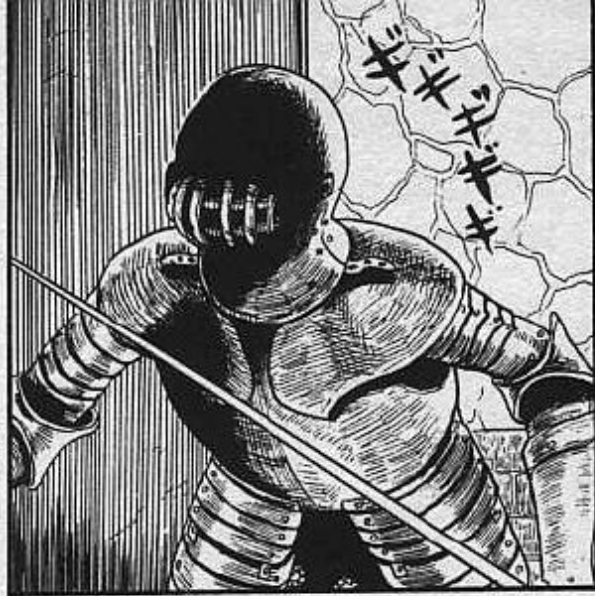
忘れもせん……
稲妻の走る
嵐の夜

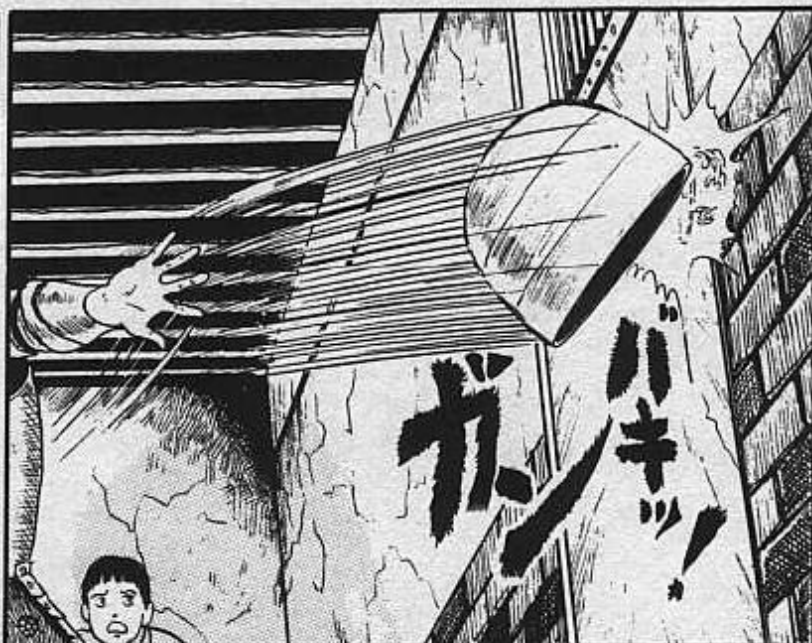
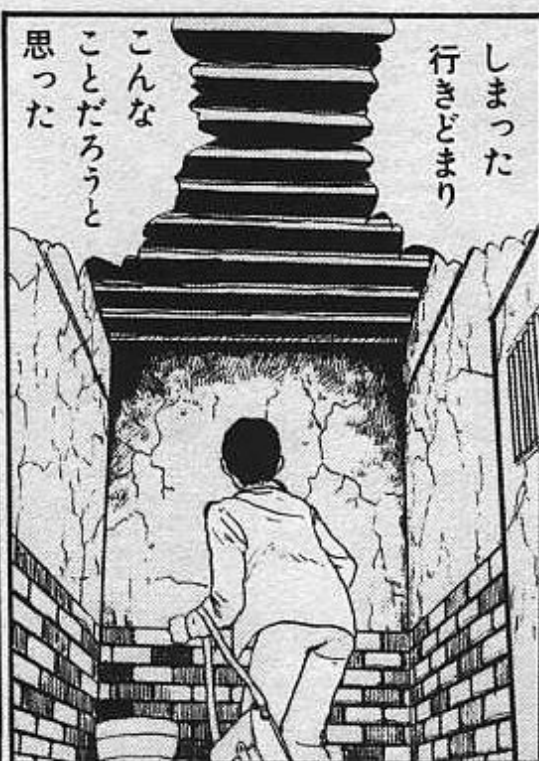


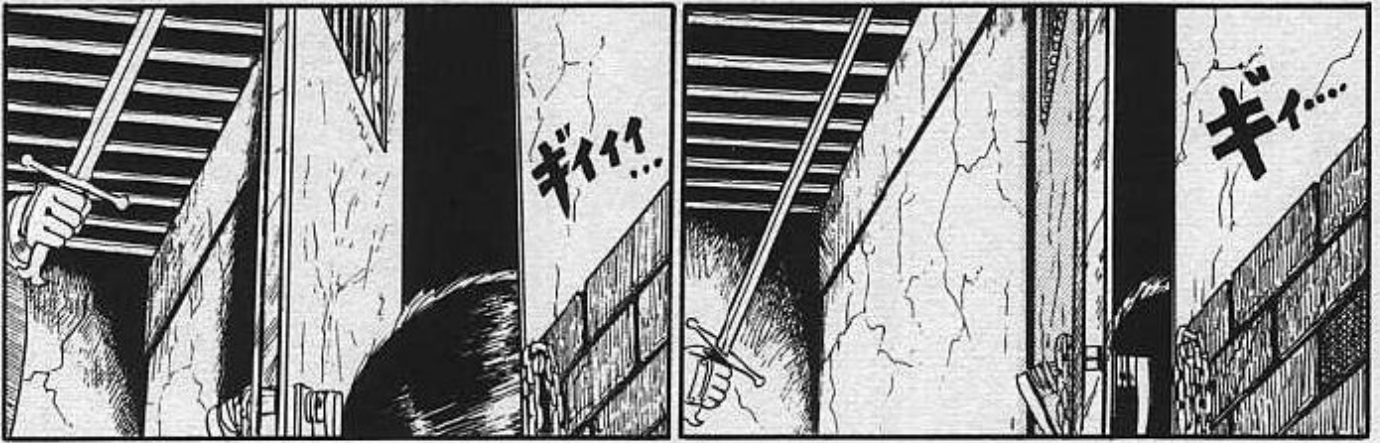
玄関に
出たのは
わしの
娘じやった















太地君

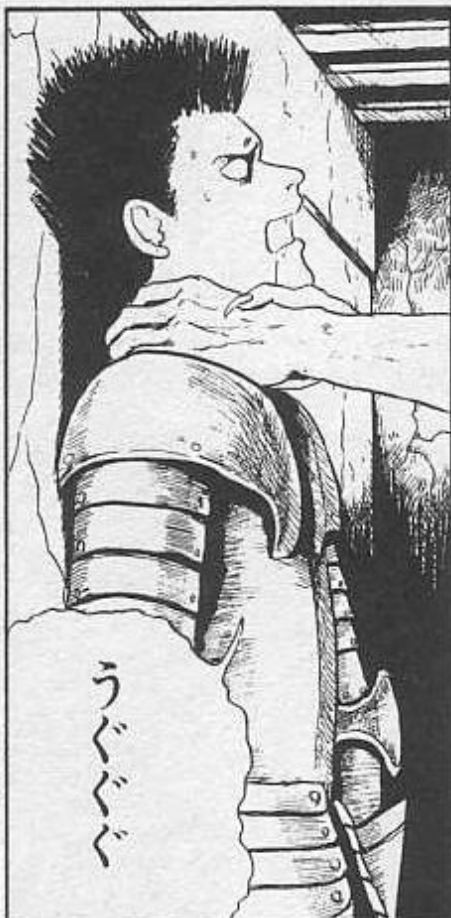
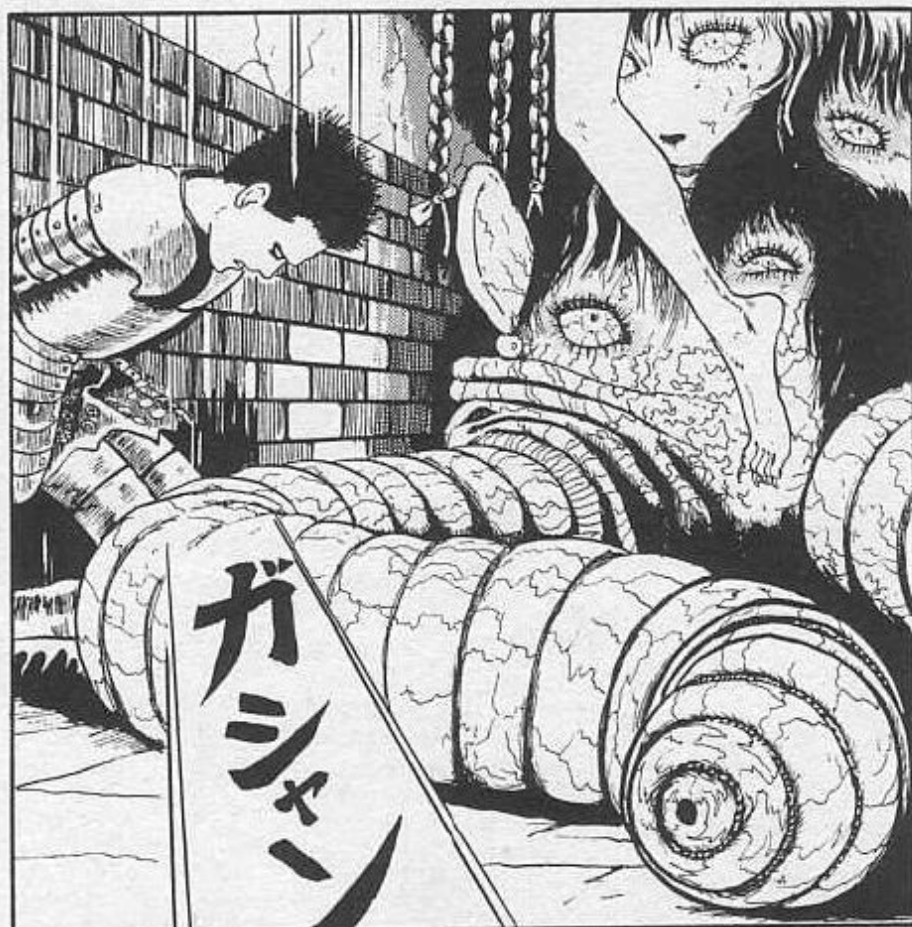


あれが
実験の
結果なのか

あれが娘さんだといふのなら
全身に生えた
大小さまざまの
富江の顔は いったい
なんだろう...?

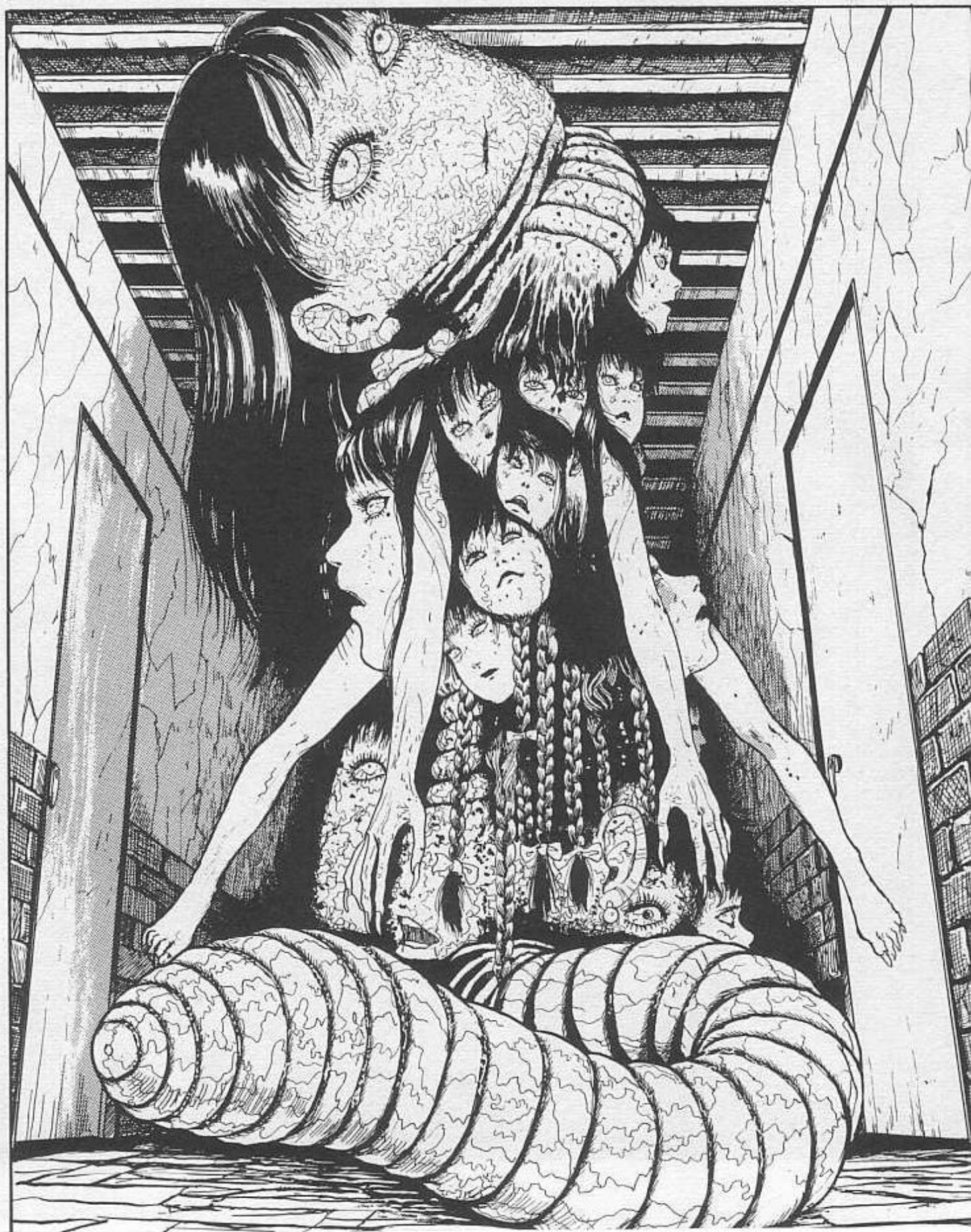
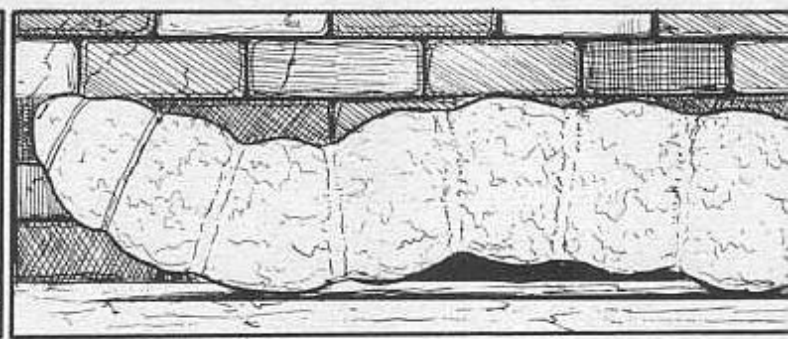
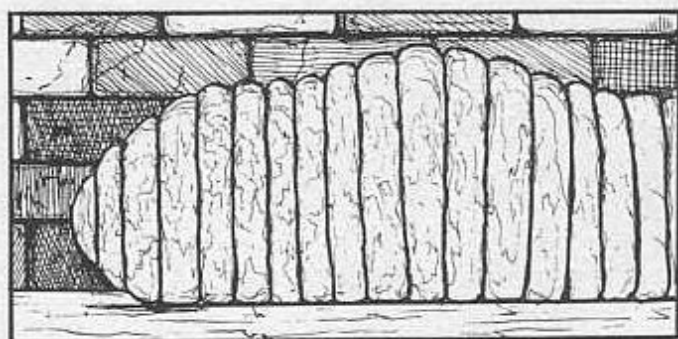


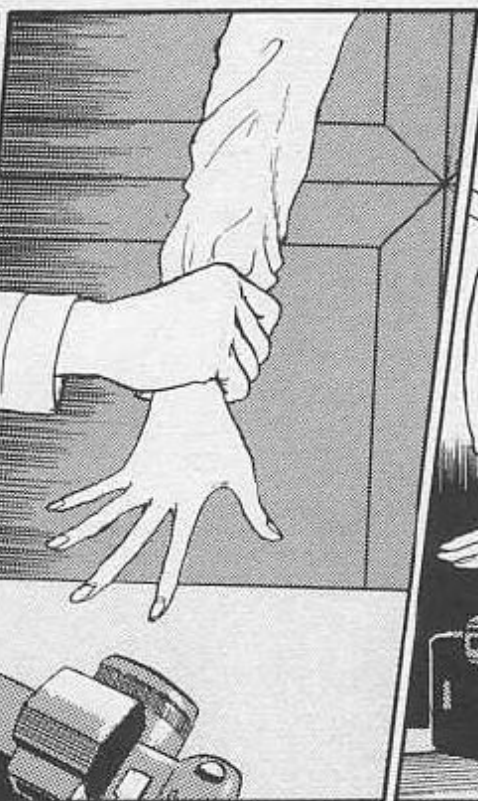
これが
娘さんなの!?



おじいさん……
必ず助けに
来ます

月子さん
あなたも
運のいい人ね





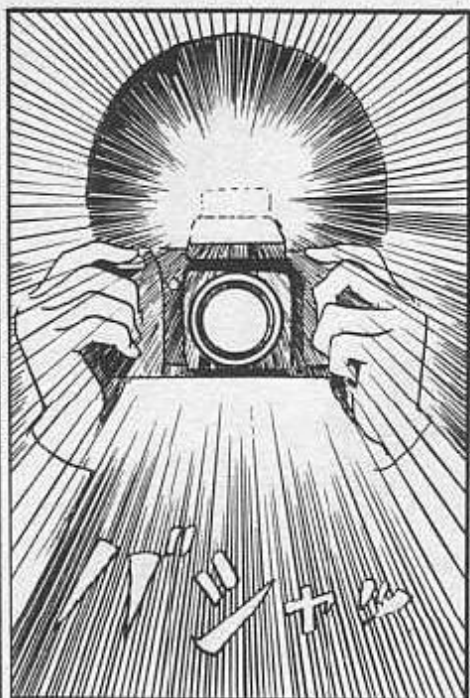
月子君……
お願いだ……
ぜひとも
実験台に

ウフフフ

?

グワッ

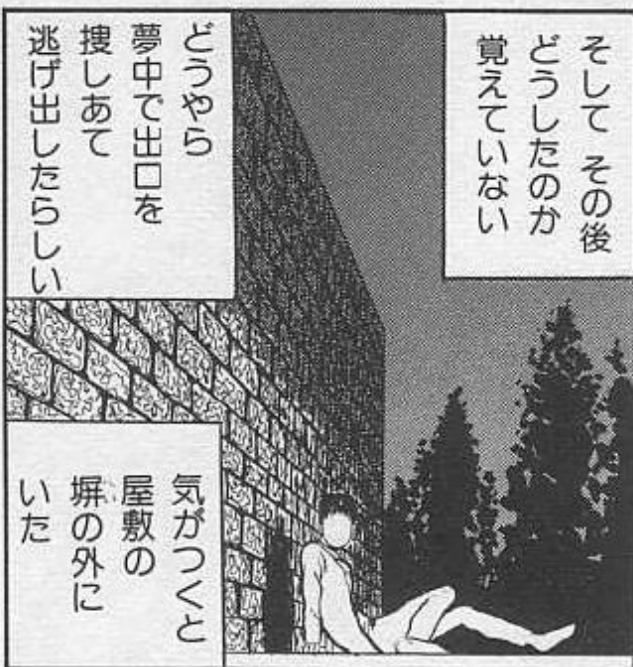
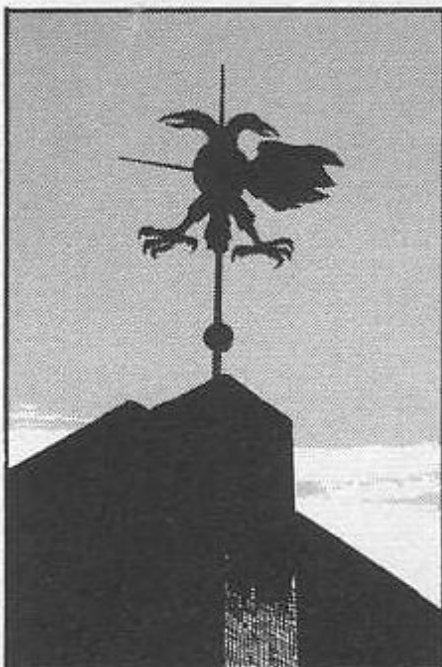
×××××



そしてその後
どうしたのか
覚えていない

どうやら
夢中で出口を
捜しあて
逃げ出したらしい

気がつくと
屋敷の
塀の外に
いた



警察が足を
ふみ入れた時は

すでに屋敷は
もぬけのから
で……

二階から
やせ衰えた
老人が救出
された他は
何も見つから
なかった

あの連中は
どこへ
行ったのだろう
……
そして
あの怪物は……



私が撮った
写真のフィルムは
警察の手に
渡ったが

ただ一枚だけ
階段を写したものが
あつたが富江や
怪物の姿はなく

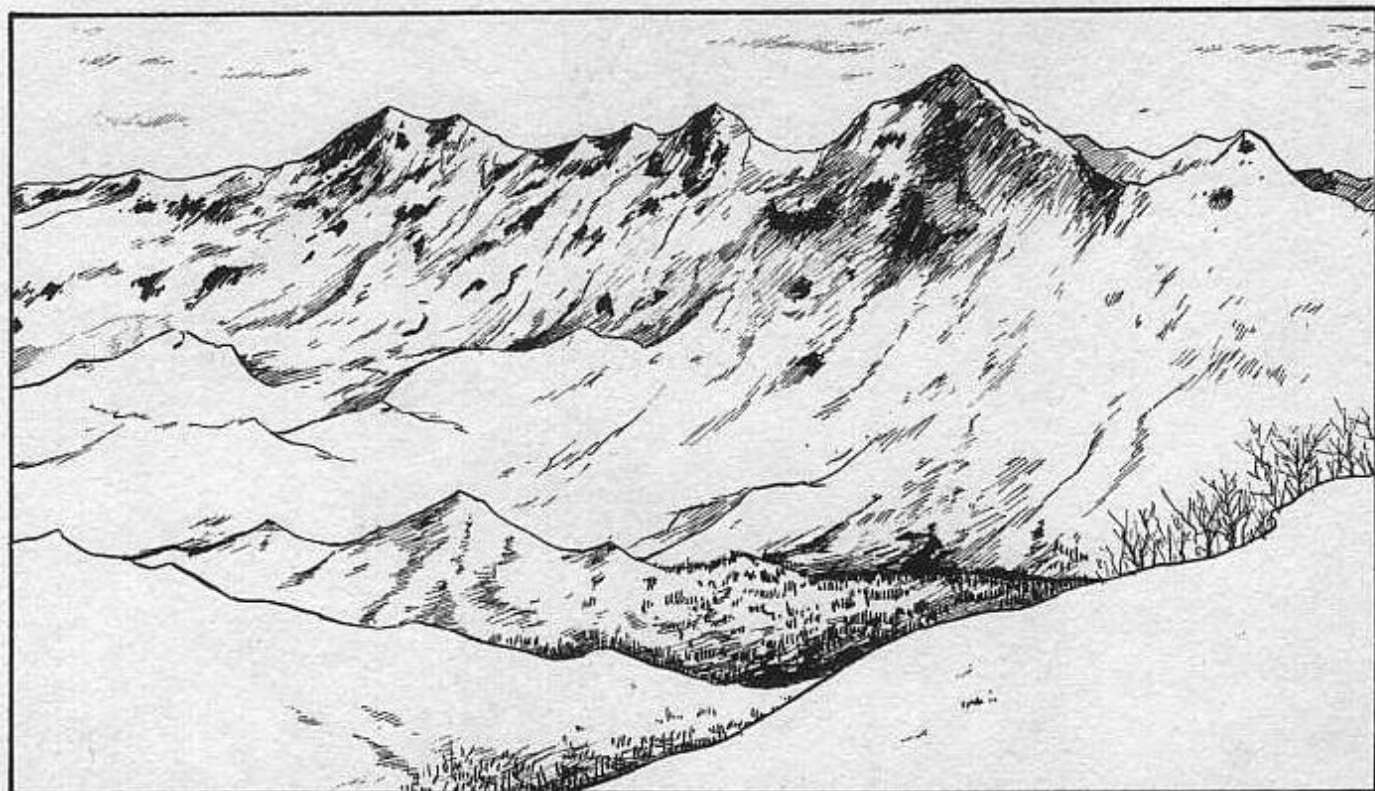
そこには
悲しげな
女性がひとり
写っていた

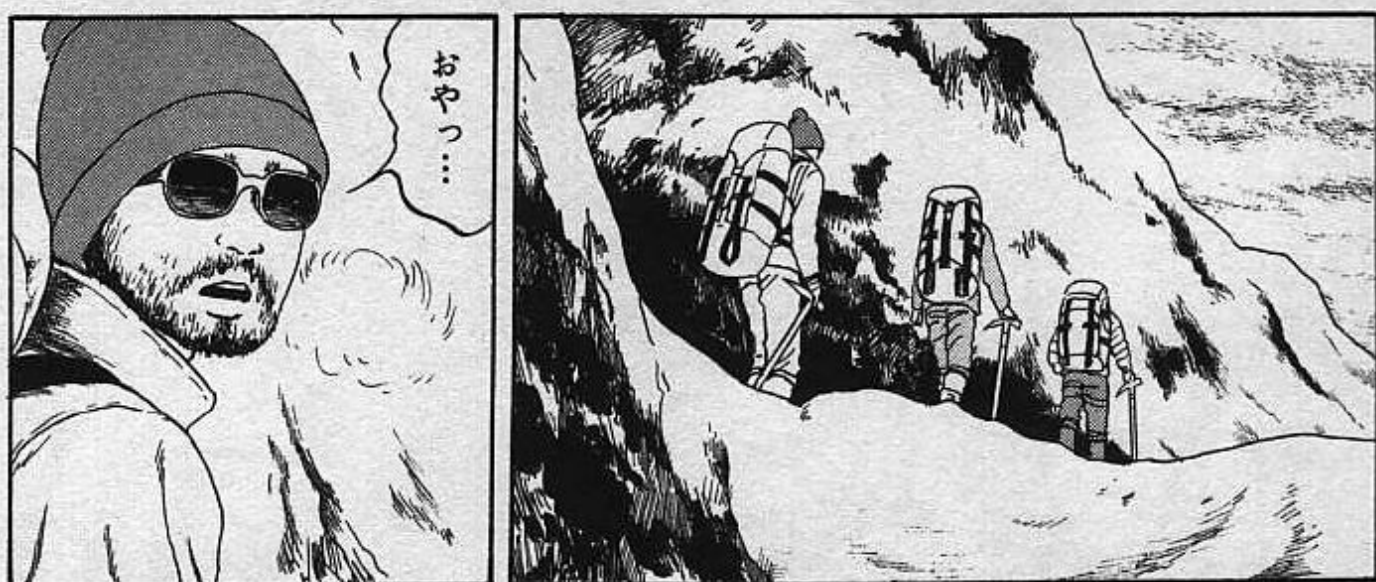
現像したところ
まともに写った
写真は
ほとんどなかった



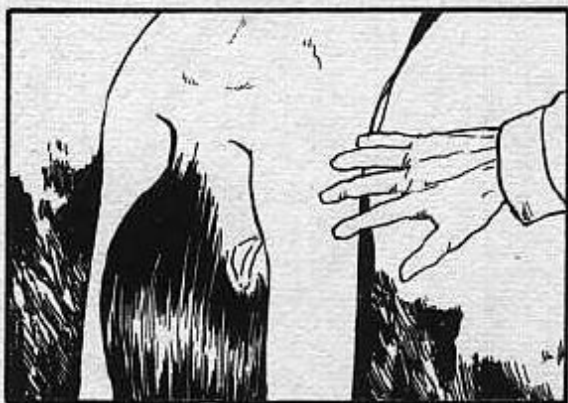
とみ え リ ベ ン ジ
富江・復讐



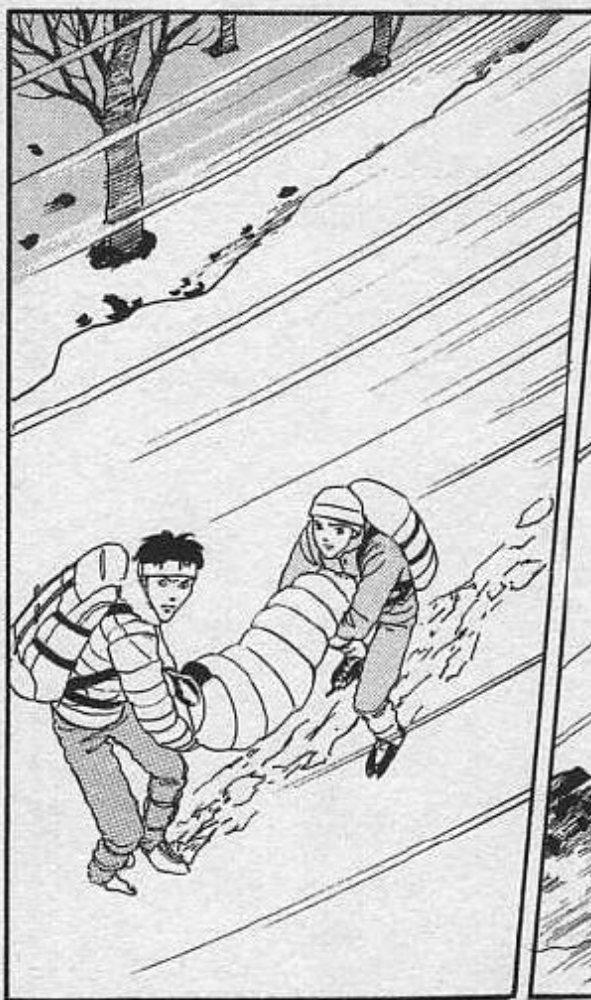
















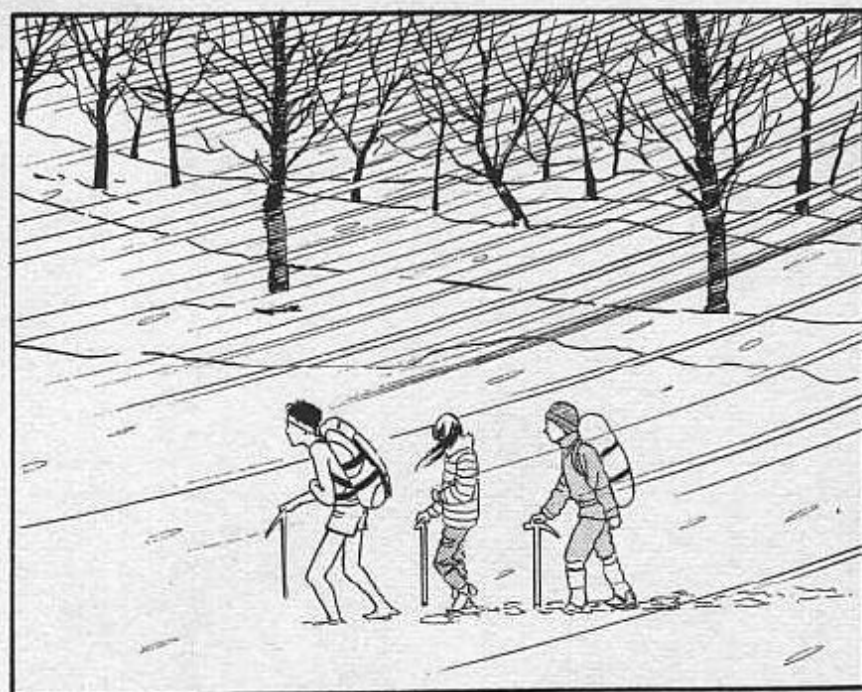
大丈夫だ！
さあ行こう



ばかな…
この寒さで
そんな格好じゃ
山小屋まで
もちませんよ!!



ああ…
大丈夫
さ…



君
歩ける
か？

コックリ

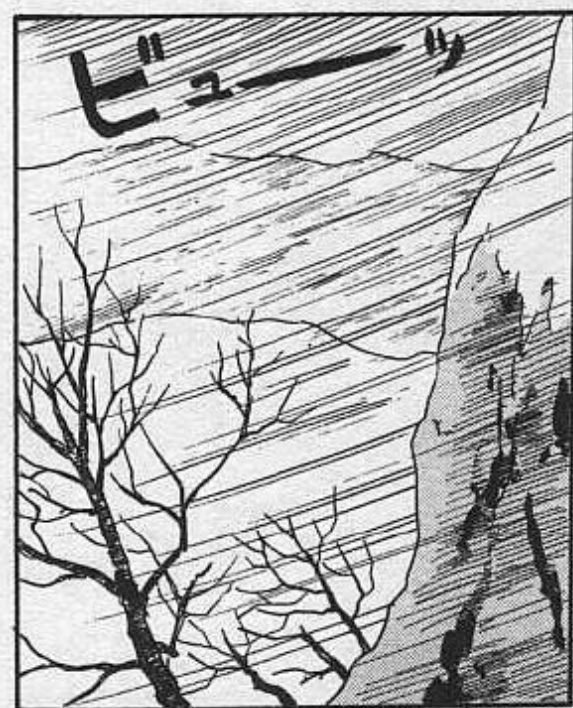


浜口さん
大丈夫ですか!?

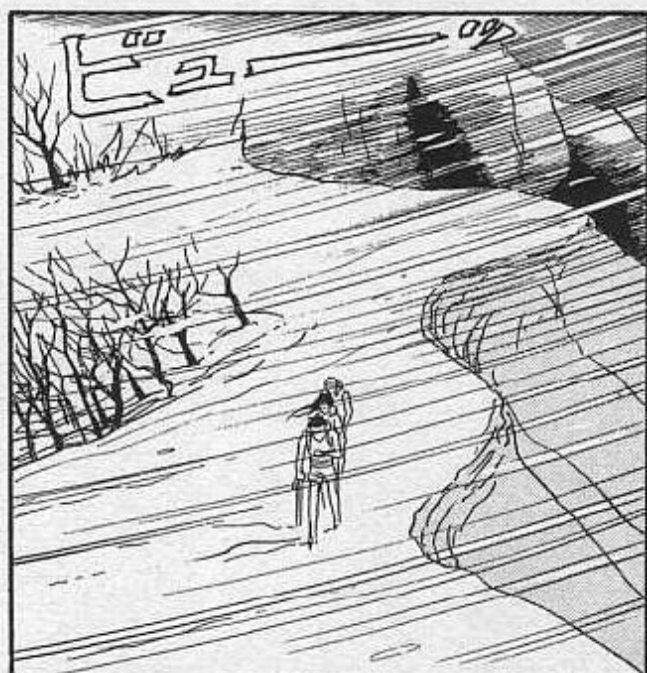


ぶる
ぶる
ぶる

ぶる
ぶる







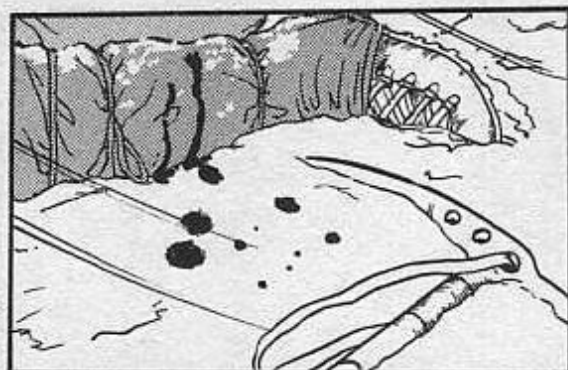


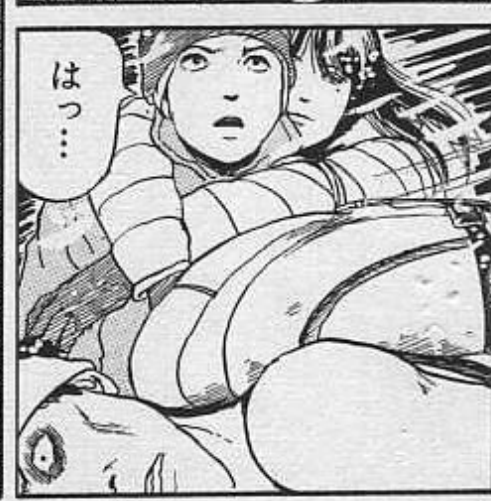
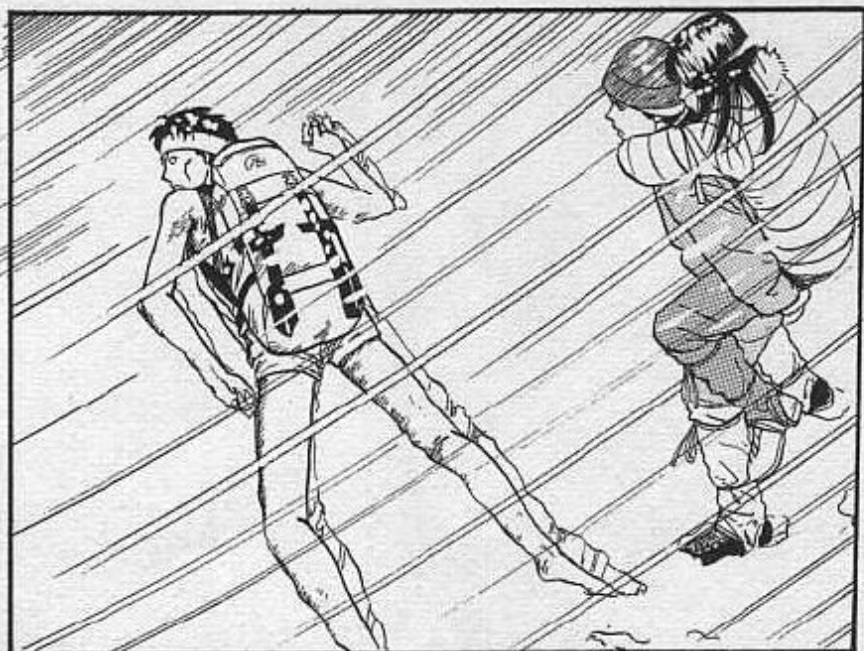


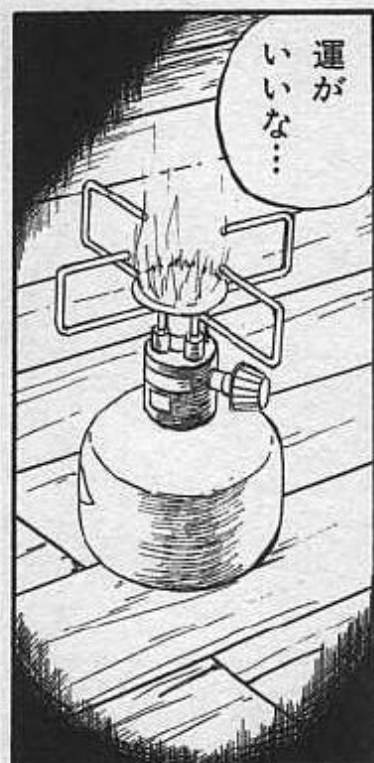


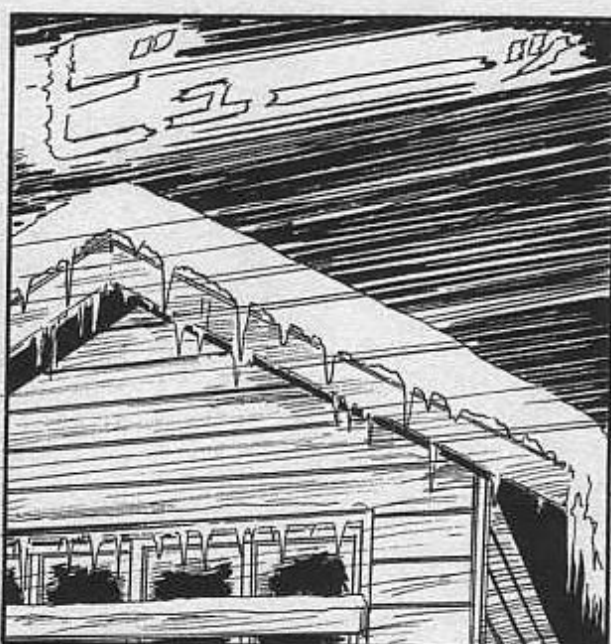














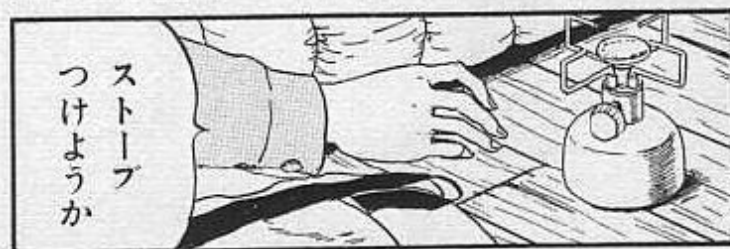
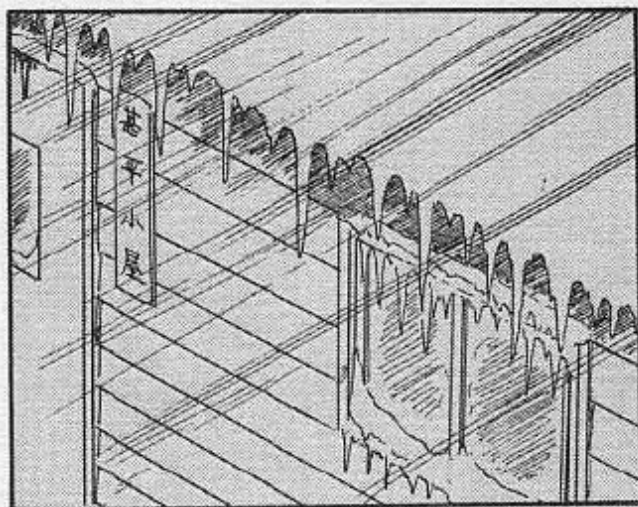
…とにかく
もしそれが
兄貴なら
この山で遭難
してるかも
知れないんだ

しかし届出も
なしに一人で
登るなんて
初めてのことで
浜口さんも
首をかしげて
いたよ



実際 兄貴は
この辺の山は
よく登っていた
…さっきまで
一緒だった
浜口さんや
土井さんは
実は兄貴の
登山仲間で

彼らと
よく登ってた
らしい



ストーブ
つけようか



ふう…
寒いわ



私…あの男に
復讐してやるの
…その一心で
蘇ったのよ
……

彼…
私を見たら
びっくりする
かしら…

バラバラにして
捨てたはずなのに
……

…幽霊だと
思うかしら…

…この女…
頭がおかしく
なりかけてる
のか？…

だから私
あなたと二人きりに
なりたかったの
……
やっとなれたわ

どうしてかしら…
こんなに憎んでるのに
まだあの人を愛して
いるのかしら…

あなた…
あの人に
似てる…

目元なんか
特に……

あの人の
名前
……
哲也って
いうの

谷村哲也
たにむらてつや







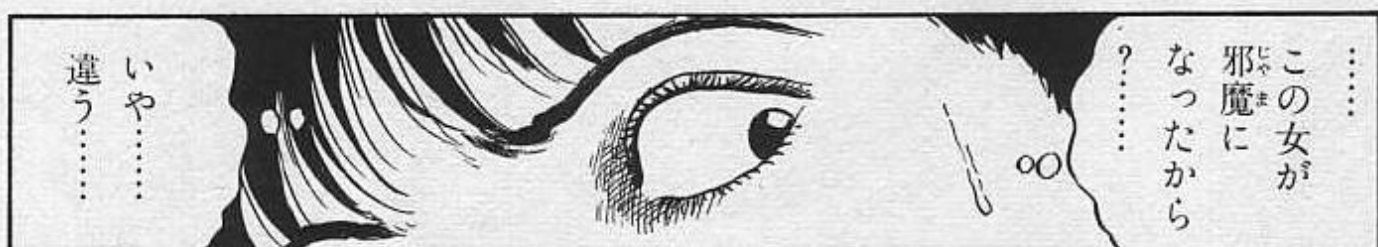
さっきこの女は
バラバラに
されたと
言っていたが…

本当のこと
かも
知れない



…兄貴は本当に
この女をバラバラに
したのかも知れない

そして人知れず
この山に捨てに
来たのかも
知れない……



……
この女が
邪魔に
なったから
?……

いや……
違う……



……
俺は何を
考えてるんだろう
……だったら今
目の前にいるこの女は
一体何なんだ?

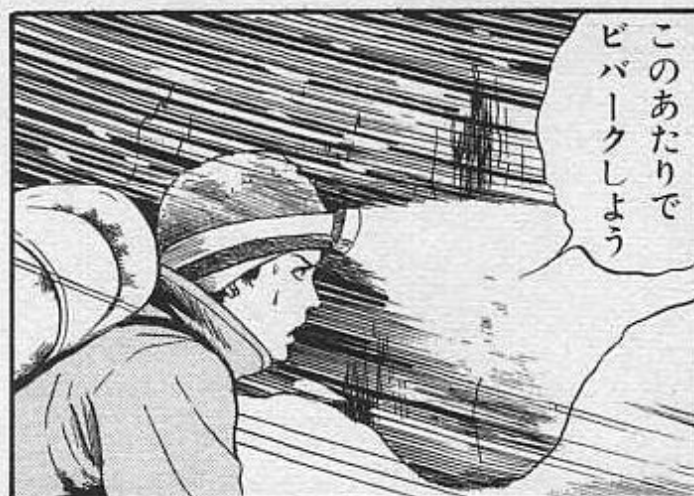


兄貴は
衝動にかられて
やったんだ……
やむにやまれず
……
ガサガサ
愛していたから
こそ
やったんだ……













瀧

たき つほ

壺



山の奥にある
小さな村



その村からさらに
一キロ程山を登ると
わりと大きな滝が
ある



この滝が
自殺の名所と
なつたのは
ごく最近の事
だ



それら一連の事件は
ある男が村に現れた
後に起こつたと
いわれている



そしてその後に
村を襲つた
身の毛もよだつ
出来事……







そんな方にぜひ
おすすめしたいのが
これなんです



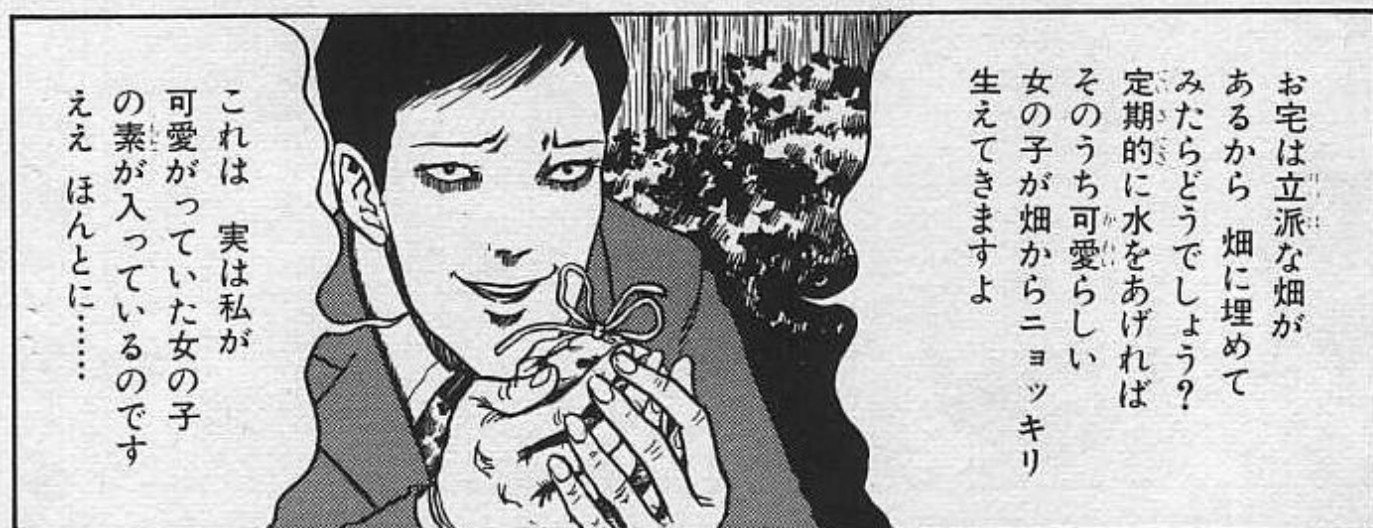
それはお淋しい
……
こういう村では
どこも若者が
出て行ってしまっ
てお困りのよう
ですよ……

だから
どうした
のさ



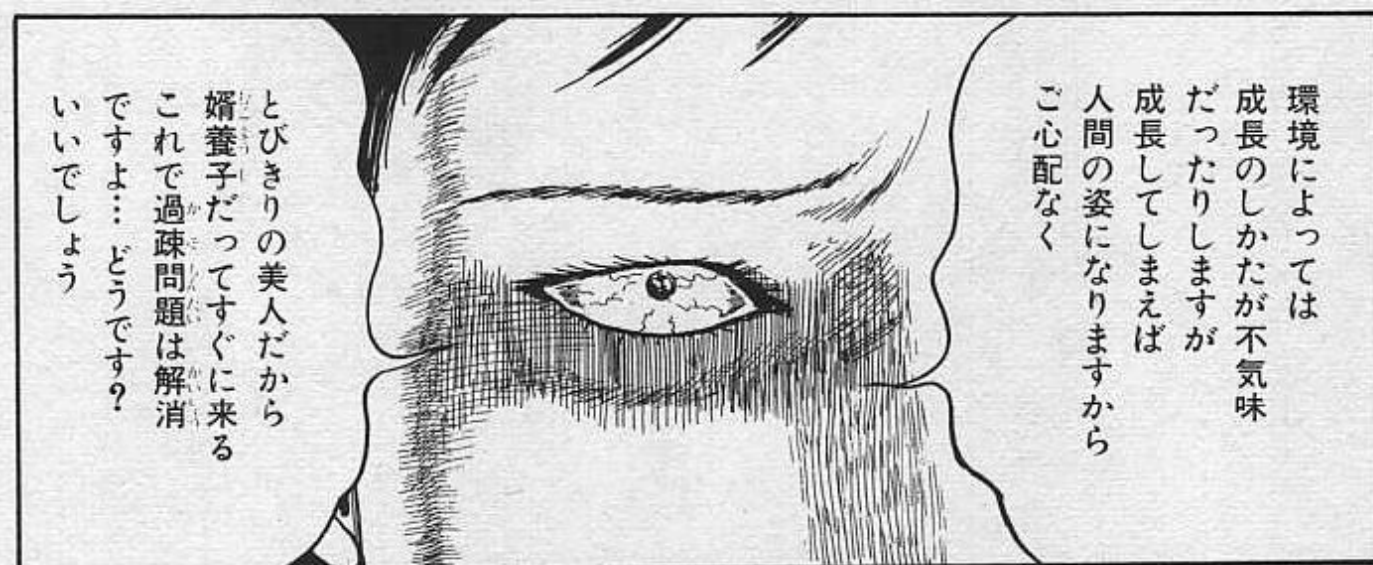
これ
です

何だい
その包み
は



お宅は立派な畑が
あるから 畑に埋めて
みたらどうでしょう？
定期的に水をあげれば
そのうち可愛い
女の子が畑からニョッキ
生えてきますよ

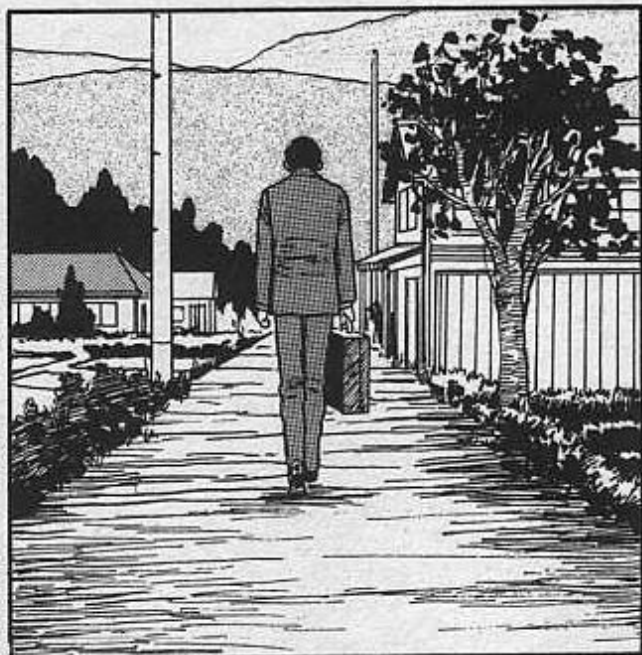
これは 実は私が
可愛がっていた女の子
の素が入っているのです
ええほんとに……



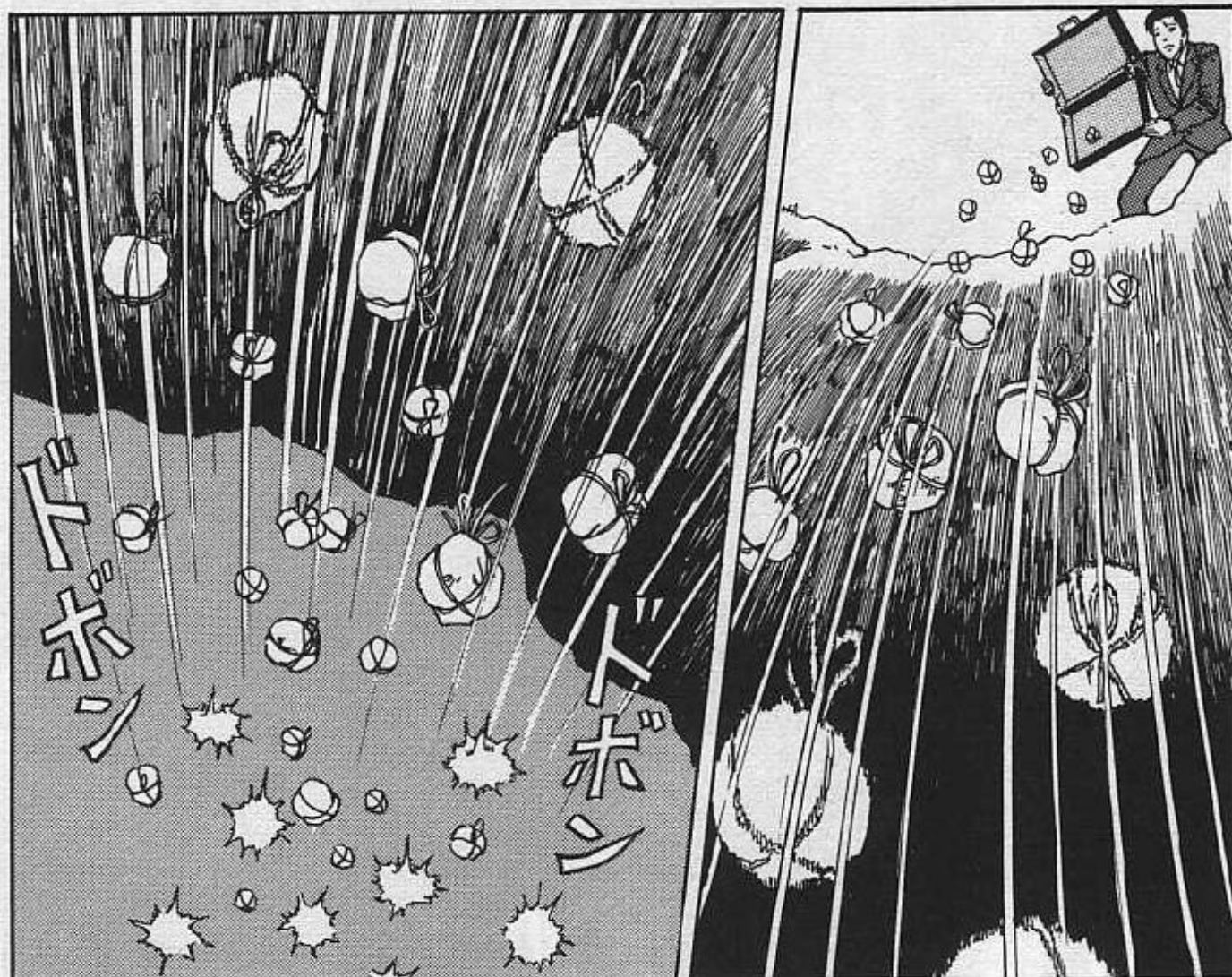
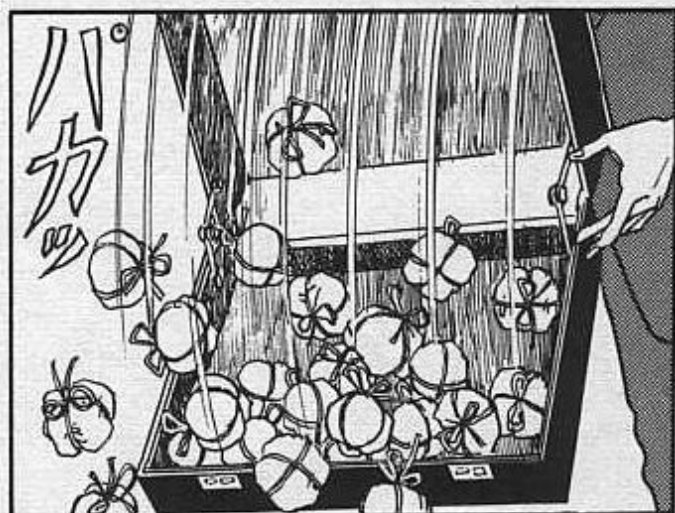
環境によっては
成長のしかたが不気味
だったりしますが
成長してしまえば
人間の姿になりますから
ご心配なく

とびきりの美人だから
婿養子だってすぐに来る
これで過疎問題は解消
ですよ…… どうですか？
いいでしょう

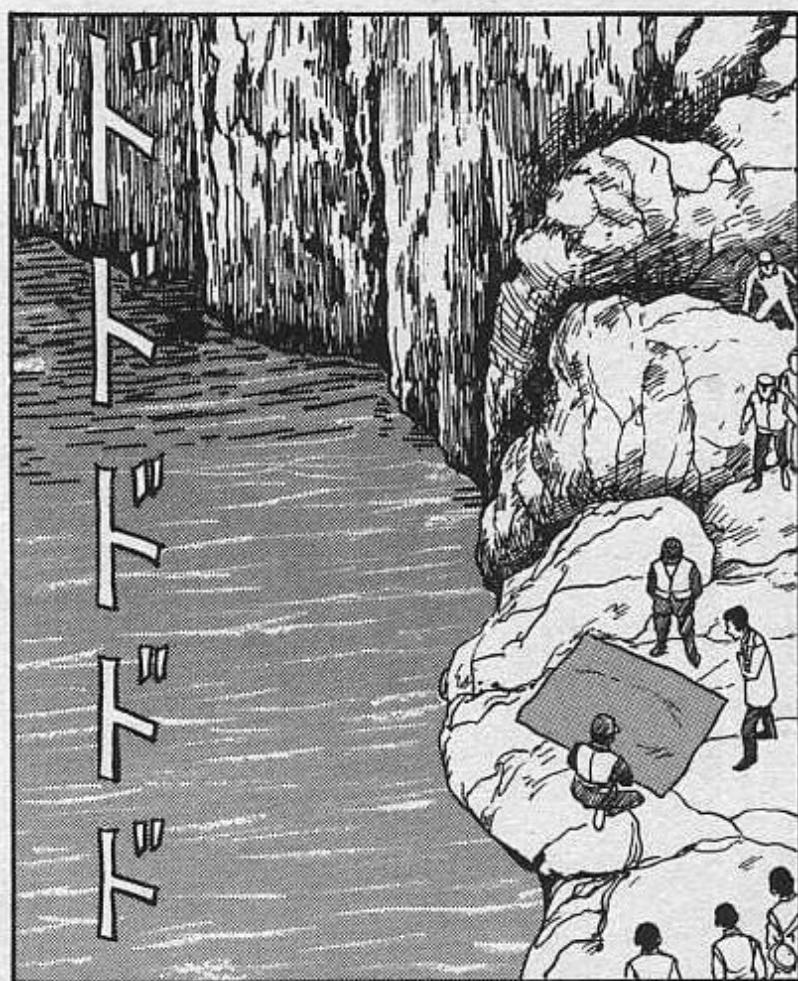
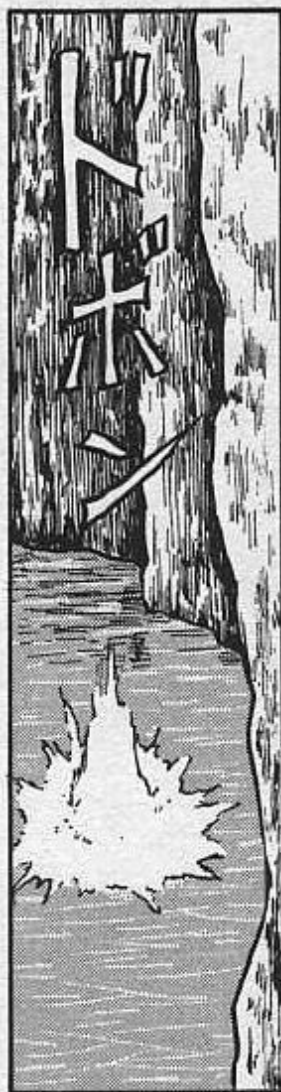


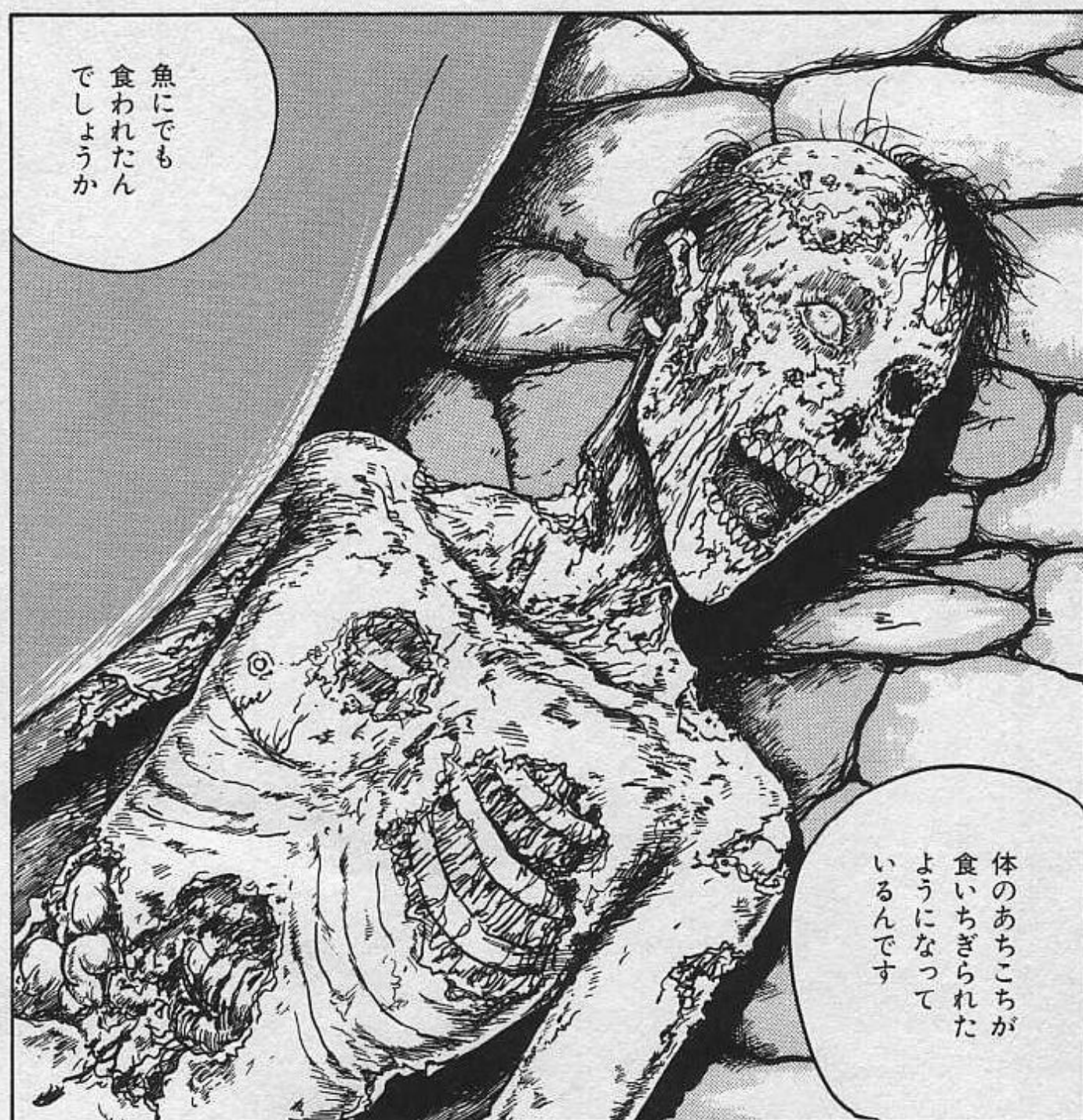














おい本当に
ここで
釣るのか?



その後も
自殺者が
出たが

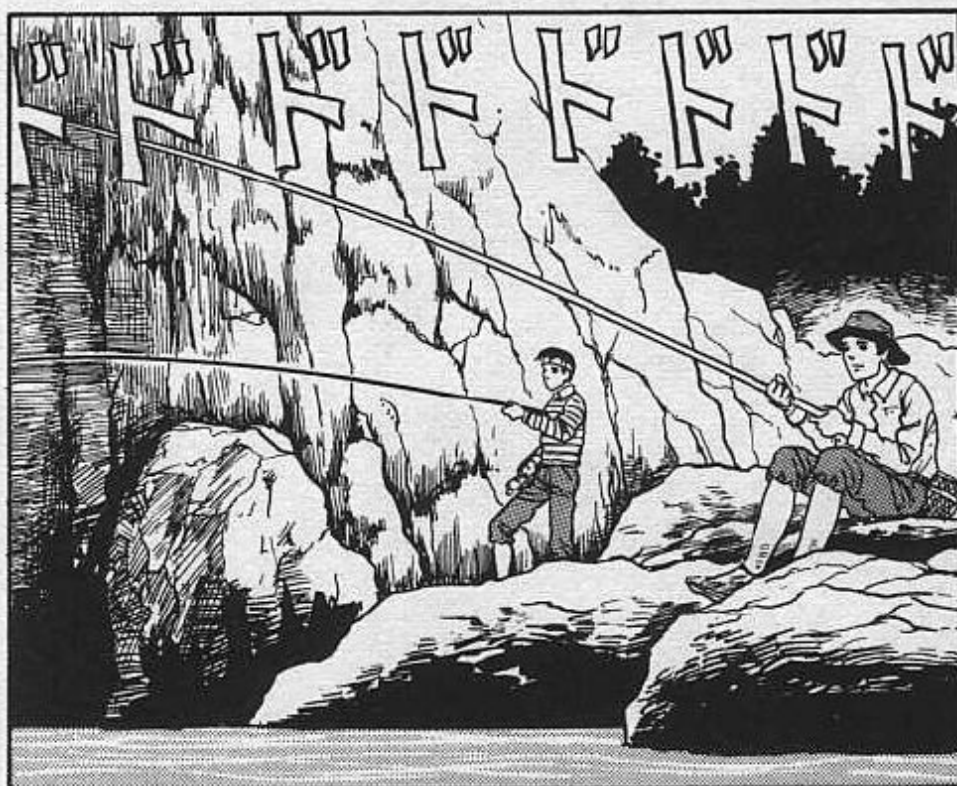
もう一度よく
考えよう。
あの世は暗く、
そして寒い

妙な事にこの滝に
飛び込むのは
若い男に限られて
いたという



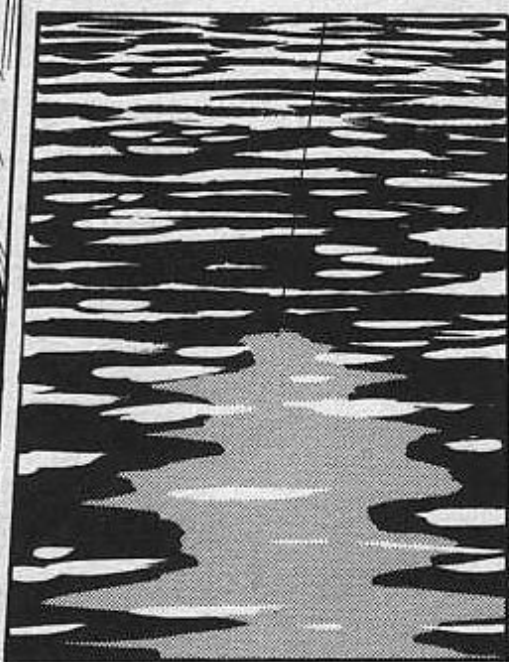
でも気味悪いなあ
自殺の名所で
釣りなんて

そうさ ここには
得体の知れない魚が
いるらしいぞ

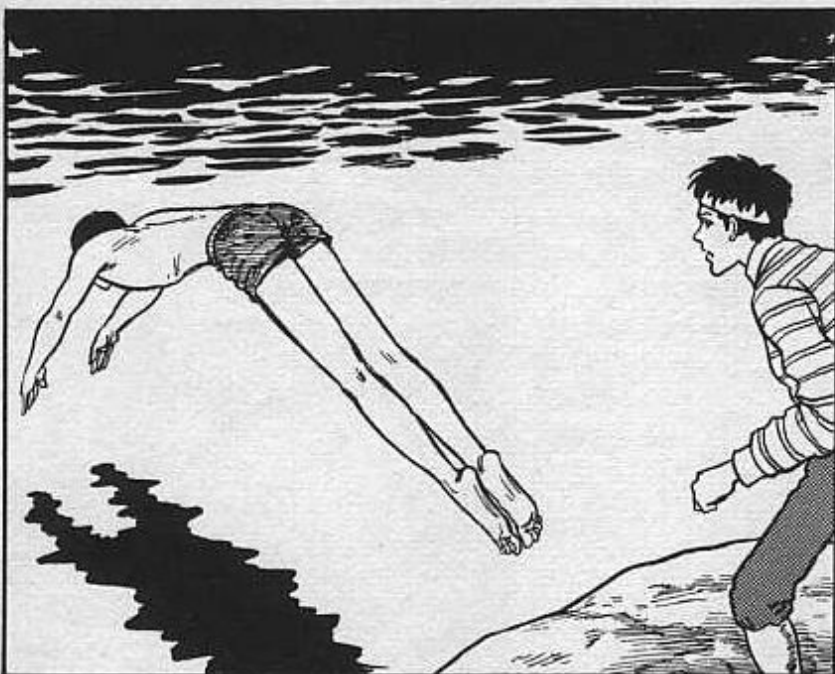


へへっ…
気にしない
気にしない









しかし…



水に
飛び込んだ
釣人が何分
たつても
上がってこない
ので…

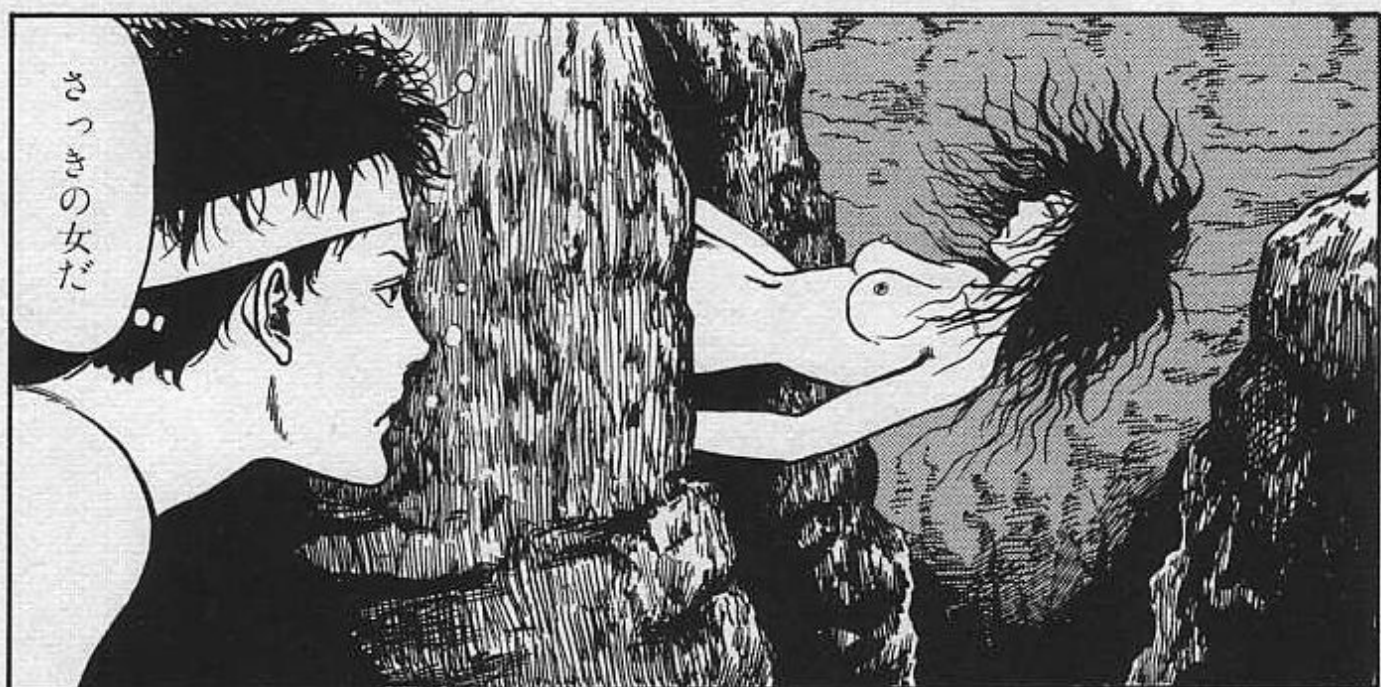


やっべえ



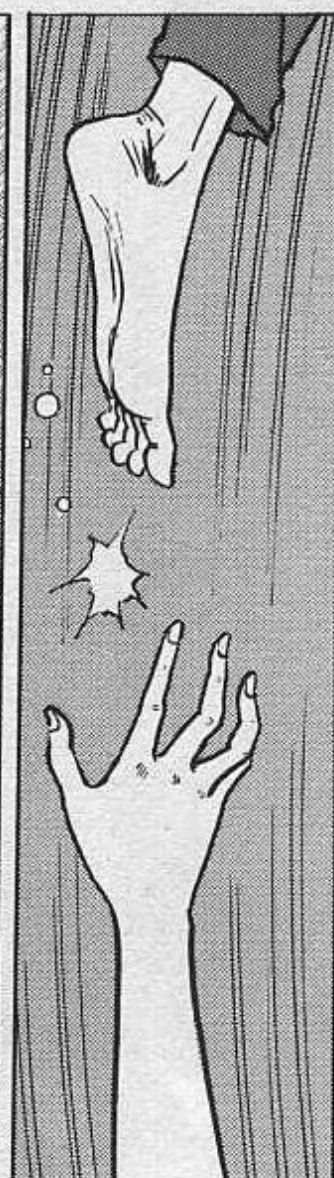
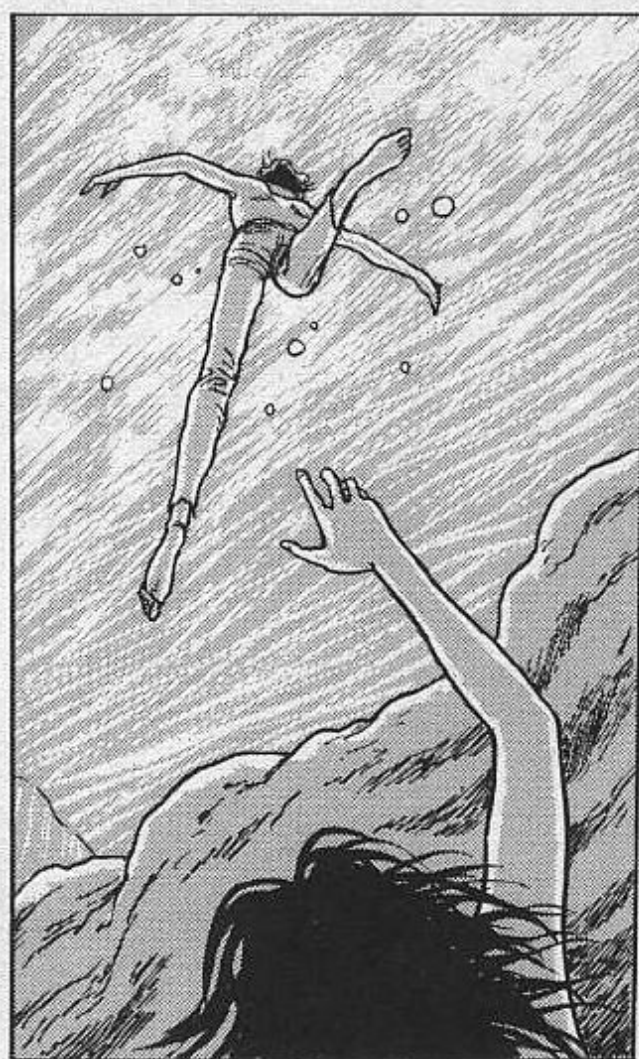
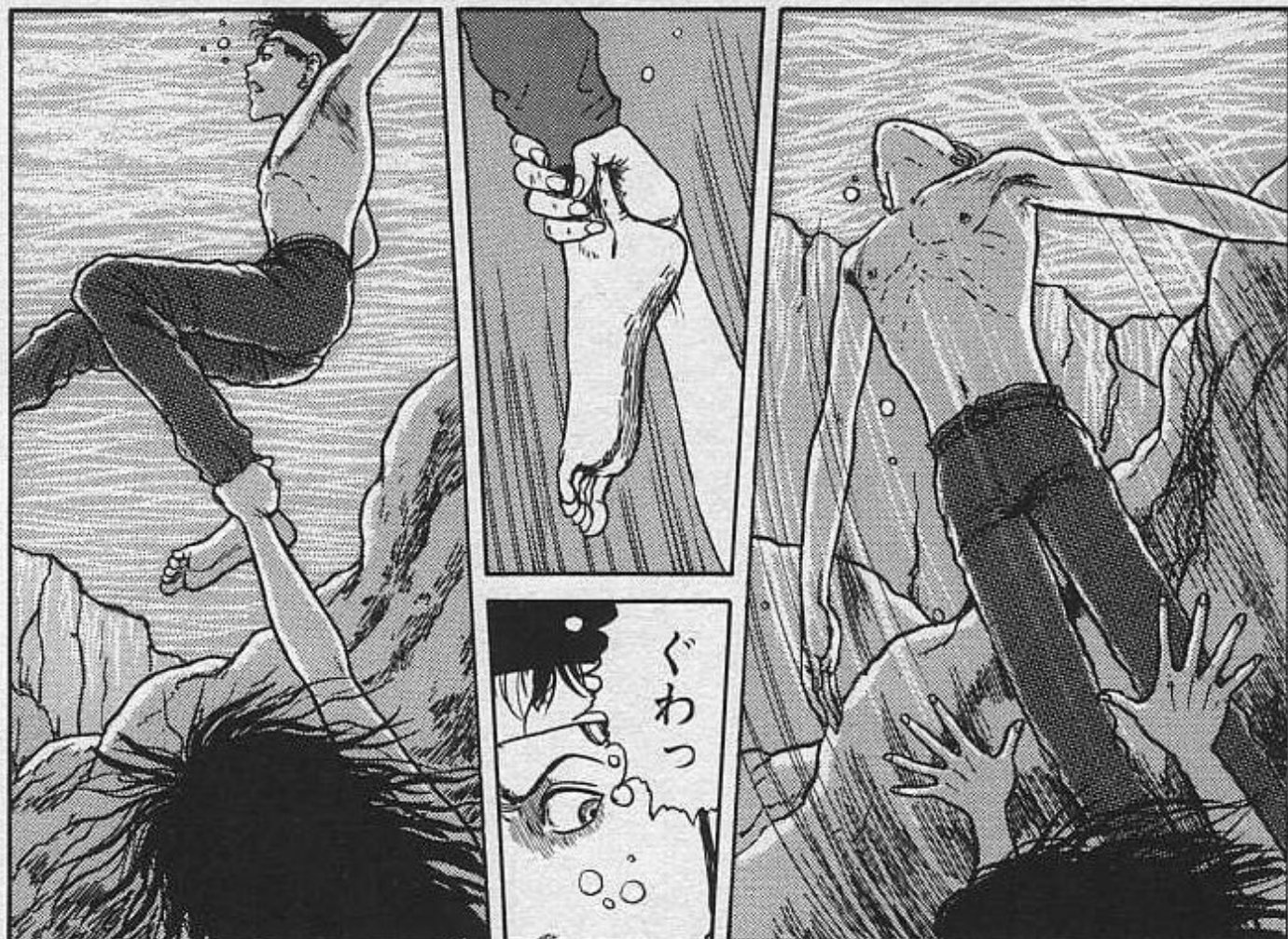
心配になつた
もう一人も水に
飛び込んだという













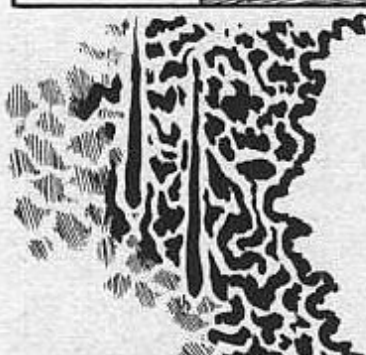
その話を信じる者は
いなかったという

しかしなぜか釣人の言う
恐ろしい女達は
どこにも見あたらず



釣人の証言に
基づいて
淹壺が搜索
され

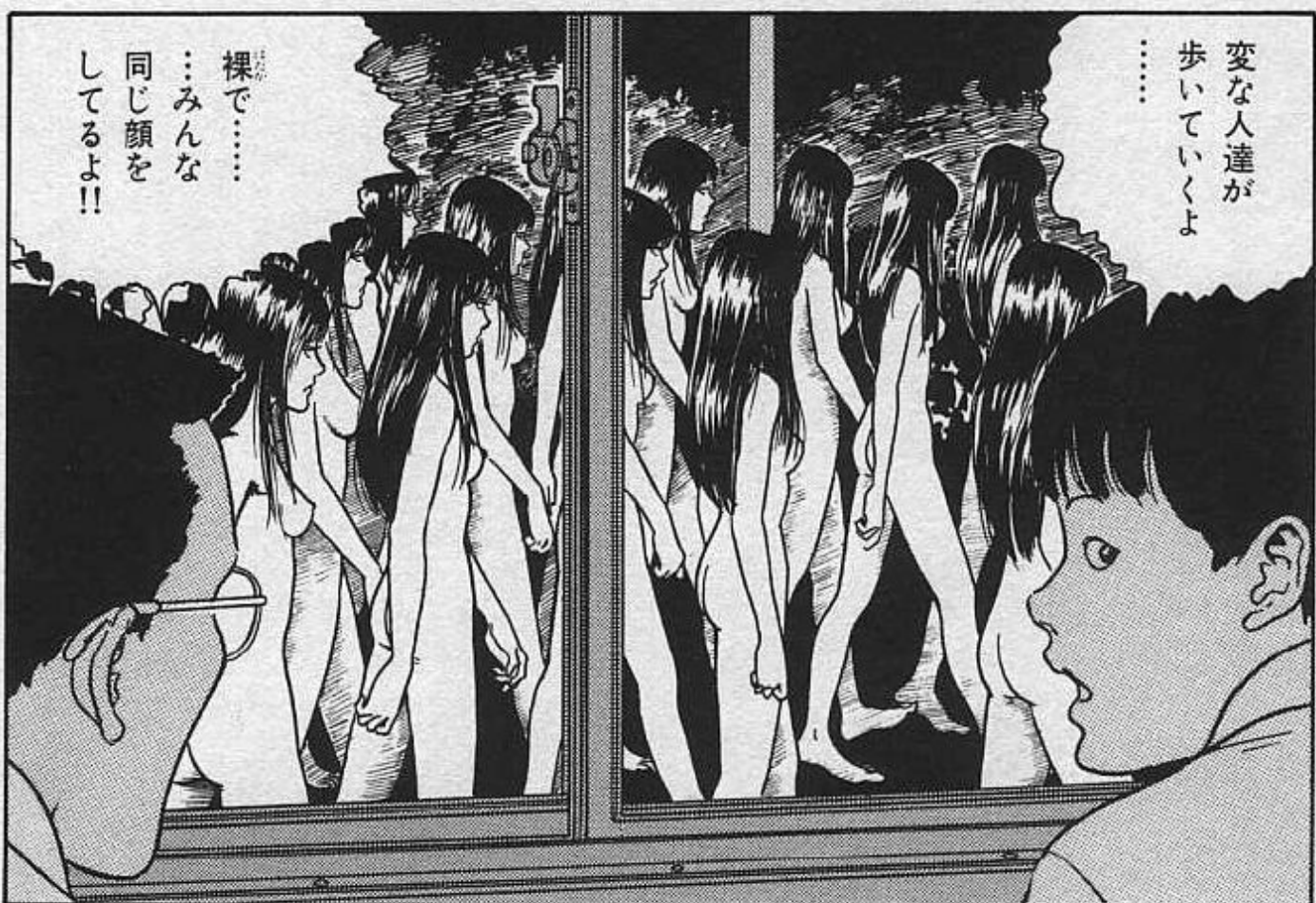
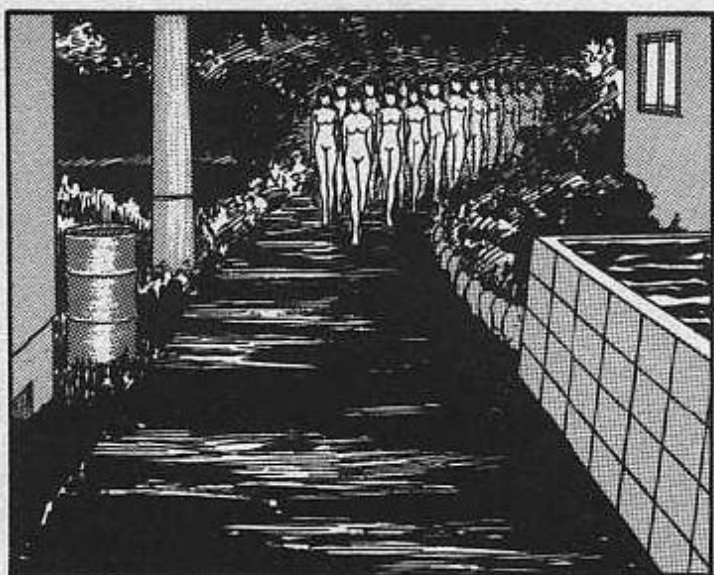
連れの釣人の
無残な死骸が
見つかった



身の毛も
よだつ
光景が
村の人々を
震えあがらせ
たのは
それから
しばらくして
からだつた
という

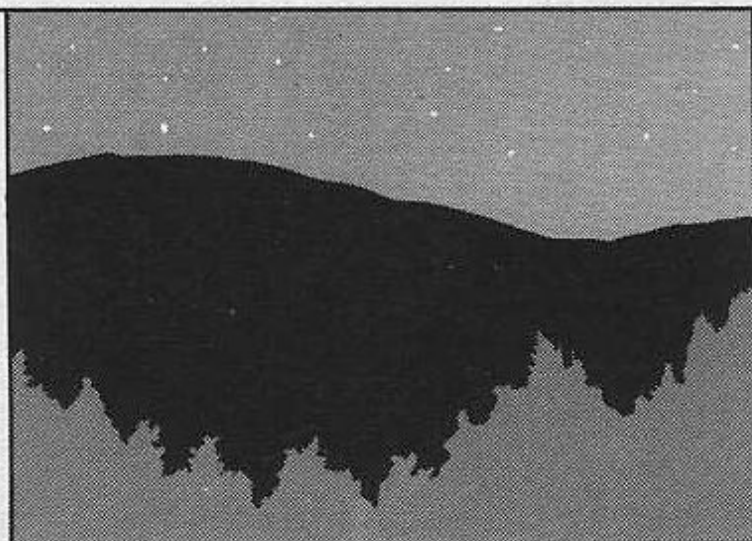








多くの村人が
この不気味な行進を
目撃したという



この妙な集団はやがて
散り散りになつて
夜のやみに消えていった
ということだ

＜ あとがき ＞

私が中学生の時、同級生のK君が亡くなりました。小さな田舎町での交通事故死は珍しい上に、顔なじみの同級生が突然この世の人ではなくなったという事実には私達は大変なショックを受けました。

葬式が終わっても、しばらくは皆口々に「信じられない」と話し合ったものです。私はその時、死んだK君がひょっこり学校にやって来ても不思議でないような気がしました。

『富江』はこの時の思いがもとになっています。

ところで富江の細胞が増殖して、その個体数が増えるというアイデアはあまり自慢できるものではありません。なぜならこれは、私の尊敬する楳図かずお先生がすでに同様のテーマで描いておられるからです。

富江シリーズに独自のものがあるとすれば、それは男達が無意識に富江を増殖させてしまうという所でしょう。これは当時第1作を読んだ職場の先輩Hさんから富江殺害に級友全員が加わる理由づけが弱いと指摘され、それを受けて考えた苦しまぎれの設定です。そんな行きあたりばったりの状況で描き継いだ本シリーズは無理の多い稚拙な（ちせつ）ものですが、しかしこれがなかったら、おそらく今日まで漫画を続けられなかったかも知れず、私にとっては大切なものとなりました。

最後になりますが、今回私の作品集の新装版を出すにあたり、今まで応援して下さった読者の皆様をはじめ、ハロウィン編集部の皆様、特に『富江』以来すべての作品にアドバイスを下さっている原田利康様に心より感謝の意を表します。

1997年9月

伊藤潤二

伊藤潤二恐怖マンガCOLLECTION①
富江

平成9年10月30日第1刷発行
平成12年8月5日第7刷発行

著者……伊藤潤二

©Junji Ito

発行人……君島志郎

印刷……フォト印刷株式会社

製本……光和製本株式会社

発行所……株式会社朝日ソノラマ

〒104-0061 東京都中央区銀座6-11-7 オリコミビル

TEL (3572) 3180 (営業) (3572) 3190 (編集)

振替 000120-6-40311

ASAHI SONORAMA Printed in Japan

乱丁、落丁がありましたらおとりかえいたします。

ISBN4-257-90313-9